

ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落
の空間構成に関する比較研究

—四川省カンゼチベット族自治州を対象として—

2023 年

奈良女子大学大学院

人間文化総合科学研究科博士後期課程 社会生活環境学専攻

王 雪桔

目次

第1章 序論

1.1 研究背景	1
1.2 研究目的	1
1.3 既往研究と本研究の位置付け	2
1.3.1 既往研究	
1.3.2 本研究の位置付け	
1.4 研究方法と調査概要	6
1.5 論文構成	8

第2章 カンゼチベット族自治州について

2.1 本章目的	15
2.2 チベット族について	15
2.2.1 チベット族の基本状況	
2.2.2 チベット族の支系	
2.2.3 チベット族の宗教、言語、文学、医学、葬式	
2.3 カンゼチベット族自治州について	16
2.3.1 カンゼチベット族自治州の基本状況	
2.3.2 カンゼチベット族自治州に分布するチベット族支系	
2.3.3 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族の民族起源	
2.4 調査集落	18
2.5 まとめ	19

第3章 ギャロンチベット族集落の空間構成

3.1 本章目的	21
3.2 調査地概要	21
3.3 集落の概要	22
3.3.1 集落の平面	
3.3.2 集落の断面	
3.4 集落の空間構成	29
3.4.1 集落の地形的特徴	
3.4.2 集落と国道の関係及び水源	
3.4.3 公共施設の分布と集落中心地	
3.4.4 集落と川の位置関係及び水源	
3.4.5 集落の入口	
3.4.6 集落と隣村の関係	
3.4.7 住宅、農地と牧地の分布	
3.4.8 集落の宗教信仰	
3.4.9 集落と望楼	
3.5 集落分類と集落空間構成	44
3.5.1 傾斜度と集落面積から見た集落の分類	
3.5.2 集落範囲、川と国道から見た集落分類	
3.6 集落空間構成と集落分類の関係性	45
3.7 まとめ	45
3.7.1 ギャロンチベット族集落空間構成の特徴	
3.7.2 集落空間構成と集落分類の関係性	

第4章 ムヤチベット族集落の空間構成

4.1 本章目的	51
4.2 調査地概要	51
4.3 集落の概要（平面、断面、集落③について）	52
4.3.1 集落の平面	
4.3.2 集落の断面	
4.3.3 集落③について	
4.4 集落の空間構成	61
4.4.1 集落の地形的特徴（平面）	
4.4.2 集落の地形的特徴（断面）	
4.4.3 道路の種類及び集落と国道の関係	
4.4.4 公共施設の分布と集落中心地	
4.4.5 集落と川の位置関係及び水源	
4.4.6 集落の入口	
4.4.7 集落と隣村の関係	
4.4.8 住宅、農地と牧地の分布	
4.4.9 宗教について	
4.5 集落範囲、川と国道の位置関係から見た集落の分類	73
4.6 まとめ	73
4.6.1 調査したムヤチベット族集落空間構成の特徴	
4.6.2 集落分類と特徴	

第5章 カンパチベット族集落の空間構成

5.1 本章目的	77
----------	----

5.2	調査地概要	77
5.3	集落の概要	79
5.3.1	集落の平面	
5.3.2	集落の断面	
5.4	集落の空間構成	89
5.4.1	集落の地形的特徴（平面）	
5.4.2	集落の地形的特徴（断面）	
5.4.3	道路の種類及び集落と国道の関係	
5.4.4	公共施設の分布と集落中心地	
5.4.5	集落と川の位置関係及び水源	
5.4.6	集落の入口	
5.4.7	集落と隣村の関係	
5.4.8	住宅、農地と牧地の分布	
5.4.9	集落の宗教信仰及び集落と寺の位置関係	
5.5	集落範囲、本川と国道から見た集落分類	102
5.6	まとめ	103
5.6.1	地形的特徴	
5.6.2	集落内部の特徴及び隣村との関係	
5.6.3	集落分類	
5.6.4	普遍的な特徴	

第6章 結論と今後の課題

6.1	各章の要約	107
6.2	ギャロン、ムヤ、カンバチベット族	

集落空間構成の普遍的な特徴、共通点及び相違点	110
6.2.1 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成の普遍的な特徴	
6.2.2 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成普遍的な特徴の共通点	
6.2.3 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成の相違点	
6.3 今後の課題	115

資料

本論に関する公表・投稿論文一覧

謝辞

第 1 章

序論

第1章 序論

1.1 研究背景

中華人民共和国は、14億以上の人口を擁する多民族国家として、漢民族人口が12.9億であり、総人口の91.11%を占めている。少数民族人口が1.25億であり、総人口の8.89%を占めている。現在の中国には56の民族が存在している^{注1)}。チベット族を含め、人口が100万人を超えている少数民族が18である^{1)、注2)}。チベット族はチベット自治区を中心に、中国西南部に分布している。2010年の全国人口調査によると、チベット族の総人口は628.2万人である。

少数民族が生活地域、習慣により、各々民族特色を持つ集落が形成されている。現存の少数民族集落は時代とともに変化している。中華人民共和国国家民族事務委員会（下記「国家民委」）が少数民族集落の続存、保護に関する事業をしている。2012年から実施された「少数民族特色村寨保護与発展規劃概要」²⁾により、少数民族が集住（少数民族人口が多数を占めている）、生活生産機能が完備、少数民族の特徴あるいは集落特徴が明らかに表現している集落は少数民族特色村寨を指定されている。概要は少数民族特色村寨の保護と今後の発展計画を述べた。また、国家民委では、現存している数多くの少数民族特色村寨から、民族特色を持つ、伝統な様態を保存している集落を「第一回中国少数民族特色村寨名録」³⁾（2009年）、「第二回中国少数民族特色村寨名録」⁴⁾（2017年）「第三回中国少数民族特色村寨名録」⁵⁾（2020年）に登録して、公式ホームページで発表した。また、多民族が集中している中国西部を開発対象としている「西部大開発」に関する政策——「中共中央国務院关于深入实施西部大開發戰略的若干意見」⁶⁾を従って、少数民族特色村寨の保護と発展が徐々に進んでいる。

チベット族集落の保護に関する政策と条例は以下の二つがある。チベット自治区はラサ市に所属している歴史が長い、文物と古建築が多数に集まっている古村落を対象として、「ラサ市古村落保護条例」⁷⁾を実施している。カンゼチベット族自治州が州内チベット族伝統集落を対象として、2022年から「カンゼチベット族自治州伝統村落保護及び利用条例」⁸⁾を実施し始めた。

1.2 研究目的

本研究では、カンゼチベット族自治州に居住しているギャロン（嘉絨）チベット族、ムヤ（木雅）チベット族、カンバ（康巴）チベット族を対象として、チベット族支系の集落空間構成に関する調査をして、以下の2点を検討する。

①複数集落を調査することで、同じ地域に居住しているギャロン、ムヤ、カンバチベット族支系の集落空間構成の特徴を明らかにする。

②ギャロン、ムヤ、カンバチベット族支系空間構成の普遍的な特徴、共通点と相違点を明らかにする。

1.3 既往研究と本研究の位置付け

1.3.1 既往研究

(i) 四川省チベット族に関する研究(住居、民俗学、民族学、宗教)

四川省チベット族の住居に関する研究として、井上えり子がチベット族の1~2集落を取り上げ、住居の構成図を作成し、住居の空間構成を明らかにしている^{9), 10)}。井上えり子、筒井るみ子、松原恵子、倉田尚美、小田愛子、大沢さおりでは、同じく住居の構成図を作成し、木雅チベット族の住宅空間構成と住宅の構法を明らかにしている^{11), 12)}。柳原亜紀、井上えり子、岩崎聡子では、現地調査を通じて、カンゼチベット族自治州道孚県に居住しているカンバチベット族の住居平面構成(集落配置図、住居図面、住居平面図、住居断面図、展開図、平面模式図)を明らかにしている¹³⁾。本間健太郎、橋本憲一郎、沖野優、藤井明では、四川省と雲南省のカンバチベット族集落を調査対象として、現地調査(住居配置と住居内部の実測)を通じて、住居の平面図を作成し、当地多民族の多様な住居形態を明らかにしている¹⁴⁾。

また、吳体、凌程建、高永昭、周敏では、丹巴県甲居蔵寨にあるギャロンチベット族住居を調査対象として、住居の平面特徴、土台特徴、屋根特徴などの面からギャロンチベット族住居の構造を明らかにしている¹⁵⁾。范霄鵬、王天時では、甲居蔵寨ギャロンチベット族住居を調査対象として、住居の間取りと内部装飾の特徴を明らかにする¹⁶⁾。謝嬌では、甲居蔵寨ギャロンチベット族住居の立地と建造の特徴、平面形態特徴、外見と内部の空間形態特徴、装飾の面から分析を行って、多専攻から甲居蔵寨の住居特徴を明らかにして、今後の住居に関する保護提案を挙げる¹⁷⁾。李軍環と陳媛では、住居の空間構成、構造、耐震から調査を行って、可持続発展に着目して、今後の伝統住居修復に意見を述べる¹⁸⁾。李軍環、王純と靳亦冰では、ギャロンチベット族伝統住居の変遷に関する研究を行っている¹⁹⁾。黎士民では、カンゼチベット族自治州に位置している多支系なチベット族住居の分布特徴、建造特徴を述べて、自治州の各地域に分布している住居の異同点を明らかにしている²⁰⁾。

四川省チベット族の民俗学に関する研究として、ギャロンチベット族集落内の重要建物——望楼(当地は「碉」と呼ぶ)に関する論文が多数である。日本の研究では、松岡正子の「ギャロン・チベット族における「碉」の記憶と資源化：四川省丹巴県の「碉」を事例として」²¹⁾、中国の研究では、徐学書の「川西北的石碉文化」²²⁾、張昌富の「嘉絨蔵族的石碉建築」²³⁾、石碩の「隱藏的神性：藏彝走廊^{註3)}中的碉楼——從民族志材料看碉楼起源的原初意義与功能」²⁴⁾、李星橋の「藏彝走廊地区嘉絨藏寨高碉建築文化研究」²⁵⁾がある。集落内の望楼について、望楼文化、建造意義と望楼の機能などから分析を行った。その他、松岡正子、高山茂では、ギャロンチベット族年中行事と芸能に関する論文がある²⁶⁾。松岡正子ではルズ・チベット族の婚姻慣習に関する調査がある²⁷⁾。李錦では、ギャロンチベット族の房名継承と親族関係に関する論文がある²⁸⁾。劉勇、馮敏、奔嘉では、四川省カンゼチベット族自治州鮮水河畔に居住している多数のチベット族支系の民俗文化、

婚姻家庭、宗教文化、言語文化に関する研究を進めている²⁹⁾。杜婭では、ギャロンチベット族の宗教に関わっている老後生活を調査する論文——「生命質量視野下四川嘉絨藏族聚居区一居寺轉經^{注4)}養老方式探究」がある³⁰⁾。林俊華では、ギャロンチベット族の文化記号に関する論文がある³¹⁾。十菱駿武と渡部壮一では、四川省カンゼチベット族自治州を対象とし、考古・民族文化・自治・宗教について報告している。報告はチベット高原カンゼチベット族自治州周辺の山岳地におけるチベット族の社会生活の実態と農業牧畜についての総合調査である。この報告ではカンゼチベット族自治州カンゼ県、康定県、道孚県の各自治体関係者からの聞き取り、山岳民族の祭り、食文化、宗教、社会組織などについて現地調査を行い、生活面に関して詳細に述べた³²⁾。

四川省チベット族の民族学に関する研究として、松岡正子では、四川省チベット族諸集団を対象とし、中国における研究現状を報告している³³⁾。また、曾現江の「嘉絨研究総述」³⁴⁾、鄒立波の「国外嘉絨研究的回顧与反思」³⁵⁾では、ギャロンチベット族に関する中国国内と海外の研究歴史と現状をまとめた。王健康の「嘉絨藏族的成因」³⁶⁾、格勒の「木雅藏族的形成及其族属考辨」³⁷⁾、徳吉卓嘎の「試論嘉絨藏族的族源」³⁸⁾では、ギャロンチベット族の民族形成原因（族源）を述べた。石碩は「藏彝走廊」を中心として、多民族地域の歴史、民族構成、少数民族の支系分布に関する研究——「「旧唐書・東女国傳」所記川西高原女国的史料篡乱及相關問題」³⁹⁾、「藏彝走廊歴史的民族流動」⁴⁰⁾、「如何認識藏族及其文化」⁴¹⁾、「关于藏彝走廊的民族与文化格局——试论藏彝走廊的文化分区」⁴²⁾があり、歴史資料から分析を行い、「藏彝走廊」地域に暮らす少数民族の民族来源、民族認定方法を探求した。

(ii) チベット族集落に関する研究

チベット族集落に関する研究として、山口哲也では、中国雲南省のチベット族村落における移動牧畜調査が行っている^{43),44)}。山口哲也は中国雲南省シャングリラ県の村落を対象にし、山地の移動牧畜での家畜群の季節移動経路や日帰り放牧の範囲を把握することで、放牧地内部での負荷の分布状況を明らかにした。中国の場合、集落の空間構成、伝統集落の近代化及び保護、集落内公共空間の利用状況に関する調査があり、例えば、劉奕杉と陳莎の「川西藏族^{注5)}伝統村落空間布局的図式語言分析-以炉霍県充古村為例」⁴⁵⁾、張雯雯、劉思雨、王秋芷、李琳と俸潤然の「川西地区伝統村落空間分布特徵及影響因素研究-以阿坝藏族羌族自治州為例」⁴⁶⁾、陳祎の「藏族傳統村落及民居建築研究及保護-以甘南州卓尼県尼巴藏寨為例」⁴⁷⁾、朱美蓉、索朗白姆の「藏族傳統村落公共開放空間分析与对策-以赤康村為例」⁴⁸⁾、靳秋琪、程海帆の「滇西北^{注6)}瀾滄江流域^{注7)}藏族村落聚落空間形態初探」⁴⁹⁾、劉鵬、張群、魏友漫と何林泰の「白馬藏族傳統村落空間構成及營建策略解析-以平武県白馬藏族郷伊瓦岱惹村為例」⁵⁰⁾、賈雯婷の「甘南扎尕那藏族村落傳統建築風貌延續性研究」⁵¹⁾、趙曉亮の「文化伝承視覚下三江源地区^{注8)}藏族傳統村落承载空間活化利用研究」⁵²⁾、姚英嬌、張萍の「伝統村落保護与發展策略研究-以甘肅省甘南

蔵族自治州磨溝村為例⁵³⁾、楊尽、劉婭婧、王春建、向明順の「阿坝蔵族羌族自治州伝統村落空間分布特徴分析」⁵⁴⁾、廖志学の「基于環境適應性的川西北嘉絨蔵族伝統村落形態研究」⁵⁵⁾、羅聡、張萍の「從遊牧到定居-清代以来祁連山北麓^{註9)}蔵族村落的形成与演变」⁵⁶⁾、王燦宇の「瀾滄江上遊地区蔵族伝統村落更新營建模式研究」⁵⁷⁾、趙曉亮の「瀾滄江上遊地区蔵族伝統村落公共空間研究」⁵⁸⁾、王彦彦の「木座蔵族郷民族伝統村落保護与發展規劃研究」⁵⁹⁾、李巍、権金宗と王泉倉の「河谷型蔵族村落空間特徴及生成机制研究-以大夏河沿岸村落為例」⁶⁰⁾、李秀政の「川西蔵族聚落研究」⁶¹⁾、肖琳琳の「非遺傳承^{註10)}視角下青海河湟地区蔵族伝統村落公共空間研究」⁶²⁾、夏吾交巴の「多元文化視闕下的公共空間-金沙江流域蔵族村落歴史變遷考察」⁶³⁾、李冬雪、樊婷婷の「通天河流域^{註11)}蔵族伝統村落聚落及民居的地域性表達-以青海省玉樹州結拉村查同社為例」⁶⁴⁾、呂蒙、靳亦冰の「多維視角下蔵族空廢化嚴重村落的保護与更新研究-以玉樹州称多県吾雲達村為例」⁶⁵⁾、王頌、王雨楓と高洪波等の「西南地区蔵族山地村落規劃-以四川雅安望魚郷為例」⁶⁶⁾がある。

(iii) ギャロンチベット族集落に関する研究

ギャロンチベット族集落に関する研究現状は以下となっている。

日本の場合、藤木庸介、横田祥子、中井均、賽本加では、四川省カンゼチベット族自治州丹巴県中路郷のギャロンチベット族集落を調査対象として、ギャロンチベット族住居(生活空間、構成と使用実態)、生活習慣の現状と変容を調査し、集落内代表的な建物——碉楼^{註12)}と住民たちの相関性(碉楼の分布と機能)、近年の観光開発はギャロンチベット族の生活、生活空間にどの様な影響を与えているのかを明らかにしている^{67), 68), 69), 70), 71), 72)}。

中国の場合、西安建筑科技大学のギャロンチベット族集落に関する調査が多数である。たとえば、李軍環では、伝統的なギャロンチベット族集落の空間構成と集落形態を着目し、まずは集落を立地するとき、生産方式、水源、地形と宗教の影響を考えて、集落のタイプを山谷型、山腹緩斜面型、山間台地型、山頂高地型の4種類にまとめて、集落内の住居、土司官寨^{註13)}、寺院、望楼など建物の分布特徴をまとめて、ギャロンチベット族集落の空間構成特徴と形態特徴を明らかにしている⁷³⁾。高威迪では、ギャロンチベット族伝統集落を例として、現地調査(撮影、建物の測量)を行い、集落の土地利用状況、道路交通、公共施設などから空間構成現状をまとめている。また、集落内単一住居の平面図、断面図、外見特徴、建築材料、建造工芸に関する実測調査も行っている。集落全体の空間構成、住居の空間構成の現状を分析して、存在している問題を明らかにする上、今後の発展と計画を提出して、ギャロンチベット族集落の現状と保護企画を検討している⁷⁴⁾。王純では、資料整理、現地調査を通じて、ギャロンチベット族集落に関する先行研究をまとめた上、現象学の視点からギャロンチベット族伝統集落、建築と当地住民たちの意識(環境行為、空間体験)の関連性を明らかにしている⁷⁵⁾。高瑞では、資料整理と

現地調査を通じて、ギャロンチベット族集落の発展と変遷、景観イメージ、文化的特徴、伝統住宅などから分析し、四川省西部の伝統的な集落の保護と発展過程における問題点をまとめた⁷⁶⁾。白涛では、集落が複数の建築から構成されたと思い、集落は自然環境、宗教、人文科学と生活習慣に影響され、違うタイプに分かれることを述べた⁷⁷⁾。

四川大学の徐君では、丹巴県のギャロンチベット族集落を対象として、チベット族集落の歴史と現状を調べ、集落が変遷した所を明らかにして、少数民族地区の開発と発展に関する調査が行っている⁷⁸⁾。华南理工大学の王禎、田銀生では、アバチベット族チベット族自治州の卓克基西索村を研究対象とし、ギャロンチベット族集落建造地の選択、集落の平面空間構成、空間形態の変遷、住居空間構成の特徴、宗教と住居の関係などから、集落空間形態の特徴と進化過程を明らかにしている⁷⁹⁾。また、王禎では、Conzenの都市形態学を参考して、ギャロンチベット族伝統集落空間形態の進化過程、伝統集落物質的空間構成と形態特徴を分析し、変化を通じて伝統集落の地域特徴の保護と継続をまとめている。また、ギャロンチベット族伝統集落の現状に基づいて、発展背景を分析し、対応する保護と開発について、提案をしている⁸⁰⁾。同済大学の周詳では、丹巴县梭坡郷のギャロンチベット族集落を研究対象とし、地域的な文化特徴、地形特徴、林地分布特徴、住居と集落の分布特徴、土地の利用特徴から、当地の文化的景観を解説し、丹巴县梭坡郷のギャロンチベット族伝統的な集落景観特徴を明らかにしている⁸¹⁾。重慶大学の皇甫苗華では、ギャロンチベット族文化を最も反映しているのは集落公共空間を着目し、河谷型のギャロンチベット族伝統集落の公共空間特徴を分析し、特徴が形成する原因を探求することを目的とされている。研究はまず、自然地理、社会、経済と人文環境、建設技術などから伝統集落の形成背景と集落の発展経緯を分析し、集落の空間構成を明らかにした。また、資料を整理する上に河谷型伝統集落-直波村、三道橋村、甘堡藏寨、西索村を例として、集落公共空間の構成特徴をまとめた。最後には河谷型伝統集落公共空間構成の形成原因を探求し、河谷型伝統集落公共空間の保護と更新に関するいくつかの提案が挙げた⁸²⁾。重慶大学の韓芸蔭では、自然人文環境、集落と住居の立地、庭の構成、住居の平面特徴から分析を行って、ギャロンチベット族集落の集落空間構成と住居空間構成の共通性を明らかにしている⁸³⁾。成都大学の楊揚と海南師範大学の周仿頤では、ギャロンチベット族伝統集落を研究対象として、デジタル手段を利用して、建築の客観的、効率的な評価システムを形成することを目指している⁸⁴⁾。西安交通大学の毛良河では、集落の立地、集落構成、住居、土司官寨、寺院建築等建物の文化特徴から、ギャロンチベット族集落今後の発展と観光がもたらす問題を検討し、建築文化、建築技術を引き続く方法を探求している⁸⁵⁾。

郦大方では、西南部山地に居住している少数民族を対象として、集落形態から分類を行った。また、集落と住居の空間構成は社会組織、宗教信仰、家庭構成と自然環境から生じた変化を明らかにしている。⁸⁶⁾ 鄭志明では、国家が指定した「中国伝統村落名録」に登載している四川西部地区伝統集落の空間形態に関する研究を行った⁸⁷⁾。

(iv) ムヤチベット族集落に関する研究

ムヤチベット族集落に関する研究として、西南民族大学の王江霞では、民族伝統集落の景観生態とムヤチベット族の伝統文化を研究対象とし、現地調査と現地調査を通じて、木雅チベット族伝統集落の景観生態資源保存現状を研究している⁸⁸⁾。中国科学院大学の何之森、兰俊では、カンゼチベット族自治州康定市甲根坝鎮日頭村を例として、伝統的なムヤチベット族集落の集落防衛要素は、地理環境、立地、集落の空間構成、望楼の3つで構成していると述べる。さらに、上記の3点から伝統集落防衛システムの構成方法を具体的に分析した⁸⁹⁾。

(v) カンバチベット族集落に関する研究

カンバチベット族の住居、建物に関する論文はあるが、集落に関する論文は少ない。集落に関する研究として、濱田康子、井上えり子、水口真希、田中園絵では、中国西部の古羌系少数民族^{注14)}の集落と住居に関する論文があり、集落の空間特性を明らかにし、カンバチベット族集落空間構成の特徴を検討しているが、各々1~2集落を取り上げて調査を行った、カンバチベット族普遍的なものかが判断しにくい⁹⁰⁾。湖南大学の鄭志明では、四川西部地区伝統集落の空間形態に関する研究を行い、カンバチベット族集落も調査している⁹¹⁾。西安建筑科技大学の郝晓宇では、宗教文化が住居と集落空間構成及び構成要素、住居の建造、機能形態と装飾方法などに与える影響を探求している。また、先行研究を踏まえて、他民族の集落や民家建築との比較研究を通じて、カンバチベット族集落と住居に関する研究をさらに完善することを目指している⁹²⁾。

1.3.2 本研究の位置付け

筆者の研究では、カンゼチベット族自治州に居住している三つのチベット族：ギャロンチベット族、雅砻江流域及びその東部「地脚話」を使用しているチベット族のムヤチベット族、カンバチベット族を対象として、カンゼチベット族自治州に居住しているチベット族支系の集落空間構成調査をしている。その理由は以下の通りである。

①カンゼチベット族自治州はチベット自治区以外で、最もチベット族が集中している地域であり、住居、民俗学、民族学、宗教などに関する研究が多数であるが、集落の空間構成に関する調査が少ない。②チベット自治区のチベット族と比べると、多民族の影響を受け、多数のチベット族支系が形成されているが、支系に関する比較研究が少ない。③カンゼチベット族自治州は唯一なギャロンチベット族、雅砻江流域及びその東部「地脚話」を使用しているチベット族、カンバチベット族の三つチベット族支系が相隣している地区である。

1.4 研究方法と調査概要

本研究ではまず既往文献を整理して、四川省カンゼチベット族自治州に居住しているチベット族に関わる研究と基本状況を整理して、本論の位置付けを行う。続いては現地調査を実施している(表1)。

調査1：ギャロンチベット族集落の調査(第3章)

ギャロンチベット族集落の調査は自治州東部の丹巴県に居住しているギャロンチベット族を対象にして、10集落を現地調査した。現地調査を通じて、①集落の地形的特徴、②集落と国道の関係及び道路の種類、③公共施設の分布と集落中心地、④集落と川の位置関係及び水源、⑤集落の入口、⑥集落と隣村の関係、⑦住宅と農地の分布、⑧集落の宗教信仰、⑨集落と望楼について分析する。

調査2：ムヤチベット族集落の調査(第4章)

ムヤチベット族集落の調査は自治州康定市に居住しているムヤチベット族を対象にして、11集落を現地調査した。現地調査を通じて、①集落の地形的特徴、②道路の種類及び集落と国道の関係、③公共施設の分布と集落中心地、④集落と川の位置関係及び水源、⑤集落の入口、⑥集落と隣村の関係、⑦住宅、農地と牧地の分布、⑧宗教について分析する。

調査3：カンバチベット族集落の調査(第5章)

カンバチベット族集落の調査は自治州カンゼ県に居住しているカンバチベット族を対象にして、13集落を現地調査した。現地調査を通じて、①集落の地形的特徴、②集落と国道の関係及び道路の種類、③公共施設の分布と集落中心地、④集落と川の位置関係及び水源、⑤集落の入口、⑥集落と隣村の関係、⑦住宅、農地と牧地の分布、⑧集落の宗教信仰及び集落と寺の位置関係について分析する。

表1 調査概要

調査	調査概要	関連章
1	ギャロンチベット族集落の空間構成に関する調査 調査時期：2015年7月5日～2015年7月15日 2016年12月10日～2017年1月7日 調査地：四川省カンゼチベット族自治州丹巴(ダンパ)県 調査方法：聞き取り調査、実地調査	第3章
2	ムヤチベット族集落の空間構成に関する調査 調査時期：2015年7月16日～2015年7月25日 2017年10月1日～2017年11月2日 調査地：四川省カンゼチベット族自治州康定(カンディ)市	第4章

	調査方法：聞き取り調査、実地調査	
3	カンバチベット族集落の空間構成に関する調査 調査時期：2015年7月26日～2015年8月5日 2019年02月16日～2019年03月23日 調査地：四川省カンゼチベット族自治州甘孜(カンゼ)県 調査方法：聞き取り調査、実地調査	第5章

1.5 論文構成

本論文は全6章で構成されている(図1-1)。第1章は研究の序論、第6章は研究の結論に該当し、第2章から第5章を本論とする。

第1章では、本研究の研究背景、研究目的、研究方法と調査概要、論文構成を述べ、四川省チベット族の住居、民俗学、民族学、宗教に関わる既往研究、チベット族集落、ギャロンチベット族集落、ムヤチベット族集落、カンバチベット族集落に関わる既往研究を整理し、本研究の位置付けを行い、本研究の意義を明らかにする。

第2章では、まずはチベット族の基本状況、支系及び支系分布状況とチベット族宗教、文化、芸術に関わる説明を行い、続いてはカンゼチベット族自治州の基本状況、州内チベット族支系の分布状況、ギャロン、ムヤ、カンバチベット族の民族来源を述べる。

第3章では、ギャロンチベット族集落空間構成に関わる地形的特徴(平面、断面)、道路の種類及び集落と国道の関係、公共施設の分布と集落中心地、水源、入口、隣村との関係、住宅、農地と牧地の分布、宗教信仰、望楼の分布状況から着目し、集落空間構成の特徴を明らかにする。また、集落分類を行い、ギャロンチベット族集落の空間構成と集落分類の関係性を考察する。

第4章では、ムヤチベット族集落空間構成に関わる集落の地形的特徴(平面、断面)、道路の種類及び集落と国道の関係、公共施設の分布と集落中心地、集落と川の位置関係及び水源、入口、隣村との関係、住宅、農地と牧地の分布、宗教から、ムヤチベット族集落空間構成の特徴を明らかにする。また、集落分類を行い、ムヤチベット族集落の空間構成と集落分類の関係性を明らかにする。

第5章では、カンバチベット族集落空間構成に関わる集落の地形的特徴(平面、断面)、内部特徴(道路の種類及び集落と国道の関係、公共施設の分布と集落中心地、集落と川の位置関係及び水源、入口、住宅、農地と牧地の分布、宗教信仰及び集落と寺の位置関係)及び隣村との関係から、カンバチベット族集落空間構成の特徴を把握し、カンバチベット族集落空間構成普遍的な特徴を明らかにする。また、集落分類を行った。

第6章では、結論として、各章の要約をした上に、ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成の普遍的な特徴、共通点及び相違点を明らかにする。

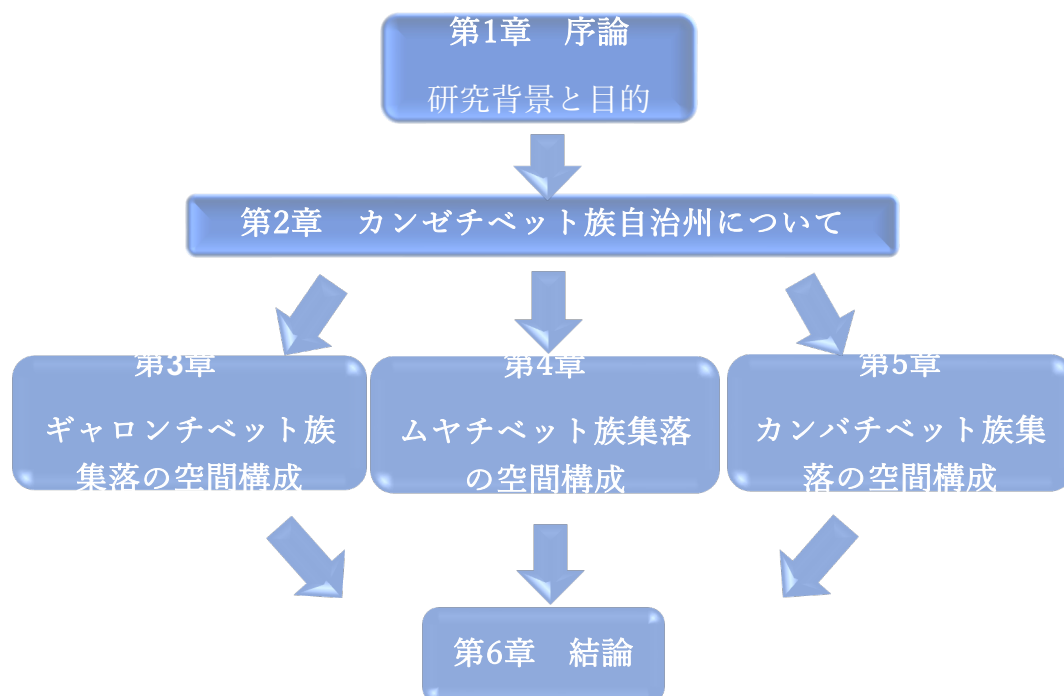


図 1-1 論文構成

注

- 1) 本論文に提出した 56 民族は既に認定されて、名称がある少数民族を指す。
- 2) 人口が 100 万人を超えている少数民族がモンゴル族、回族、チベット族、ウイグル族、ミャオ族、彝族、チワン族、プイ族、朝鮮族、満族、トン族、ヤオ族、ペー族、トゥチャ族、ハニ族、カザフ族、タイ族、リー族である。
- 3) 藏彝走廊とは、費孝通が 1980 年前後に提起した新たな区域概念である。費は中国を北部草原、東北部高山森林、西南部青藏高原、雲貴高原、沿海、中原の 6 区域と藏彝(チベット族と彝族)、西北民族、南嶺の 3 つ回廊(周辺部)に区分し、この地域に居住している民族はお互いに影響して、特別な民族の大融合を形成したと述べる。
- 4) 轉經とは、仏教徒が経典を読唱しながら、白塔とお寺など宗教施設を歩き回ること。
- 5) 川西蔵族とは、四川省西部に暮らすチベット族を指す。
- 6) 滇西北とは、雲南省の西北部をさす。「滇」は雲南省の略称である。
- 7) 瀾滄江流域とは、メコン川上流での中国の呼び名である。

- 8) 三江源地区とは、青藏高原中腹に位置している長江、黄河、瀾滄江（メコン川上流）の源流地である。
- 9) 祁連山北麓とは、中国青海省と甘肅省の境界にある祁連山脈北側のふもとを指す。
- 10) 非遺傳承とは、無形文化遺産を指す。
- 11) 通天河流域とは、沱沱（トト）河と当曲（ダムチュ）の合流地点から玉樹チベット族自治州の巴塘河口までの通天河の流域を指す。
- 12) 碉楼とは、木と石を組み合わせて作られた防御機能を持つ建物である。
- 13) 土司とは、元時代から中国の西北地域と西南地域に暮らす少数民族を管理するため、少数民族の首長に授けられている官職である。官寨とは、土司が管理する地域の政治的中心であり、土司の権力と地位を象徴するものとなっている建物である。
- 14) 古羌系少数民族とは、古代中国西部に居住した「羌」の末裔を指す。ギャロンチベット族、イ族、ナシ族（モソ人）、プミ族等、現在、四川省や雲南省に居住する民族である。

参考文献

- 1) 中国民族 http://www.gov.cn/guoqing/2005-07/26/content_2663470.htm (参照 2023.03.06)
- 2) 少数民族特色村寨保護与發展規劃概要(2011-2015年)
http://www.gov.cn/govweb/zhuanti/2012-12/10/content_2609632.htm (参照 2023.03.08)
- 3) 国家民委关于命名首批中国少数民族特色村寨的通知
<https://www.neac.gov.cn/seac/xxgk/201410/1072809.shtml> (参照 2023.03.13)
- 4) 国家民委关于命名第二批中国少数民族特色村寨的通知
<https://www.neac.gov.cn/seac/xxgk/201703/1079595.shtml> (参照 2023.03.13)
- 5) 国家民委关于做好第三批中国少数民族特色村寨命名相关工作的通知
<https://www.neac.gov.cn/seac/xxgk/202001/1139478.shtml> (参照 2023.03.13)
- 6) 中共中央国务院關於深入实施西部大開發戰略的若干意見
http://www.gov.cn/gongbao/content/2004/content_62726.htm (参照 2023.03.13)
- 7) ラサ市古村落保護条例
<https://flk.npc.gov.cn/detail2.html?ZmY4MDgwODE3MWU5ZTE4MTAxNzIwMTIjODU1MjJkMWE>
- 8) カンゼチベット族自治州傳統村落保護及び利用条例
https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_19336977
- 9) 井上えり子：木雅(ムヤ)チベット族の住居の空間構成：中国の古羌系民族の住居と集落に関する研究 その2, 日本建築学会計画系論文集, 第530号, pp.111-118, 2000
(DOI: https://doi.org/10.3130/ai.ja.65.111_2)
- 10) 井上えり子, 中木保代：嘉絨(ギャロン)チベット族の住居構成, 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系 (39), pp.73-76, 1999
- 11) 井上えり子, 筒井るみ子, 松原恵子, 倉田尚美：木雅チベット族の住宅空間構成:中国少数民族の住居と集落に関する研究 その1, 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系 (38), pp.49-52, 1998
- 12) 井上えり子, 小田愛子, 大沢さおり：木雅チベット族の住宅の構法:中国少数民族の住居と集落に関する

- る研究 その2, 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系 (38), pp. 53-56, 1998
- 13) 柳原亜紀, 井上えり子, 岩崎 聡子 道孚チベット族の住居平面構成: 中国少数民族の住居と集落に関する研究 その6, 日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系 (41), pp. 9-12, 2001
 - 14) 本間健太郎, 橋本憲一郎, 沖野優, 藤井明: 四川省・雲南省におけるチベット族の住居の調査-その1, 日本建築学会, 学術講演梗概集. E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育 (2010), pp. 9-10, 2010
 - 15) 呉体, 凌程建, 高永昭, 周敏: 丹巴甲居藏寨建築結構調査, 四川建築科学研究, pp. 197-201, 2009
 - 16) 范霄鵬, 王天時: 丹巴甲居藏寨石木建構田野調査, 古建園林技術, pp. 71-75, 2016
 - 17) 謝嬌: 四川甘孜州藏族民居研究-以甲居藏寨為例, 西安建築科技大学修士學位論文, 2010
 - 18) 李軍環, 陳媛: 川西中路嘉絨藏族民居的生態智慧与更新設計, 西安建築科技大学学報(自然科学版), pp. 512-516, 2012
 - 19) 李軍環, 王純, 靳亦冰: 事件空間視角下的民居演化研究-以嘉絨藏族傳統民居為例, 新建築, pp. 151-155, 2022
 - 20) 黎士民: 四川甘孜州藏族民居建築空間分異与人文環境適應性, 成都理工大学修士學位論文, 2016
 - 21) 松岡正子: ギャロン・チベット族における「碉」の記憶と資源化: 四川省丹巴県の「碉」を事例として, 国立民族学博物館調査報告, 第142巻, pp. 239-262, 2017
(DOI: <http://doi.org/10.15021/00008639>)
 - 22) 徐学書: 川西北的碉文化, 中華文化論壇, pp. 31-36, 2004
 - 23) 張昌富: 嘉絨藏族的碉建築, 西藏研究, pp. 36, 77-79, 1996
 - 24) 石碩: 隱藏的神性: 藏彝走廊中的碉楼-從民族志材料看碉楼起源的原初意義与功能, 民族研究, pp. 56-65, 2008
 - 25) 李星橋: 藏彝走廊地区嘉絨藏寨高碉建築文化研究, 西安建築科技大学修士學位論文, 2013
 - 26) 松岡正子, 高山茂: ギャロン・チベット族の年中行事と芸能, 筑波大学比較民俗研究会, 比較民俗研究(10), pp. 102-132, 1994
 - 27) 松岡正子: 四川ルズ・チベット族の婚姻慣習--「西番」社会の紐帯, 愛知大学国際問題研究所紀要(129), pp. 361-386, 2007
 - 28) 李錦, 高橋めぐみ(訳): 家屋の意義: ギャロン・チベット族の房名継承と親族関係, 愛知大学現代中国学会, 中国 21(49), pp. 63-74, 2019
 - 29) 劉勇, 馮敏, 奔嘉: 鮮水河畔的道孚藏族多元文化, 四川出版集團, 2005
 - 30) 杜姪: 生命質量視野下四川嘉絨藏族聚居区一居寺轉經養老方式探究, 西部發展研究, pp. 1-16, 2020
 - 31) 林俊華: 嘉絨的文化符号, 四川民族学院学報, pp. 1-7, 2013
 - 32) 四川山岳文化研究会, 十菱駿武, 渡部壯一: カンゼのチベット文化: 中国四川省甘孜チベット族自治州の第1・2次調査報告(一般教養特集), 山梨学院大学法学論集, 第53巻, pp. 153-206, 2005
 - 33) 松岡正子: 四川チベット族諸集團の研究, 愛知大学国際問題研究所紀要, 第146号, pp. 169-187, 2015
 - 34) 曾現江: 嘉絨研究総述, 西藏研究, pp. 115-120, 2004
 - 35) 鄒立波: 国外嘉絨研究的回顧与反思, 思想戦線, pp. 32-39, 2014

- 36) 王健康：嘉絨藏族的成因，西藏研究，pp. 39-44，1989
- 37) 格勒：木雅藏族的形成及其族属考辨，四川民族学院学报，pp. 14-21，1988
- 38) 德吉卓嘎：試論嘉絨藏族的族源，西藏研究，pp. 51-56，2004
- 39) 石碩：「旧唐書·東女国伝」所記川西高原女国の史料纂乱及相關問題，中国藏学，pp. 142-148，2009
- 40) 石碩：藏彝走廊歷史上的民族流動，民族研究，pp. 78-89，2014
- 41) 石碩：如何認識藏族及其文化，西南民族大学学报（人文社科版），pp. 22-32，2015
- 42) 石碩：關於藏彝走廊的民族与文化格局—試論藏彝走廊的文化分区，西南民族大学学报（人文社科版），pp. 1-6，2010
- 43) 山口哲也：移動牧畜が放牧地に及ぼす負荷の分布状況の推定-中国雲南省北西部のチベット族村落の事例-，地理学評論 Series A，第 84 卷，pp. 199-219，2011
- 44) 山口哲也：中国雲南省のチベット族村落における移動牧畜の現代的意義-その乳生産量からの検討-，人文地理，第 63 卷，pp. 1-21，2011
- 45) 劉奕杉，陳莎：川西藏族傳統村落空間布局的函式語言分析-以炉霍県充古村為例，城市建築，pp. 150-152+198，2022
(DOI:10.19892/j.cnki.csjz.2022.17.33)
- 46) 張雯雯，劉思雨，王秋芷，李琳，俸潤然：川西地区傳統村落空間分布特徵及影響因素研究-以阿坝藏族羌族自治州為例，山西農經，pp. 6-9+122，2022
(DOI:10.16675/j.cnki.cn14-1065/f.2022.14.002)
- 47) 陳祎：藏族傳統村落及民居建築研究及保護-以甘南州卓尼県尼巴藏寨為例，居舍，39-41，2022
- 48) 朱美蓉，索朗白姆：藏族傳統村落公共開放空間分析与对策-以赤康村為例，四川建材，pp. 36-38，2021
- 49) 靳秋琪，程海帆：滇西北瀾滄江流域藏族村落聚落空間形態初探，城市建築，pp. 14-18，2021
(DOI:10.19892/j.cnki.csjz.2021.10.03)
- 50) 劉鵬，張群，魏友漫，何林泰：白馬藏族傳統村落空間構成及營建策略解析-以平武県白馬藏族鄉伊瓦岱惹村為例，世界建築，pp. 112-116+144，2020
(DOI:10.16414/j.wa.2020.06.018)
- 51) 賈雯婷：甘南扎尕那藏族村落傳統建築風貌延續性研究，大連民族大学学报，pp. 243-249，2020
- 52) 趙曉亮：文化傳承視角下三江源地区藏族傳統村落承載空間活化利用研究，住区，pp. 122-126，2020
- 53) 姚英嬌，張萍：傳統村落保護与發展策略研究-以甘肅省甘南藏族自治州磨溝村為例，重慶建築，pp. 9-11，2020
- 54) 楊尽，劉婭婧，王春建，向明順，阿坝藏族羌族自治州傳統村落空間分布特徵分析，山西建築，pp. 3-4，2020
(DOI:10.13719/j.cnki.cn14-1279/tu.2020.02.002)
- 55) 廖志学：基于環境適應性的川西北嘉絨藏族傳統村落形態研究，西南科技大学，2019
(DOI:10.27415/d.cnki.gxngc.2019.000099)
- 56) 羅聰，張萍：從遊牧到定居-清代以来祁連山北麓藏族村落的形成与演变，西北民族論丛，pp. 205-217+332，2019

- 57) 王燦宇：瀾滄江上游地区藏族傳統村落更新營建模式研究，西安建築科技大學，2019
(DOI:10.27393/d.cnki.gxazu.2019.001387)
- 58) 趙曉亮：瀾滄江上游地区藏族傳統村落公共空間研究，西安建築科技大學，2019
(DOI:10.27393/d.cnki.gxazu.2019.001410)
- 59) 王彥彥：木座藏族鄉民族傳統村落保護與發展規劃研究，綿陽師範學院，2019
(DOI:10.27875/d.cnki.gmysf.2019.000004)
- 60) 李巍，權金宗，王泉倉：河谷型藏族村落空間特徵及生成機制研究-以大夏河沿岸村落為例，現代城市研究，pp.117-122，2019
- 61) 李秀政：川西藏族聚落研究，清華大學，2018
(DOI:10.27266/d.cnki.gqhau.2018.000960)
- 62) 肖琳琳：非遺傳承視角下青海河湟地区藏族傳統村落公共空間研究，西安建築科技大學，2018
- 63) 夏吾交巴：多元文化視閾下的公共空間-金沙江流域藏族村落歷史變遷考察，青海社會科學，pp.45-52，2017
(DOI:10.14154/j.cnki.qss.2017.05.007)
- 64) 李冬雪，樊婷婷：通天河流域藏族傳統村落聚落及民居的地域性表達-以青海省玉樹州結拉村查同社為例，建築與文化，pp.226-227，2017
- 65) 呂蒙，靳亦冰：多維視角下藏族空廢化嚴重村落的保護與更新研究-以玉樹州稱多縣吾雲達村為例，城市建築，pp.56-59，2017
(DOI:10.19892/j.cnki.csjz.2017.23.018)
- 66) 王頌，王雨楓，高洪波等：西南地区藏族山地村落規劃-以四川雅安望魚鄉為例，工業建築 2017 年增刊 II，pp.39-42+53，2017
- 67) 藤木庸介，橫田祥子，中井均：ギャロン・チベット族の生活空間に関する知見の整理-中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間：その 1-，日本建築学会，農村計画 (2019)，pp.69-70，2019
- 68) 中井均，賽本加，藤木庸介：カルの機能に関する一考察-中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間：その 2-，日本建築学会，農村計画 (2019)，pp.71-72，2019
- 69) 賽本加，中井均，藤木庸介：丹巴縣中路鄉におけるカルの分布と構造の特徴-中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間：その 3-，日本建築学会，農村計画 (2019)，pp.73-74，2019
- 70) 藤木庸介，橫田祥子，中井均：現在に見るギャロン・チベット族民家の構成とその使用実態-1-中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間：その 4-，日本建築学会，農村計画 (2020)，pp.117-118，2020
- 71) 橫田祥子，藤木庸介，中井均：現在に見るギャロン・チベット族民家の構成とその使用実態-2-中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間：その 5-，日本建築学会，農村計画 (2020)，pp.119-120，2020
- 72) 中井均，橫田祥子，藤木庸介：立地からみたカルの機能-中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間：その 6-，日本建築学会，農村計画 (2020)，pp.121-122，2020
- 73) 李軍環：嘉絨藏族傳統聚落的整體空間與形態特徵，城市建築，pp.36-39，2011
- 74) 高威迪：嘉絨藏族莫洛村調查及其保護規劃研究，西安建築科技大學，2016
- 75) 王純：基于現象學視角的嘉絨藏族傳統聚落與民居建築研究，西安建築科技大學，2014

- 76) 高瑞：川西嘉絨藏族傳統聚落景觀研究，西安建筑科技大学，2015
- 77) 白涛：傳統聚落空間的形態解析-以嘉絨藏族地區傳統聚落為例，城市建築，pp. 268, 2014
- 78) 徐君：轉型中的康區藏族村寨-丹巴縣梭坡鄉莫洛村考察報告①，西北民族研究，pp. 99-107, 2004
- 79) 王禎, 田銀生：嘉絨藏族傳統村落空間形態研究-以卓克基西索村為例，智能建築與智慧城市，第4卷，2021
- 80) 王禎：川西北地區嘉絨藏族河谷地帶傳統村落空間形態研究，華南理工大學，2021
- 81) 周詳：嘉絨藏族地域性聚居景觀特征圖解與探析-基于丹巴縣梭坡鄉案例，廣東園林，pp. 32-36, 2014
- 82) 皇甫苗華：河谷型嘉絨藏族傳統村落公共空間特征與形成機制研究，重慶大學，2021
- 83) 韓芸蔭：川西藏寨的空間形態特征及其發展，大眾文藝，pp. 130-135, 2016
- 84) 楊揚, 周仿頤：基于地域文化的嘉絨藏寨場所保護與更新，山西建築，pp. 15-19, 2021
- 85) 毛良河：嘉絨藏寨建築文化研究，西南交通大學，2005
- 86) 鄺大方：西南山地少數民族傳統聚落與住居空間解析-以阿坝、丹巴、曼岡為例，北京林業大學，2013
- 87) 鄭志明：川西地區傳統村落空間形態空圖譜研究，湖南大學，2020
- 88) 王江霞：木雅藏族傳統村落景觀生態資源現狀研究-以甘孜州康定市甲根坝立澤村為例，住宅與房地產 pp. 253-54, 2021
- 89) 何之淼, 蘭俊：川西高原木雅藏區傳統聚落防禦性研究-以甲根坝鎮日頭村為例，住区，pp. 106-119, 2022
- 90) 濱田康子, 井上えり子, 水口真希, 田中園繪：道孚チベット族の集落の空間構成：中国少数民族の住居と集落に関する研究 その7，日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系 (41)，pp. 13-16, 2001
- 91) 鄭志明：川西地區傳統村落空間形態空圖譜研究，湖南大學，2020
- 92) 郝曉宇：宗教文化影響下的鄉城藏族聚落與民居建築研究-以鄉城縣那拉崗村為例，西安建築科技大學，2013

第2章 カンゼチベット族自治州について

第2章 カンゼチベット族自治州について

2.1 本章の目的

本章はまずチベット族の基本状況(分布地域、人口、宗教信仰、言語)、各支系の分布状況、宗教、文化、芸術を紹介している。その次、カンゼチベット族自治州の基本状況、州内のチベット族支系分布状況を紹介して、調査地の概要を述べる。

2.2 チベット族について

2.2.1 チベット族の基本状況

チベット族はチベット自治区を中心に、中国西南部に分布している。2010年の全国人口調査によると、チベット族の総人口は628.2万人である。日常にはチベット語を使う。

2.2.2 チベット族の支系

チベット族は分布地域、言語の違いにより、安多(アム^①)、衛蔵(ウイザン)、康巴(カンバ)チベット族に分かれている。それ以外に、言語、自称(自分から固有の民族と名乗ること)、歴史、宗教信仰の違いにより、比較的狭い範囲に居住しているチベット族支系もある。支系の分布状況は表2-1のようになっている。

表2-1 チベット族の分布区域

名称	分布区域
安多(アム ^①)チベット族	甘肅省、青海省、四川省
衛蔵(ウイザン)チベット族	チベット自治区
康巴(カンバ)チベット族	チベット自治区、四川省、雲南省
工布(ゴンブ)チベット族	チベット自治区
白馬(ハ ^① イ)チベット族	四川省
夏爾巴(シェルパ)人	チベット自治区
華鋭(ファルイ)チベット族	甘肅省
卓倉(ゾツァン)チベット族	青海省
嘉絨(ギャロン)チベット族	四川省
雅砻江流域及びその東部「地脚話」 注)を使用しているチベット族	四川省
その他	チベット自治区、四川省、雲南省、甘肅省、青海省

石碩「关于藏彝走廊的民族与文化格局—试论藏彝走廊的文化分区」¹⁾をもとに筆者作成

2.2.3 チベット族の宗教、言語、文学、医学、葬式

i) 宗教

チベット族は主にチベット仏教を信仰している。また、ボン教とイスラム教を信仰する方もいる。チベット仏教の教派はニンマ派(Nyingma)、カギユ派(Kagyü)、サキヤ派(Sakya)、ゲルク派(Gelug)、カダム派(Kadam)、チョナン派(Jonang)に分けている。ボン教とは、仏教がインドから伝来以前のチベット土着宗教である。

ii) 言語、文学

チベット族はチベット語とチベット文字を使う、チベット語は標準語と方言を分けて、ラサ語は標準語で、方言は衛蔵、康区、安多三つがある。文学作品のケサル王伝はチベットの神話詩であり、ケサル王における物語である。千年以前のもものと推定されて、現在も未完成な状態である。また、「蔵劇」という伝統劇がある。

iii) 医学、葬式

チベット族は本民族の医書——「四部医典」がある。動物、鉱物と植物を材料として薬を作っている。葬式は塔葬、天葬（鳥葬）、火葬、樹葬、水葬、土葬の六種である。

2.3 カンゼチベット族自治州について

2.3.1 カンゼチベット族自治州の基本状況

カンゼチベット族自治州は、中国四川省に位置している(図2-1)。横断山脈の中心部に位置し、山地が94%で、山間部は谷になっている。山地の平均海拔は約3500メートルである。州の中央には雅礮江が流れ、州都は康定市である。州の民族構成はチベット族が81.9%、漢族とほかの少数民族が18.1%である²⁾。州内には標高4000m以上の山が約30ある。面積は15.3万km²で、人口は119.6万人(2018年)である³⁾。



図2-1 カンゼチベット族自治州の位置

出典：「ウィキペディア—カンゼチベット族自治州」をもとに筆者作成

2.3.2 カンゼチベット族自治州に分布するチベット族支系

自治州は「蔵彝走廊」の重要地として、チベット族の支系が多く、未識別のチベット族支系も多い。州内チベット族支系分布状況は、石碩の「蔵彝走廊」七大文化区^{注2)}によると、ギャロン文化区、雅砻江流域及びその東部「地脚話」を使用しているチベット族支系文化区、カンバ文化区の三つに分かれる(図 2-2)。

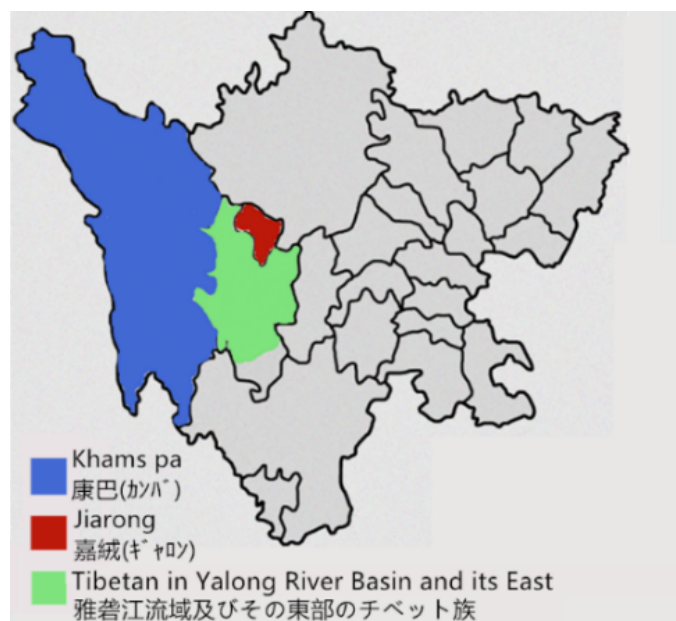


図 2-2 カンゼチベット族自治州チベット族の分布状況

出典：「ウィキペディア—カンゼチベット族自治州」をもとに筆者作成

ギャロンチベット族はチベット族の支系であり、カンゼチベット族自治州東部の丹巴県に分布している。ギャロンチベット族とは、住む地域にある山（ムルド山）のチベット語発音から名前を付けられている。自分の言語を持っているため、1954年まではチベット族と区別されていたが、1954年からはチベット族の支系とされている。この地域はチャン族分布地域と繋がるため、チベット族本来の生活習慣を残すと共に、チャン族の影響も受け、仏教、ボン教と祖先信仰が共存し、宗教信仰も多様化している。

雅砻江流域及びその東部「地脚話」を使用しているチベット族は四川省内に分布している。ムヤ、ベィマ、ザバなど、多数のチベット族支系の総称であり、四川省カンゼチベット族自治州に居住している。これらの支系は方言を使い、生活習慣も違うため、特別なチベット族支系群として知られている。

カンバチベット族はチベット族支系の一つである。康巴(カンバ)チベット族とは、康区^{注3)}に居住しているチベット族である。この地域は漢族分布地域と繋がるため、昔から交流が多く、茶馬古道^{注4)}とも呼ばれる。宗教信仰はチベット仏教であるが、地区によって、信仰している教派が異なる。現在、主にチベット自治区の東南部と四川省カンゼ

チベット族自治州、雲南省に集中分布している。

2.3.3 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族の民族起源^{4),5)}

最初にギャロン、雅砻江流域及びその東部「地脚話」を使用しているチベット族のムヤチベット族（下記はムヤチベット族）、カンバチベット族分布状況を記載されている本は司馬遷（漢代）の「史記・西南夷列伝」である。司馬遷が「…自西以东北，君长以什数，徙、笮都最大；自笮以东北，君长以什数，冉駹最大；其俗或土著，或移徙，在蜀之西。此皆巴蜀西南外蛮夷也…」の記載があり、四川省西南地区の民族の分布状況を述べた。「笮」がカンバ、ムヤチベット族の起源となり、「冉駹」がギャロンチベット族の起源となっている。「華陽国志」も「笮，笮夷也：汶山曰夷，南中曰昆明，汉嘉、越西曰笮，蜀曰邛，皆夷种也。」の記載があり、夷系民族の分布地区を述べた。また、「後漢書西羌傳」には「其山有六夷、七羌、九氏，各有部落」のような羌系、氏系、夷系を区別して語っている。唐時代以前、ギャロン、ムヤ、カンバチベット族が居住している地域には多数な古羌系部落が分布している。

ギャロンチベット族の民族起源について、漢代以後は隋時代の「隋書附国傳」に「附国者，蜀郡西北二千余里，即汉之西南夷也。有嘉良夷，即其东部，所居种姓自相率领，土俗与附国同。嘉良有水阔六七十丈，附国有水，阔百余丈，并南流用皮舟而济…」の記載があり、「嘉良夷」はギャロンチベット族を指す。唐の時代、「旧唐書東女国傳」には「贞元九年七月…其哥隣国等，皆散居山川…」、「旧唐書吐蕃傳」には「…剑南節度使崔宁大破吐蕃…氏、蛮、羌…」の記載があり、当時はギャロンチベット族を「哥隣」と呼ばれている。多数の史料から見ると、ギャロンチベット族が夷系民族の冉駹夷（漢）⇒嘉良夷（隋）⇒哥隣（唐）となり、唐代からチベット高原のチベット族と融合し始めることが分かる。

ムヤチベット族、カンバチベット族の民族起源について、漢代以後は「後漢書笮都夷傳」に「…笮都夷，自呼为白狼…」の記載があり、当時のムヤ、カンバチベット族が白狼部を自称している。隋唐時代から、白狼部が弱くなり、党項羌が盛り始めた。唐の時、党項羌が吐蕃王朝との戦争に負けて、チベット族と西南部古羌系民族が融和し始めた。多数の史料から見ると、ムヤ、カンバチベット族が夷系民族の笮都夷（漢）⇒党項羌（隋唐）となり、唐代からチベット高原のチベット族と融合し始めることが分かる。1949年の民族認定を行う際、ギャロン、ムヤ、カンバはすべてチベット族として認定された。

2.4 調査集落

調査集落は四川省カンゼチベット族自治州丹巴県のギャロンチベット族集落 10ヶ所、康定市のムヤチベット族集落 11ヶ所、カンゼ県のカンバチベット族集落 13ヶ所である。集落位置と名称は表 2-2 のようになっている。

表 2-2 調査集落

支系	嘉絨(ギャロン)チベット族	木雅(ムヤ)チベット族	康巴(カンバ)チベット族
調査 集落	①井備村	①麦巴村	①四通達村
	②各宗村	②蓮花湖村	②昂達村
	③阿娘寨村	③宜代村	③竹美村
	④莫洛村	④启卡村	④地龍村
	⑤白呷衣村	⑤立泽村	⑤查依村
	⑥洛尔村	⑥提吾村	⑥協旦達村
	⑦卓斯尼村	⑦日欧村	⑦哈登達村
	⑧累累村	⑧昌木村	⑧大巴口村
	⑨卡卡村	⑨扎日村	⑨青多村
	⑩沈洛村	⑩亚弄村	⑩俄拉村
	⑪日泽村	⑪查多村	
		⑫海拉村	
		⑬生達村	

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

2.5 まとめ

本章では、本論文の対象地として選定したチベット族の基本状況、各支系の分布状況などを紹介し、カンゼチベット族自治州の基本状況、支系分布状況、当地に分布しているチベット族支系の民族来源を整理した。

チベット族はチベット自治区を中心に、中国西南部に分布している。現在は9支系に分けられている。カンゼチベット族自治州は、中国四川省に位置し、州内はギャロン、ムヤ、カンバチベット族が分布している。唐時代以前は「古羌系民族」部落の一部であり、唐時代からチベット高原のチベット族と融合し始めた。現在はすべてチベット族として認定されている。

注

- 1) 「地脚話」とは、当地の方言である。
- 2) 「藏彝走廊」とは、費孝通が1980年前後に提起した新たな区域概念である。費は中国を北部草原、東北部高山森林、西南部青藏高原、雲貴高原、沿海、中原の6区域と藏彝(チベット族とイ族)、西北民族、南嶺の3つ回廊(周辺部)に区分し、この地域に居住している民族はお互いに影響して、特別な民族の大融合を形成したと述べる。石碩「关于藏彝走廊的民族与文化格局一试论藏彝走廊的文化分区」(2010年)によると、「藏彝走廊」は言語、自称、歴史記憶、宗教信仰により、七大文化区に分かれる。その中で、チベット族支系が居住している文化区はギャロン文化区、カンバ文化区、雅砻江流域及びその東部「地脚話」を使用しているチベ

ット族支系文化区の三つである。

- 3) 石碩の「论康区的地域特点」により、康区とは、チベット自治区の丹達山の東、四川省大渡河の西、青海省バヤンカラ山脈の南、高黎貢山の北の区域を指す。
- 4) 茶馬古道とは、漢民族地区から取れたお茶を馬でチベットへ運び込む道路である。

参考文献

- 1) 石碩: 关于藏彝走廊的民族与文化格局——试论藏彝走廊的文化分区, 西南民族大学学报(人文社科版), pp. 1-6, 2010. 12
- 2) 州地志办: 自然环境 (参照 2021. 10. 18)
<http://www.gzz.gov.cn/gzzrmzf/c100438/201409/86bdb942f1c84868ab05a72d63c7730.shtml>
州商务和经济合作局: 甘孜州概况 (参照 2021. 10. 18)
<http://www.gzz.gov.cn/gzzrmzf/c100438/201409/86bdb942f1c84868ab05a72d63c7c730.shtml>
- 3) 州统计局: 甘孜藏族自治州 2018 年国民经济和社会发展统计公报 (参照 2021. 10. 18)
<http://www.gzz.gov.cn/gzzrmzf/c100046/201903/48e0762523fb4b51b4d56d9604a6a6b8.shtml>
- 4) 徳吉卓嘎: 試論嘉絨藏族的族源, 西藏研究, pp. 51-56, 2004
- 5) 格勒: 木雅藏族的形成及其族属考辨, 四川民族学院学报, pp. 14-21, 1988



第 3 章

ギャロンチベット族集落の空間構成

第3章 ギャロンチベット族集落の空間構成

3.1 本章目的

本章ではカンゼチベット族自治州にあるギャロンチベット族集落 10 ヶ所を対象に、平面図、断面図を作成し、また現地調査を通じて、1) 集落の地形的特徴、2) 集落と国道の関係及び道路の種類、3) 公共施設の分布と集落中心地、4) 集落と川の位置関係及び水源、5) 集落の入口、6) 集落と隣村の関係、7) 住宅、農地と牧地の分布、8) 集落の宗教信仰、9) 集落と望楼について分析し、ギャロンチベット族集落空間構成の特徴を明らかにする。また、調査したギャロンチベット族集落にタイプ分けを行い、集落空間構成と集落分類の関係性を明らかにする。

3.2 調査地概要

調査地は四川省カンゼチベット族自治州丹巴(ダンパ)県である(図 3-1)。自治州内ギャロンチベット族が集落を形成して、集住しているのは丹巴県のみであり、調査地に選定した。



図 3-1 調査地と対象集落

出典：「BAIDU 图片」をもとに筆者作成

丹巴県の人口は4万9872人であり、その内チベット族は約3万6千人、総人口の72%を占める¹⁾。県内のチベット族集落は182ヶ所であり²⁾、ヒヤリング調査によると、その内、チベット族人口が50%以上占める集落は126ヶ所である。四川省カンゼチベット族自治州丹巴県のギャロンチベット族集落10ヶ所、①井備村(写真3-1)、②各宗村、③阿娘寨村、④莫洛村(写真3-2)、⑤白呷衣村、⑥洛尔村、⑦卓斯尼村(写真3-3)、⑧累累村、⑨卡卡村、⑩沈洛村(写真3-4)である。先に述べた126ヶ所のうち、1割程度を調査した。古文書などがいないため、各集落の歴史はわからないが、調査した集落の中には、千年以上の歴史を持つ集落がある。現地調査では村長、高齢者、子供を対象にして、ヒヤリング調査を行った。また集落平面図、断面図を作成した。



写真3-1 集落① (筆者撮影)



写真3-2 集落④の一部 (筆者撮影)



写真3-3 集落⑦の一部 (筆者撮影)



写真3-4 集落⑩の一部 (筆者撮影)

3.3 集落の概要

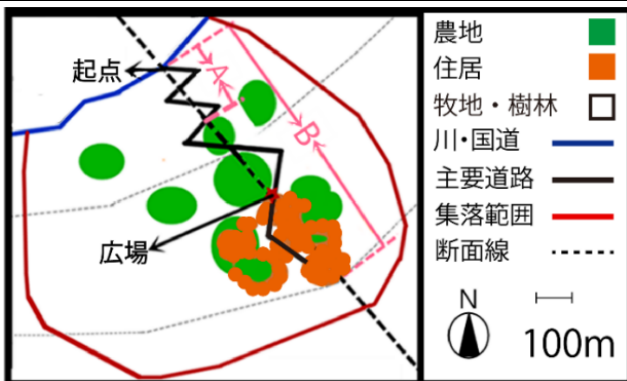

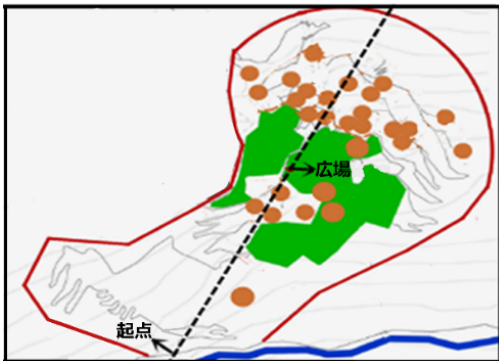
3.3.1 集落の平面

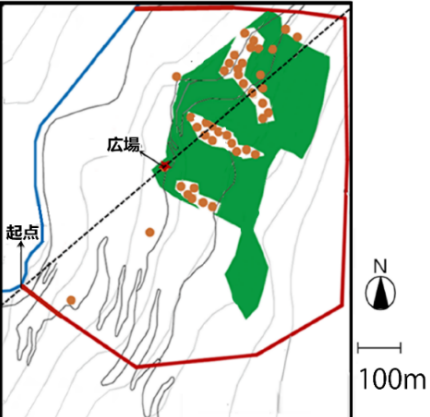
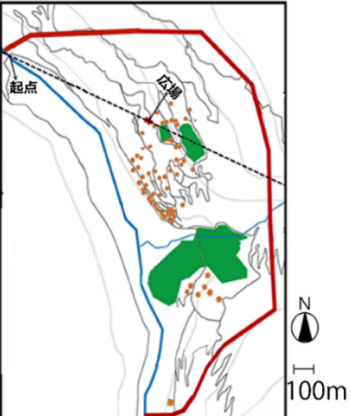

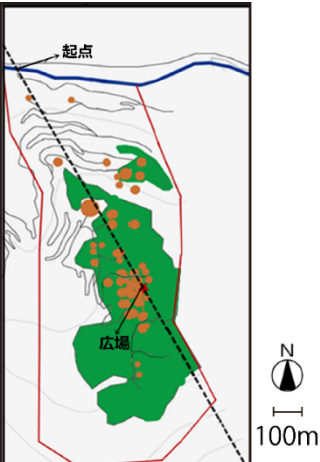
表3-1は各集落の平面図、表3-2は海拔、集落の面積、世帯数である。表3-1と表3-2の最初には仮想集落を例として調査項目を説明した。仮想集落AはA郷^{注1)}に属するチベット族の集落である。全ての集落は川に沿って通っている国道から、集落に至る主要道路が分かれているため、国道と主要道路の分岐点を調査対象集落の起点とした^{注2)}。

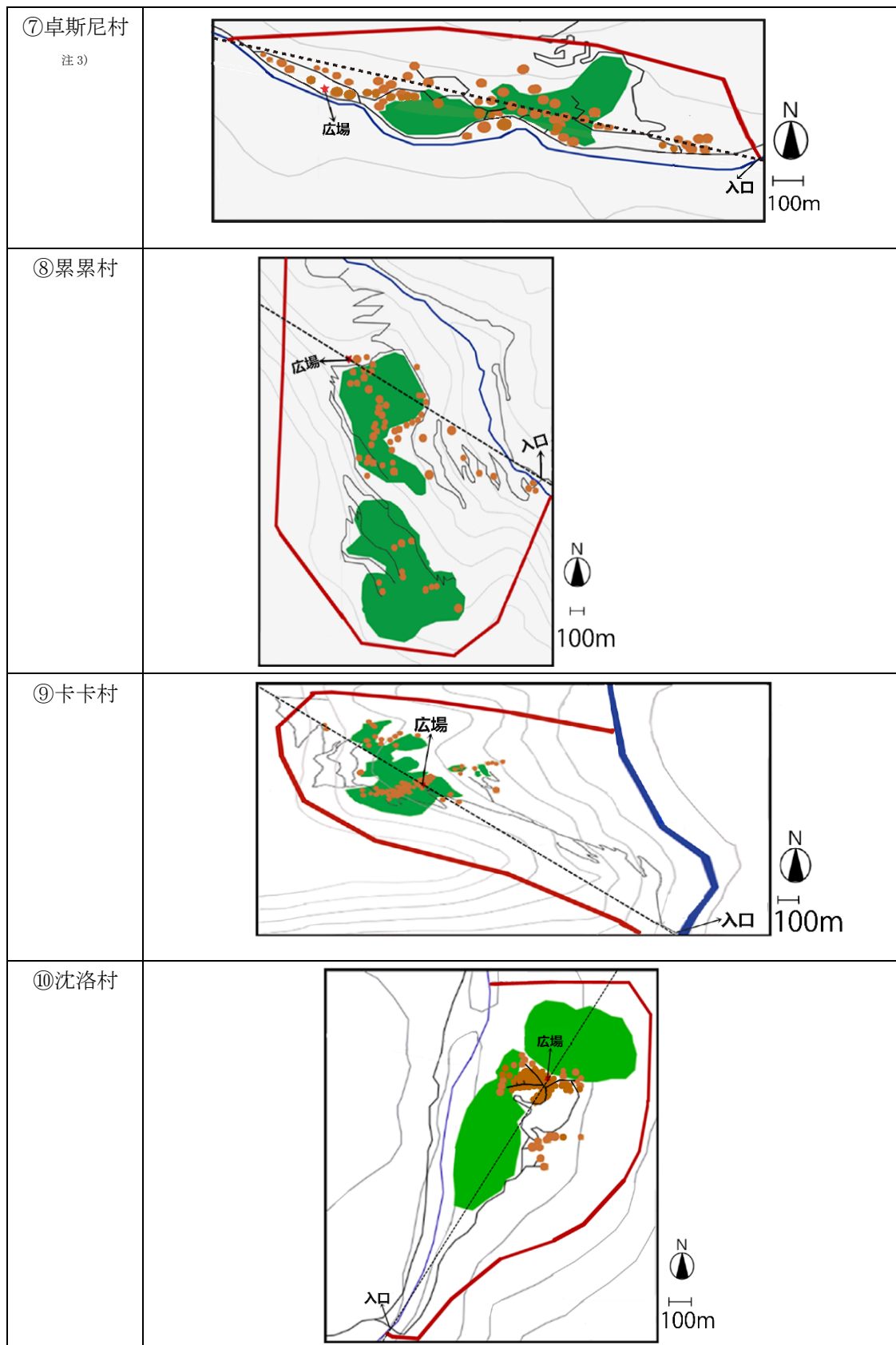
牧地は明確な境界がないため、ヒヤリングから得た家畜移動範囲を牧地とした。集落範囲は、川・国道、牧地(場合によっては農地、樹林)で囲まれた範囲である。集落範囲も明確な境界がないため、ヒヤリングで確認した。平面図には起点、広場、農地、住居、主要道路、川・国道、集落範囲を表示している。

ヒヤリング調査によると、10 集落の主要な生業は農業、牧業である。主要な農産品は、ジャガイモ、ハクサイ(写真 3-5)、トウモロコシ、クルミ、香辛料(山椒)、リンゴ、ミカン(写真 3-6)、スモモ、モモであり、牧業収入は牛(牛乳、バター)、豚、羊、鶏(写真 3-7、3-8)である。若者の多くは村外でアルバイトをしている。

表 3-1 集落の平面図

集落	平面図
A 村 (仮想集落)	
①井備村	
②各宗村	

<p>③阿娘寨村</p>	
<p>④莫洛村</p>	
<p>⑤白呷衣村</p>	
<p>⑥洛尔村</p>	



「現地調査、ヒヤリング調査と GOOGLE マップ」をもとに筆者作成

表 3-2 集落の平面概要

集落	集落範囲(m)	集落面積(km ²)	世帯数
仮想集落	2000m-2250m	6.5	76
①井備村	2120m-2600m	6.4	128
②各宗村	2000m-2600m	4.5	89
③阿娘寨村	2010m-2900m	6.56	65
④莫洛村	1870m-2150m	8.35	75
⑤白呷衣村	1900m-2950m	23.8	138
⑥洛尔村	2020m-2540m	4.7	50-100 ^{注4)}
⑦卓斯尼村	1980m-2200m	3.2	50-100
⑧累累村	2110m-2800m	18.8	61
⑨卡卡村	1980m-2700m	7	92
⑩沈洛村	2000m-2190m	7.3	60

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成



写真 3-5 ハクサイ (筆者撮影)

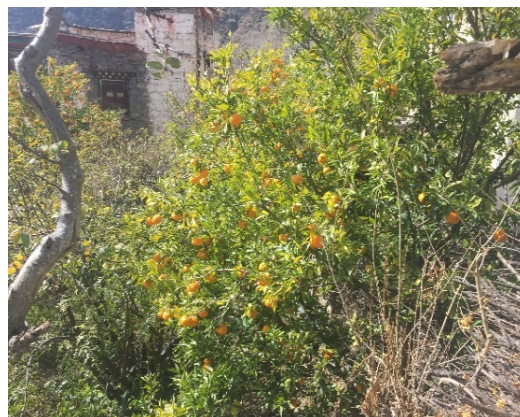


写真 3-6 ミカン (筆者撮影)



写真 3-7 家畜 (牛と豚) (筆者撮影)



写真 3-8 家畜 (鶏) (筆者撮影)

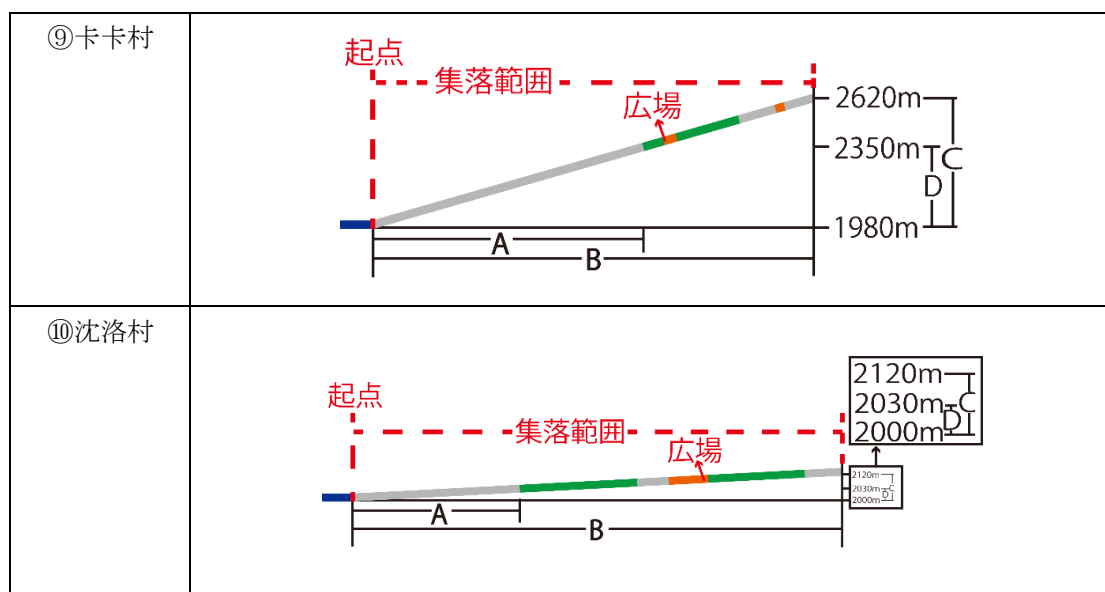
3.3.2 集落の断面

表 3-3 は各集落の断面図である。断面図には、起点、川・国道、農地、住居、樹林・牧地、集落範囲、広場、標高を表示した。距離(A)は起点から集落の一番下にある住居もしくは農地までの距離、距離(B)は起点から集落範囲までの距離、距離(C)は起点と集落範囲の海拔高低差、距離(D)は起点と一番下にある住居か農地までの高低差である。表 3-4 には、断面線の海拔範囲、距離(A) (B) (C) (D)、傾斜度を記載した。傾斜度は距離 B と距離 C の数値に基づいて計算した。

表 3-3 集落断面図

集落	断面図
A 村 (仮想集落)	
①井備村	
②各宗村	

<p>③阿娘寨村</p>	
<p>④莫洛村</p>	
<p>⑤白岬衣村</p>	
<p>⑥洛尔村</p>	
<p>⑦卓斯尼村</p>	
<p>⑧累累村</p>	



「現地調査、ヒヤリング調査と GOOGLE マップ」をもとに筆者作成

表 3-4 集落の断面概要

集落	集落範囲	距離 (m)				傾斜度
		A	B	C	D	
仮想集落	2000m-2240m	200	900	240	50	15°
①井備村	2120m-2600m	220	880	480	180	29°
②各宗村	2000m-2550m	450	1100	550	250	27°
③阿娘寨村	2010m-2450m	410	990	440	230	24°
④莫洛村	1870m-2100m	800	1500	230	100	9°
⑤白呷衣村	1900m-2600m	1610	4260	700	400	9°
⑥洛尔村	2020m-2480m	480	1480	460	180	17°
⑦卓斯尼村	1980m-2000m	100	1700	20	0	1°
⑧累累村	2110m-2500m	1110	2430	390	290	9°
⑨カカ村	1980m-2620m	1380	2300	640	370	16°
⑩沈洛村	2000m-2120m	710	2000	120	30	3°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4 集落の空間構成

3.4.1 集落の地形的特徴

(i) 集落起点の標高

表 3-5 は起点の標高をまとめた表である。起点標高が 1800m 以上～1900m 未満の集落は④であり（以下、「以上」と「未満」の使い方は全て同じ）、1900～2000m の集落は⑤⑦⑨、

2000～2100m の集落は②③⑥⑩、2100～2200m の集落は①⑧である。平均起点標高は1999m である。

表 3-5 集落起点の標高

起点の標高	集落
1800～1900m	④
1900～2000m	⑤⑦⑨
2000～2100m	②③⑥⑩
2100～2200m	①⑧
平均起点標高	1999m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(ii) 集落の面積

表 3-6 は集落の面積をまとめた表である。集落面積が 0～10 km² の集落は①②③④⑥⑦⑨⑩であり、10～20 km² の集落は⑧、20 km²～30 km² の集落は⑤である。平均集落面積は 9.1 km² である。

表 3-6 集落の面積

集落面積 (km ²)	集落
0-10	①②③④⑥⑦⑨⑩
10-20	⑧
20-30	⑤
平均集落面積	9.1 km ²

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(iii) 世帯数

表 3-7 は各集落の世帯数をまとめた表である。集落②③④⑥⑦⑧⑨⑩は 100 世帯未満、集落①⑤は 100～200 世帯である。平均世帯数は 89 である^{注5)}。

表 3-7 集落の世帯数

世帯数	集落
0-100	②③④⑥⑦⑧⑨⑩
100-200	①⑤
平均世帯数	89

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(iv) 集落範囲

表 3-8 は起点から集落の一番下にある住居(農地)までの距離 (A) をまとめた表である。0~400m の集落は①⑦、400~800m の集落は②③⑥⑩、800~1200m の集落は④⑧、1200m 以上の集落は⑤⑨である。平均距離は 727m である。

表 3-8 起点から集落の一番下にある住居(農地)までの距離-A

A	集落
0-400m	①⑦
400-800m	②③⑥⑩
800-1200m	④⑧
1200m 以上	⑤⑨
平均距離	727m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

表 3-9 は起点から集落範囲までの距離 (B) をまとめた表である。0~1000m の集落は①③、1000~2000m の集落は②④⑥⑦、2000~3000m の集落は⑧⑨⑩、3000m 以上の集落は⑤である。平均距離は 1864m である。

表 3-9 起点から集落範囲までの距離-B

B	集落
0-1000m	①③
1000-2000m	②④⑥⑦
2000-3000m	⑧⑨⑩
3000m 以上	⑤
平均距離	1864m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(v) 集落の高低差

表 3-10 は起点と集落範囲の海拔高低差(C)をまとめた表である。0~300m の集落は④⑦⑩、300~600m の集落は①②③⑥⑧、600~900m の集落は⑤⑨である。平均高低差は 403m である。

表 3-10 起点から集落範囲までの海拔高低差-C

C	集落
0-300m	④⑦⑩
300-600m	①②③⑥⑧
600-900m	⑤⑨
平均高低差	403m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

表 3-11 は起点から集落の一番下にある住居(農地)までの高低差をまとめた表である。0~100m の集落は⑦⑩、100~200m は集落①④⑥、200~300m は集落②③⑧、300m 以上の集落は⑤⑨である。平均高低差は 203m である。

表 3-11 起点から集落の一番下にある住居(農地)までの高低差-D

D	集落
0-100m	⑦⑩
100-200m	①④⑥
200-300m	②③⑧
300m 以上	⑤⑨
平均高低差	203m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(vi) 傾斜度

表 3-12 は集落の傾斜度をまとめた表である。0° ~10° の集落は④⑤⑦⑧⑩、11° ~20° の集落は⑥⑨、21° ~30° の集落は①②③である。平均傾斜度は 14.4° である。

表 3-12 集落の傾斜度

傾斜度	集落
0° -10°	④⑤⑦⑧⑩
10° -20°	⑥⑨
20° -30°	①②③
平均傾斜度	14.4°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4.2 道路の種類及び集落と国道の関係

ギャロンチベット族集落の道路は、国道(省道)、主要道路と小道に分かれる。国道とは、国が四川省によって整備された重要道路で、川に沿って整備されている(写真 3-

9)。主要道路（通村路）とは、国道から集落の内部まで通っている一番広い道路である（写真3-10）。主要道路は集落の活動センター、学校、保健室等重要な施設を繋ぎ、等高線に沿って整備されている。小道とは、主要道路から農地、住居を繋ぐ道である（写真3-11）。



写真3-9 国道（省道）（筆者撮影）



写真3-10 主要道路（通村路）（筆者撮影）



写真3-11 小道（筆者撮影）

国道と集落の関係から見ると、二種類に分かれる（表3-13）。

分離：主要道路は国道から分かれて、等高線に沿って、集落の主要施設を繋いでいる。集落内部の小道は主要道路から無規則に伸びて、集落内部の住居と農地を繋いでいる（写真3-12、3-13、3-14）。集落①②③④⑤⑥⑧⑨⑩が該当する。

貫通：国道が集落範囲を横断しており、一部住居は国道に沿って位置し、一部住居は国道から離れて位置している。住居と農地を繋ぐ小道は主要道路と国道から出ている（写真3-15）。集落⑦のみが該当している。集落⑦は比較的最近できた集落であり、集落の防御よりも、利便性を重視したと思われる（写真3-16）。



写真 3-12 等高線に沿って主要道路 (筆者撮影)



写真 3-13 主要道路から無規則に伸びる小道 (筆者撮影)



写真 3-14 主要施設を繋いでいる主要道路 (筆者撮影)

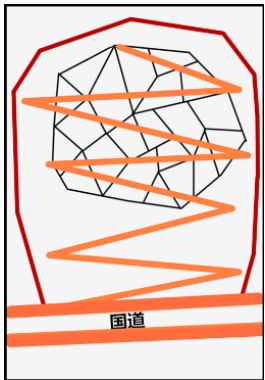
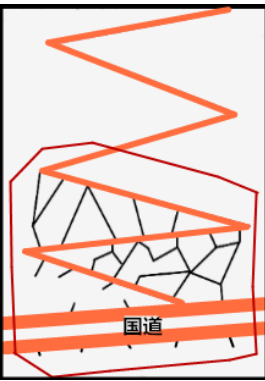


写真 3-15 国道が集落範囲を横断 (筆者撮影)



写真 3-16 国道から出ている小道 (筆者撮影)

表 3-13 集落と国道の関係

道路種類	イメージ図	集落
分離		①②③ ④⑤⑥ ⑧⑨⑩
貫通		⑦

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4.3 公共施設の分布と集落中心地

集落内で確認できた公共施設は保健室、活動センター、広場、学校である(表 3-14)。保健室は簡単な医療施設で、診療所と薬局が設置されている。活動センターには会議室と図書室が設置されている。活動センター、保健室は全集落に設置され、規模は全集落ほぼ同じである。

広場は運動場として使い、お正月の祭りも行う。広場の大きさは集落の広さによって違う。集落⑦は広場がないが学校を集落の広場として使っている。

子どもが減少しているため、学校は各集落に設置せず、各郷に1ヶ所設置している。集落⑤⑦は郷の学校を設置している。

表 3-14 公共施設の分布

集落	保健室	活動センター	広場	学校
①井備村	○	○	○	×
②若宗村	○	○	○	×
③阿娘寨村	○	○	○	×

④莫洛村	○	○	○	×
⑤白呷衣村	○	○	○	○
⑥洛尔村	○	○	○	×
⑦卓斯尼村	○	○	×	○
⑧累累村	○	○	○	×
⑨卡卡村	○	○	○	×
⑩沈洛村	○	○	○	×

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

公共施設は集落の主要道路に沿って、一ヶ所に集中しているか、二ヶ所に分散している(表 3-15)。

集中: 近年は政府の計画に従って、公共施設は1ヶ所に集中させ、保健室付きの多機能活動センターを建造している(写真 3-17)。この場合、広場が整備できる場所に作られる。該当する集落は④⑤⑦⑧⑨である。



写真 3-17 公共施設は1ヶ所に集中(筆者撮影)

分散: 広場は一定の面積が必要なため、その面積が確保できる場所に作られている。活動センターも人が集まる場所として使うため、広場に隣接して設けられている。広場と活動センターが中心地と見られる(写真 3-18)。一方、保健室は狭い敷地に整備できるため、集落の人が使いやすい、別の場所に設けられている。該当する集落は①②③⑥⑩である。

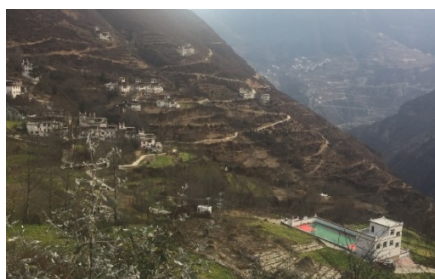


写真 3-18 広場と活動センター(筆者撮影)

表 3-15 集落中心地

	イメージ図	集落
集中		④⑤⑦⑧⑨
分散		①②③⑥⑩

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4.4 集落と川の位置関係及び水源

集落の水源は川と泉の2つである。集落が川の片岸に位置し、川は全集落の入口にあり、川から農地までの距離によって集落の水源が異なる（表 3-16）。

併用：川と泉を併用している場合。生活用水は泉、灌漑水は泉と川の両方を使っている。該当している集落は④⑦⑩である。これらの集落は川から農地までの距離が 150m 以内である（表 3-17）。

専用：泉だけを使う場合。生活用水と灌漑水は「三面光用水路」^{注6)}を利用し、泉を使っている（写真 3-19）。該当する集落は①②③⑤⑥⑧⑨である。



写真 3-19 三面光用水路（筆者撮影）

表 3-16 集落と川の位置関係及び水源

	イメージ図	集落
併用		④⑦⑩
専用		①②③⑤ ⑥⑧⑨

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

表 3-17 川から農地までの距離

距離	集落
0-150m	④⑦⑩
150-300m	①③⑤⑥
300-450m	②⑧
450-600m	⑨
平均距離	234m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4.5 集落の入口

ギャロンチベット族の集落起点は形態上の起点と精神上的の起点^{注7)}に分かれている。形態上の起点は、本論文で起点とした国道と主要道路が分かれているところである(写真 3-20、3-21)。精神的な起点は白塔^{注8)}が置かれている所である(写真 3-22)。白塔の設置場所は二つある。

一つは形態上の起点の近くである。国道と集落の間に川が流れている場合、国道から主要道路が分かれ、橋を渡った所に白塔が設置される。川が国道の向こう側にあり、橋がない場合は国道から主要道路が分かれた所に白塔が設置される。もう一つは主要道路を入った始めのコーナーである。

集落の入口数は単数と複数に分かれる(表 3-18)。

単数:昔は戦争の防御を考え、入口を1つにしていた。該当する集落は①②③④⑥⑦⑨⑩である。

複数:隣に大きいな集落か町があり、入口を2つ設けた方が利便性が高くなる場合、入口を2つ設けている。該当する集落は⑤⑧である。



写真 3-20 集落形態上の起点①（筆者撮影）

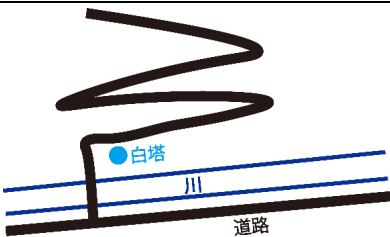

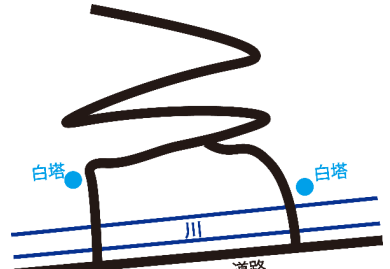


写真 3-21 集落形態上の起点②（筆者撮影）



写真 3-22 集落精神上的の起点（筆者撮影）

表 3-18 集落の入口

入口の数	起点	イメージ図	集落
単数	橋&白塔		①④⑥ ⑩
	白塔		②③⑦ ⑨
複数	橋&白塔		⑤⑧

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4.6 集落と隣村の関係

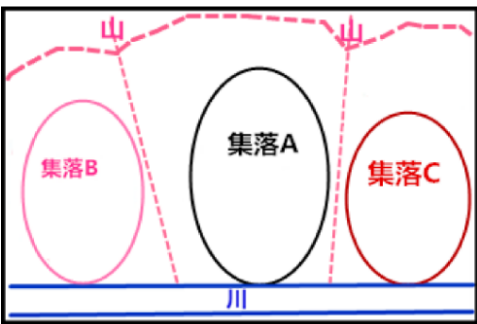
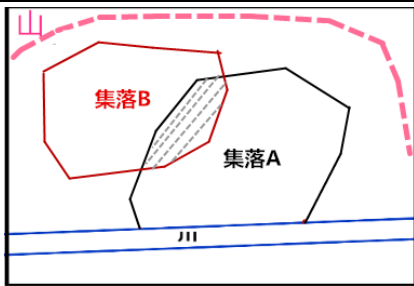
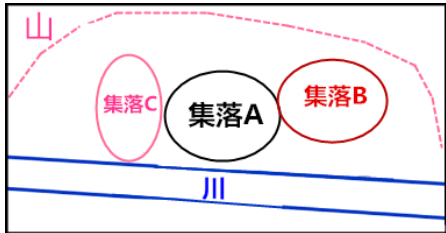
隣り合っている集落との関係は稜線と集落の位置関係から三つに分かれる(表3-19)。

独立:集落と集落の間に稜線があり、一つの谷に一つの集落がある。該当する集落は①③⑤⑧⑨である。

重複:集落範囲が他の集落と重複している。元は一つの集落であったのが、分離した場合であり、居住地、農地と牧地は別々であるが、広場など公共施設を共用している。該当する集落は②である。

隣接:複数の集落が同じ山の麓に隣接分布している。郷の中心地はこの状況が多い。該当する集落は④⑥⑦⑩である。ヒヤリング調査によると、人口が増加し、集落がある程度大きくなると、一定数が別の場所に移住する。集落の周辺に一定数が移住できる場所では、元の集落の近くに新たな集落を形成していた。そのようにしてできた集落は元々一集落として生活していたが、現在では中国の行政構成に従い、別々の集落になっている。

表 3-19 集落と隣村の関係

	イメージ図	集落
独立		①③⑤ ⑧⑨
重複		②
隣接		④⑥ ⑦⑩

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4.7 住宅、農地と牧地の分布

住宅と農地の分布は大きく二つに分かれる(表3-20)。集落には固定的な牧地がなく、牧地は住居と農地の周りに分布している。

集住：2軒から数軒の住宅が固まって立地している。その世帯が耕す農地も一団で整地されている(写真3-23)。該当する集落は④である。

散住：住宅は1軒ずつ建っているが、2軒が隣接する場合もある。農地は各々の住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地されており、一団を形成していない(写真3-24)。該当する集落は①②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩である。



写真 3-23 集住 (筆者撮影)



写真 3-24 散住 (筆者撮影)

表 3-20 住宅、農地と牧地の分布

	イメージ図	集落
集住		④
散住		①②③⑤⑥ ⑦⑧⑨⑩

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4.8 集落の宗教信仰

ギャロンチベット族はボン教とチベット仏教を信仰する(表 3-21)。ボン教を信仰する集落は①②④⑧、チベット仏教を信仰する集落は③⑤⑥⑦⑨⑩である。

宗教に関する施設は白塔、経堂と寺である(写真 3-25、3-26、3-27)。



写真 3-25 白塔 (筆者撮影)



写真 3-26 経堂 (筆者撮影)



写真 3-27 寺 (筆者撮影)

白塔は全集落に分布し、集落内部にも複数の白塔が設置されている。経堂は高齢者や体の不自由の方が簡単な宗教行事を行うために造られた建物である。寺は集落範囲内に有る場合と無い場合がある。集落①②④⑤⑨は集落範囲内にあるが、集落の中心地から離れて、山の背に位置している。集落③⑥⑦⑧⑩は集落の近くに大きな寺があるため、集落範囲内には寺がない。

表 3-21 集落の宗教信仰

集落	宗教施設			宗教信仰
	寺	白塔	経堂	
①	○	○	○	ボン教
②	○	○	○	ボン教
③	×	○	○	チベット仏教 (ゲルク派)
④	○	○	○	ボン教
⑤	○	○	×	チベット仏教 (サキヤ派)
⑥	×	○	○	チベット仏教 (ゲルク派)

⑦	×	○	×	チベット仏教（ゲルク派）
⑧	×	○	○	ボン教
⑨	○	○	○	チベット仏教（ゲルク派）
⑩	×	○	○	チベット仏教（ゲルク派）

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.4.9 集落と望楼

望楼とは、ギャロンチベット族集落のシンボルとして知られる。防御のため、石と土を使って作られた高い塔である(写真 3-28)。

望楼は隘碣、烽火碣、寨碣、家碣の4種類に分かれる^{3), 注9)}。

表 3-22 は各集落の望楼数をまとめた表である。不明の集落③⑥⑧を除き、望楼が10個以上の集落は②⑤であり、1～10個の集落は①④⑦⑨であり、望楼がない集落は⑩である。



写真 3-28 集落内の望楼（筆者撮影）

表 3-22 集落内の望楼数

集落	数量 ^{注10)}
①井備村	6
②若宗村	15
③阿娘寨村	不明
④莫洛村	9
⑤白呷衣村	11
⑥洛尔村	不明
⑦卓斯尼村	1
⑧累累村	不明
⑨卡卡村	7
⑩沈洛村	0

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.5 集落分類と集落空間構成

3.5.1 傾斜度と集落面積から見た集落の分類

調査した10集落の距離(A、B)、世帯数は面積と関係があり、高低差(C、D)は傾斜度と関係しているため、代表的なデータとして集落面積と傾斜度を使って、クラスター分析(最短距離法)を行い集落のタイプ分けを行った。その結果、図3-2、表3-23のように3つのクラスターに分類できた。

クラスター1(小規模急斜面集落と呼ぶ)は、傾斜度が最も高く(15°～30°)、面積は10 km²以内で急な斜面に位置し、コンパクトな集落を形成している。該当するのは集落①②③⑥⑨である。

クラスター2(小規模緩斜面集落と呼ぶ)は、傾斜度が10°以下、面積は10 km²以内で緩やかな斜面に位置し、コンパクトな集落を形成している。集落④⑦⑩が該当する。

クラスター3(大規模緩斜面集落と呼ぶ)は、傾斜度は10°未満、面積が15～30 km²で比較的規模が大きい。集落⑤⑧が該当する。

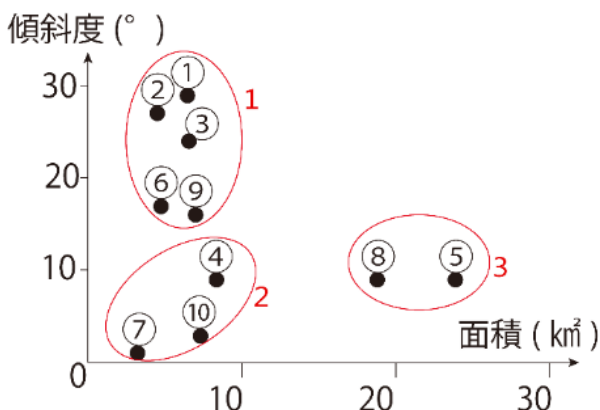


図3-2 傾斜度と集落面積から見た集落の分類

表3-23

傾斜度と集落面積から見た集落の分類

	集落の分類	集落
1	傾斜度が15°～30° 集落面積が0～10 km ²	①②③ ⑥⑨
2	傾斜度が0°～10° 集落面積が0～10 km ²	④⑦⑩
3	傾斜度が0°～10° 集落面積が15～30 km ²	⑤⑧

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.5.2 集落範囲、川と国道から見た集落分類

調査した集落はすべて川及び国道沿いに位置しているため、集落範囲、川と国道に着目し、以下の集落分類を行い、3つ類型に分類できた(表3-24)。

類型1: 川に対して、国道と集落が同じ方向に位置し、国道と集落範囲が分離している場合。国道と集落は主要道路で結ばれる。該当する集落は②③⑥⑨である。

類型2: 川に対して、国道と集落が同じ方向に位置し、国道が集落範囲を貫通している場合。該当する集落は⑦である。

類型3: 川に対して、国道と集落が別の方向に位置し、国道と集落は主要道路で結ばれる場合。該当する集落は①④⑤⑧⑩である。

表 3-24 集落範囲、川と国道から見た集落分類

	類型 1	類型 2	類型 3								
片岸											
	<table border="1"> <tr> <td>川</td> <td>— (yellow)</td> <td>主要道路</td> <td>— (grey)</td> </tr> <tr> <td>国道</td> <td>— (black)</td> <td>集落範囲</td> <td>— (red)</td> </tr> </table>	川	— (yellow)	主要道路	— (grey)	国道	— (black)	集落範囲	— (red)		
川	— (yellow)	主要道路	— (grey)								
国道	— (black)	集落範囲	— (red)								
集落	②③⑥⑨	⑦	①④⑤⑧⑩								

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.6 集落分類と集落空間構成の関係性

3.4の集落空間構成に関する分析と3.5.1の集落分類を比較して、両者の関係性を見る。

関係性が認められる点は以下である。

表 3-14:公共施設の分布から、学校が集落内にあるのは2集落(⑤、⑦)である。それらは郷の中心であり、郷の中心は比較的傾斜度が緩い集落になっている(クラスター2, 3)。表 3-17:集落と川の位置関係及び水源から、川を水源としている集落は傾斜度が緩い集落(④、⑦、⑩)である(クラスター2)。表 3-19:集落の入口が2箇所ある集落は、傾斜角が緩く、面積が大きい集落(⑤、⑧)である(クラスター3)。表 3-20:隣村と隣接している集落は傾斜角が緩く、面積の小さい集落(④、⑦、⑩)である(クラスター2)。ただし集落⑥は例外である。

関係性が認められない点は以下である。表 3-15:公共施設の立地は最近の政策で進められているものであり、集落の地形的な分類との関係性は認められない。

表 3-21:住宅と農地の分布については、国道が集落を横断、集住しているのは1集落であり、関係性が分からない。

集落範囲、川と国道から見た集落分類との関係性は認められるのは表 3-13:集落と国道の関係、表 3-17:集落と川の位置関係及び水源である。

3.7 まとめ

3.7.1 ギャロンチベット族集落空間構成の特徴

ギャロンチベット族集落空間構成の特徴は地形的特徴と集落内部の特徴及び隣村と

の関係からまとめた(表 3-25)。

調査したギャロンチベット族の地形的特徴は以下の通りになる。起点の標高で見るとすべての集落が 1800m から 2200m の間に含まれる。起点から最も標高の高い住居（農地）までの距離は 1000m～2000m が 6 集落と多く、世帯数は 100 未満が 6 集落である。傾斜度は、最大が 29°、最低が 1° でばらついている。

集落の内部特徴は以下の通りになる。集落の道路は国道、主要道路と小道で構成されている。国道に主要道路を付けて、国道から奥まったところに集落がある。集落⑦は比較的新しく作られたが、国道が集落を横断し、国道沿いに集落が作られている。

集落内の公共施設は保健室、活動センター、広場、学校であり、活動センター、保健室は全集落に設置され、広場は設置していない集落もある。学校は郷を単位にしているため、大半の集落では学校が設置されていない。元々公共施設は集落内に分散して設置されていたが、最近では政府の政策によって、公共施設は 1ヶ所に集中して設置している。

望楼は 9 集落に分布している。数が不明の集落を除き、望楼が 10 個以上存在するのは 2 集落、10 個以内は 4 集落、望楼がないのは 1 集落である。

水源は川と泉の 2 つである。両方を水源としている集落は 3、泉のみを水源としている集落が 7 である。両方を水源としている集落は川から農地までの距離が 150m 以内であり、どの水源を使うかは川からの距離によって決まると思われる。

集落の入り口は 1ヶ所が基本であるが、近くの集落と繋がるため、2ヶ所設けている集落もある。

住居は 1軒ずつ立地し、農地はその周辺にばらばらと立地している集落が 9 集落である。残りの 1 集落は住居と農地が一団地として立地している。

宗教施設は、寺、経堂、白塔であり、白塔はすべての集落に設置されている。

隣接集落との位置関係について、稜線に挟まれた谷に 1 集落ずつ形成されるのが基本である。世帯数が増えた場合、一定数が周辺に移住する。元の集落が立地する谷が比較的広い場合には、新たな集落をその谷内に形成する。そのような集落はかつて一集落としていたが、現在は中国の行政構成に従い、別々の集落になっている。

表3-25 調査対象ギャロンチベット族集落空間構成の特徴

		特徴	該当する集落数
地 形 的 特 徴	起点の標高	1800～2200m	全集落
	起点から最も標高の高い 住居（農地）までの距離	1000～2000m	6
	集落面積	0～10km ²	8
	世帯数	100未満	6
	傾斜度	0～10°	5

内部特徴	道路		国道、主要道路と小道で構成	全集落
			国道に主要道路を付けて、国道から奥まったところに集落がある	9
	公共施設	活動センター	設置	全集落
		保健室	設置	全集落
		広場	設置	9
		学校	集落範囲内になし	8
	望楼		分布している	9
	水源		泉	7
	入口		一つ	8
	住居と農地の分布		住居は1軒ずつ立地 農地はその周辺に立地	9
	宗教施設	寺	設置	5
		白塔	設置	全集落
		経堂	設置	8
	隣接集落との位置関係		稜線に挟まれた谷に1集落ずつ形成	5

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

3.7.2 集落分類と空間構成の関係

傾斜度と面積でクラスター分析すると、クラスター1(小規模急斜面集落)、クラスター2(小規模緩斜面集落)、クラスター3(大規模緩斜面集落)の三つに分かれた。集落の分類と集落空間構成の関係は以下の通りになる(表3-26)。

関係あるのは、学校は郷の中心村にあり、郷の中心村はクラスター2(小規模緩斜面集落)とクラスター3(大規模緩斜面集落)に属する。②川と泉を水源としている集落はクラスター2(小規模緩斜面集落)に属する。③入口が複数の集落はクラスター3(大規模緩斜面集落)に属する。④隣村と隣接している集落はクラスター2(小規模緩斜面集落)に属する。

関係ないのは、公共施設の立地である。

関係が分からないのは、住宅と農地の分布である。

集落範囲、川と国道から見た集落分類との関係性から分析すると、関係性が認められたのは表3-13:集落と国道の関係、表3-17:集落と川の位置関係及び水源である。

表 3-26 集落分類と集落空間構成の関係性

	関係性	表	特徴	集落	
クラスター分析	あり	3-14	学校が集落内にあり、集落が郷の中心地に位置する——比較的傾斜度が緩い	⑤⑦	クラスター2 クラスター3
		3-17	川を水源としている 傾斜度が緩い	④⑦ ⑩	クラスター2
		3-19	入口が2箇所ある 傾斜角が緩く、面積が大きい	⑤⑧	クラスター3
		3-20	隣村と隣接している 傾斜角が緩く、面積が小さい	④⑦ ⑩	クラスター2
	なし	3-15	公共施設の立地は最近の政策影響を受けている		
	不明	3-21			
集落範囲、川と国道から見た集落分類	あり	3-13	川に対して、国道と集落が同じ方向に位置し、国道と集落範囲が分離している。	②③	類型1
		3-17	川に対して、国道と集落が同じ方向に位置し、国道と集落は主要道路で結ばれる。	⑥⑨	
			川に対して、国道と集落が同じ方向に位置し、国道が集落範囲を貫通している。	⑦	類型2
			川に対して、国道と集落が別の方向に位置し、国道と集落は主要道路で結ばれる。	①④ ⑤⑧ ⑩	類型3

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

注

- 1) 中国の行政構成は省級行政区、地級行政区、県級行政区、郷級行政区となっている。省級行政区は省、自治区、直轄市である。地級行政区は地級市、自治州などである。県級行政区は県、自治県などである。郷級行政区は鎮、郷である。郷は一番小さい単位である。郷は数個か十数個の集落で構成されている。
- 2) 政府の政策によると、道路は国道、通村路、入戸路に分かれている。国道は政府が整備した重要道路であり、通村路は国道から集落内部まで通っている一番広い道路であり、入戸路は通村路と住居を繋げる道である。住民によると、国道は「主路」と呼ばれ、通村路と入戸路は「小道」と呼ばれている。農牧地を繋げる道には呼び方がない。道路の機能を明らかにするため、本論では国道を「国道」、通村路を「主要道路」、入戸路と農牧地に繋がる道を「小道」と呼ぶ。

- 3) 集落⑦は、国道が集落を横断しており、国道沿いにも住居が建っている。そのため、国道と主要道路の分岐点を起点とすると、一部の住居が起点の外に立地していることになる。そこで集落⑦については国道に設置されている村の標識を起点とした。標識は集落の両端に設置されているが、そのうち町に近い方の標識を起点とした。標識は設置している集落と設置していない集落がある。
- 4) 集落⑥、⑦の正確な世帯数が不明のため、ヒヤリング調査で得た 50-100 世帯で表示した。
- 5) 集落⑥と⑦の世帯数は概数のため、平均世帯数の算出には含めていない。
- 6) 「三面光用水路」とは、政府から支援金を貰って、泉から水を引く水道であり、「人畜引水項目」の一部分である。白塔とは、チベット仏教とボン教に関する塔状宗教施設である。
- 7) 白塔より奥は集落に入ったことを意味しているため精神点起点とした。
- 8) 白塔とは、チベット仏教とボン教に関する塔状宗教施設である。白塔は以下三つの機能を持っている。
 - ①集落の入口表示物として、集落の入口を表示する。
 - ②集落の境界表示物として、隣村との境界を表示する。
 - ③宗教的な行事を開催する場として、住民たちが経を読みながら白塔の周囲を回る。
- 9) 四川省文物局の資料によると、丹巴県内の望楼は第六批全国重点文物保护单位に入っている。古建築公布批号は 6-0697-3-400 であり、文献「国务院关于核定并公布第六批全国重点文物保护单位的通知」に記載されている。
(URL: http://www.gov.cn/zhengce/content/2008-03/28/content_5910.htm)
また、カンゼ州文化局と成都市博物館の文章「丹巴古碉群現状及価値」, 康定民族師範高等専科学校学報, 第 15 卷第 4 期, pp. 1-5, 2006. 8 によると、丹巴県に現存している望楼の数は 562 であり、下記の 4 種類に分かれる。
(URL: <https://www.doc88.com/p-3691241086756.html>)
隘碉:集落の防御にとって重要な場所につくられた望楼。
烽火碉:敵襲などを急報するために作られた望楼。
寨碉:集落の境界を表すため作られた望楼。
家碉:家と繋がって、敵襲の時すぐ避難できるため作られた望楼。
- 10) 現存している数ではなく、以前存在していたが現在は喪失しているものも含まれる。

参考文献

- 1) 丹巴县人民政府: 人口民族 (参照 2021. 11. 10) (in Chinese)
- 2) 丹巴县 2009 年行政区划 (参照 2021. 12. 21) (in Chinese)
<https://www.com300.com/510000/513300/513323/30486.html>
- 3) 松岡 正子: ギャロン・チベット族における「碉」の記憶と資源化: 四川省丹巴県の「碉」を事例として, 国立民族学博物館調査報告, 第 142 卷, pp. 239-262, 2017
(DOI: <http://doi.org/10.15021/00008639>)



第4章

ムヤチベット族集落の空間構成

第4章 ムヤチベット族集落の空間構成

4.1 本章目的

本章ではムヤチベット族自治州にあるムヤチベット族集落 11ヶ所を対象に、現地調査を通じて、1)集落の地形的特徴(平面等)、2)集落の地形的特徴(断面等)、3)集落③について、4)道路の分布、5)公共施設の分布と集落中心地、6)集落の水源、7)集落の入口、8)集落と隣村の関係、9)住宅、農地と牧地の分布、10)宗教信仰を分析し、ムヤチベット族集落空間構成の特徴を明らかにして、それをもとに集落のタイプ分けを行い、各々の特徴を明らかにする。

4.2 調査地概要

調査対象地である康定市は、中国四川省カンゼチベット族自治州東部に位置している(図 4-1)。茶馬古道の重要構成であり、チベット族と漢族の交流中心として知られる。市の面積は1.16万km²¹⁾、人口は133606人(2018年)で、民族構成はチベット族が72.47%、漢族とほかの少数民族が27.53%である²⁾。自治州内でムヤチベット族が集落を形成しているが、集住している中心地は康定市であり、調査地に選定した。

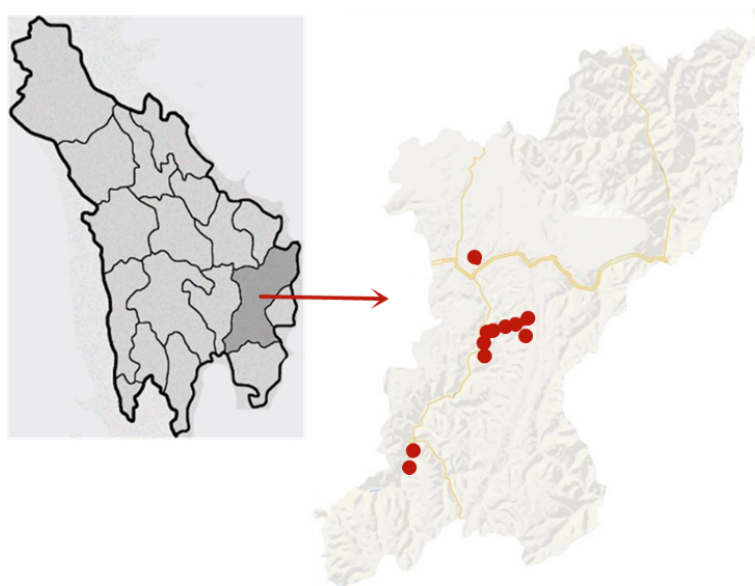


図 4-1 調査地と対象集落

出典：「BAIDU 图片&ウィキペディア—カンゼチベット族自治州」をもとに筆者作成

調査期間は2017年10月1日～2017年11月2日で、調査方法は現地調査である。調査したムヤチベット族集落は、①新都橋鎮麦巴村、②普沙绒郷蓮花湖村(写真4-1)、③普沙绒郷宜代村(写真4-2)、④甲根坝鎮启卡村、⑤甲根坝鎮立泽村(写真4-3)、⑥甲根坝鎮提吾村(写真4-4)、⑦甲根坝鎮日欧村、⑧甲根坝鎮昌木村、⑨甲根坝鎮扎日村、⑩甲根坝鎮亚弄村、⑪甲根坝鎮日泽村である(以下は所属を省略し、村名で表示する)。

村長、高齢者を対象にしてヒヤリング調査を行った。また集落平面図、断面図を作成した。調査によると、11集落の主要な生業は農業、牧業である。主要な農産品は大麥、ジャガイモ、トウモロコシであり、牧業収入はヤク(ヤクの乳製品、バター)、豚、馬(観光開発)である。



写真 4-1 普沙绒郷蓮花湖村の一部(筆者撮影)



写真 4-2 普沙绒郷宜代村の一部(筆者撮影)



写真 4-3 甲根坝鎮立泽村の一部(筆者撮影)



写真 4-4 甲根坝鎮提吾村の一部(筆者撮影)

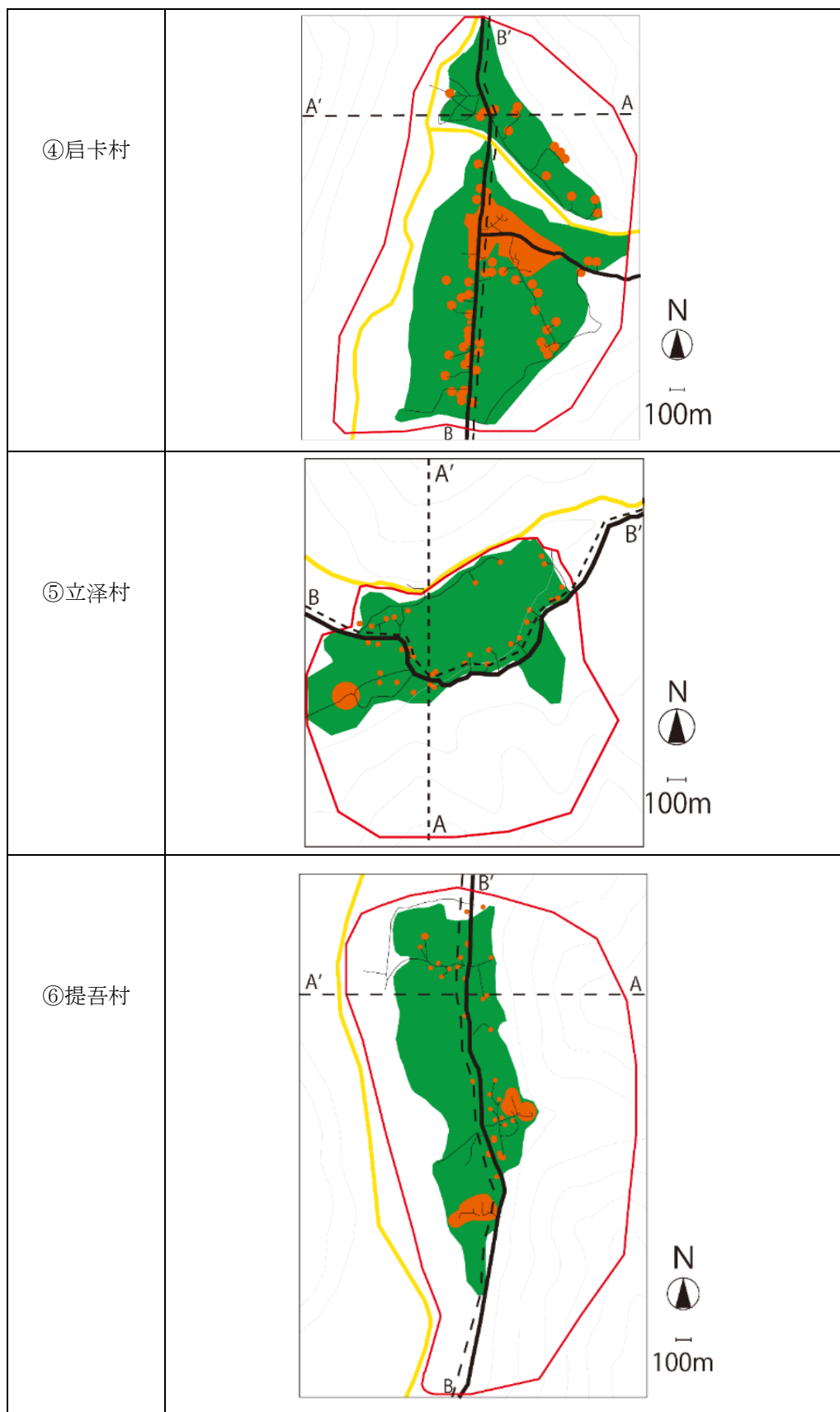
4.3 集落の概要(平面、断面、集落③について)

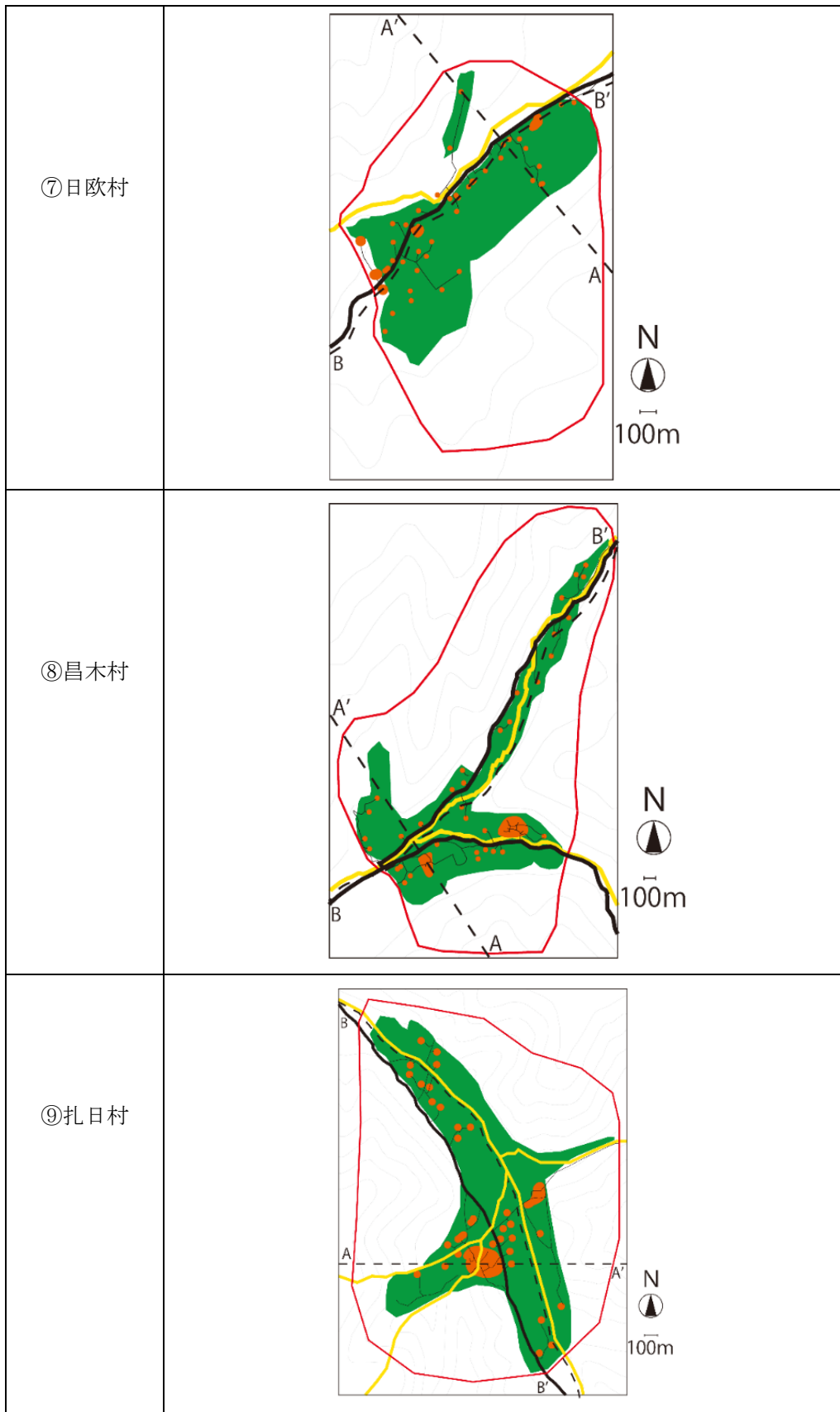
4.3.1 集落の平面

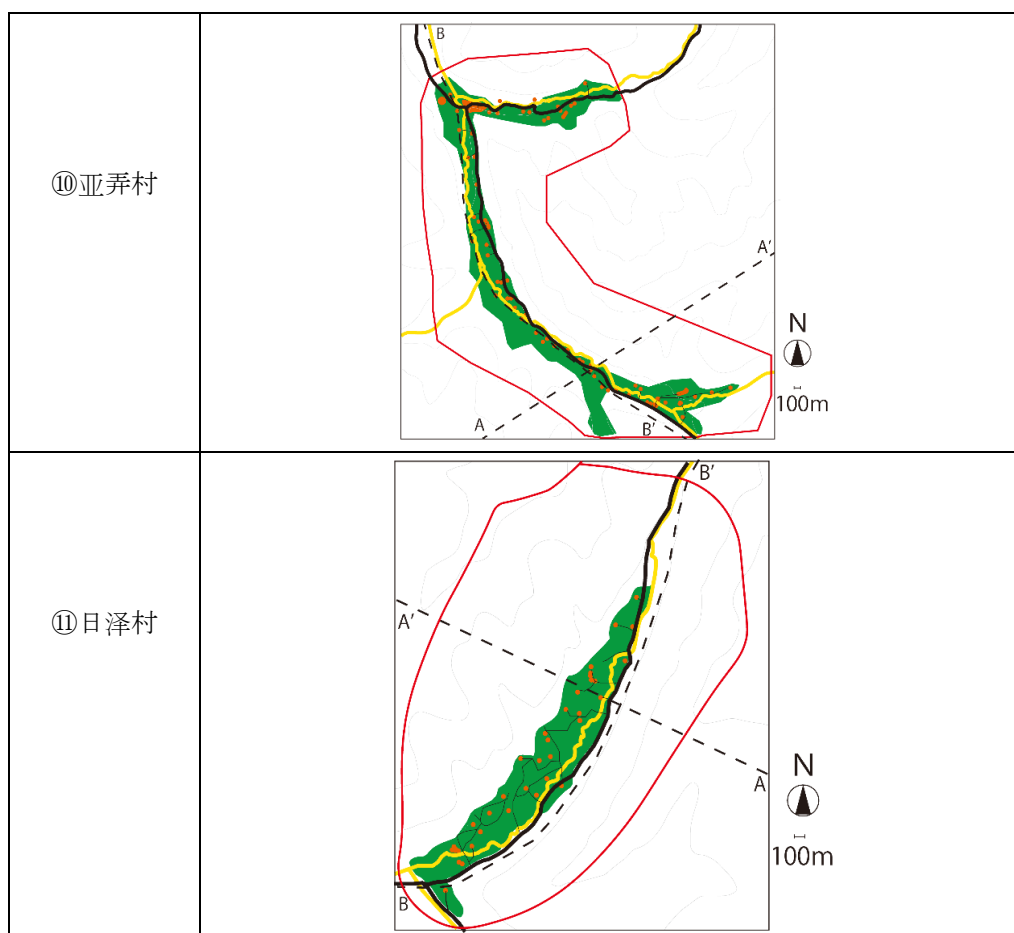
表 4-1 の最初に仮想集落を例として調査項目を説明する。表 1 は集落の平面概要(海拔範囲、集落面積、世帯数)である。仮想集落 A は A 郷に属するムヤチベット族の集落である。牧地は明確な境界がないため、ヒヤリングから得た家畜移動範囲を牧地とした。集落範囲は、農地、住居、牧地・樹林で囲まれた範囲である。集落範囲も明確な境界がないため、ヒヤリングで確認した。平面図には農地、住居、牧地・樹林、川、国道、主要道路、集落範囲、断面図作成用断面線を表示している。断面線は川もしくは国道を沿った線(縦断)とその線に対して、垂直方向の海拔差が一番大きい所の断面線(横断)の 2 面を示した(集落③を除く)。海拔範囲は集落範囲内の最高海拔と最低海拔で、GOOGLE 地形図から読み取った³⁾。

表 4-1 集落の平面図

集落	平面図
<p>A郷A村 (仮想集落)</p>	
<p>①麦巴村</p>	
<p>②蓮花湖村</p>	
<p>③宜代村</p>	







「現地調査、ヒヤリング調査と GOOGLE マップ」をもとに筆者作成

表 4-2 集落の平面概要

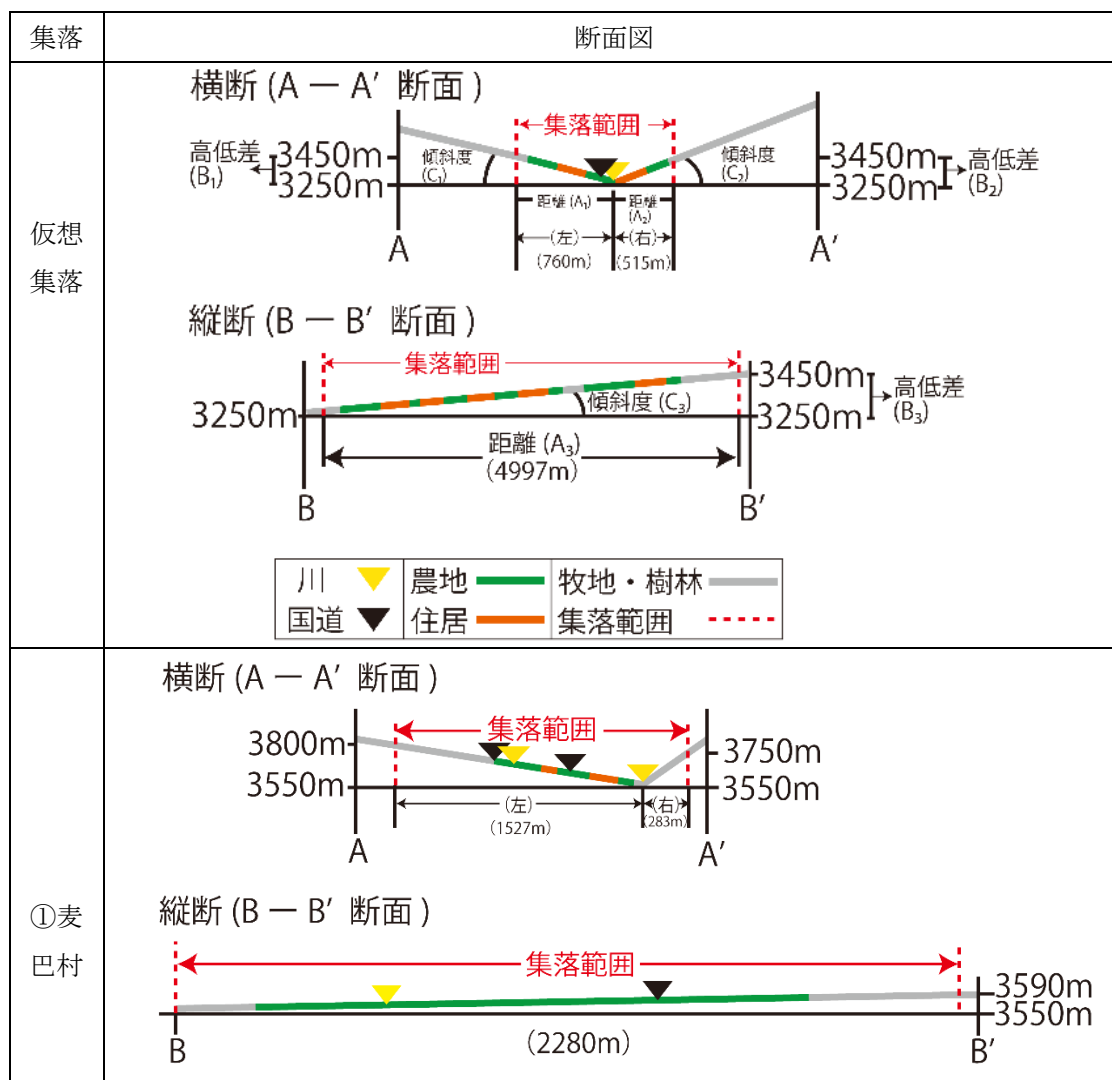
集落	海拔範囲(m)	集落面積(km ²)	世帯数
① 麦巴村	3550～3900	8.02	93
② 蓮花湖村	3180～3800	3.7	101
③ 宜代村	2950～3200	2.56	124
④ 启卡村	3300～3600	3.6	87
⑤ 立泽村	3400～3700	2.87	40
⑥ 提吾村	3300～3800	6.13	42
⑦ 日欧村	3400～3800	3.71	43
⑧ 昌木村	3500～3900	6.79	48
⑨ 扎日村	3600～4100	5.28	57
⑩ 亚弄村	3600～4200	20.17	71
⑪ 日泽村	3700～4200	13.97	50

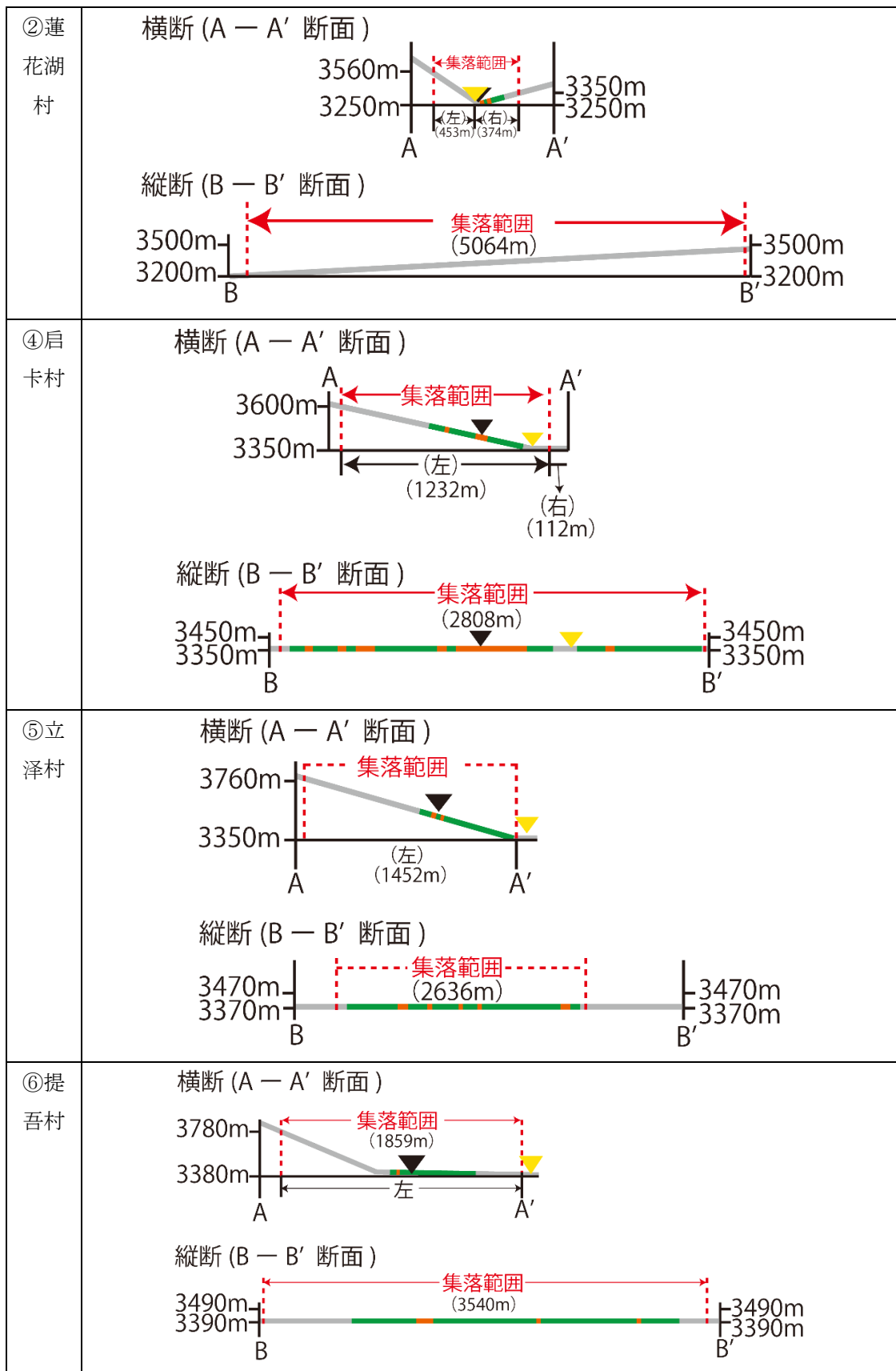
「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

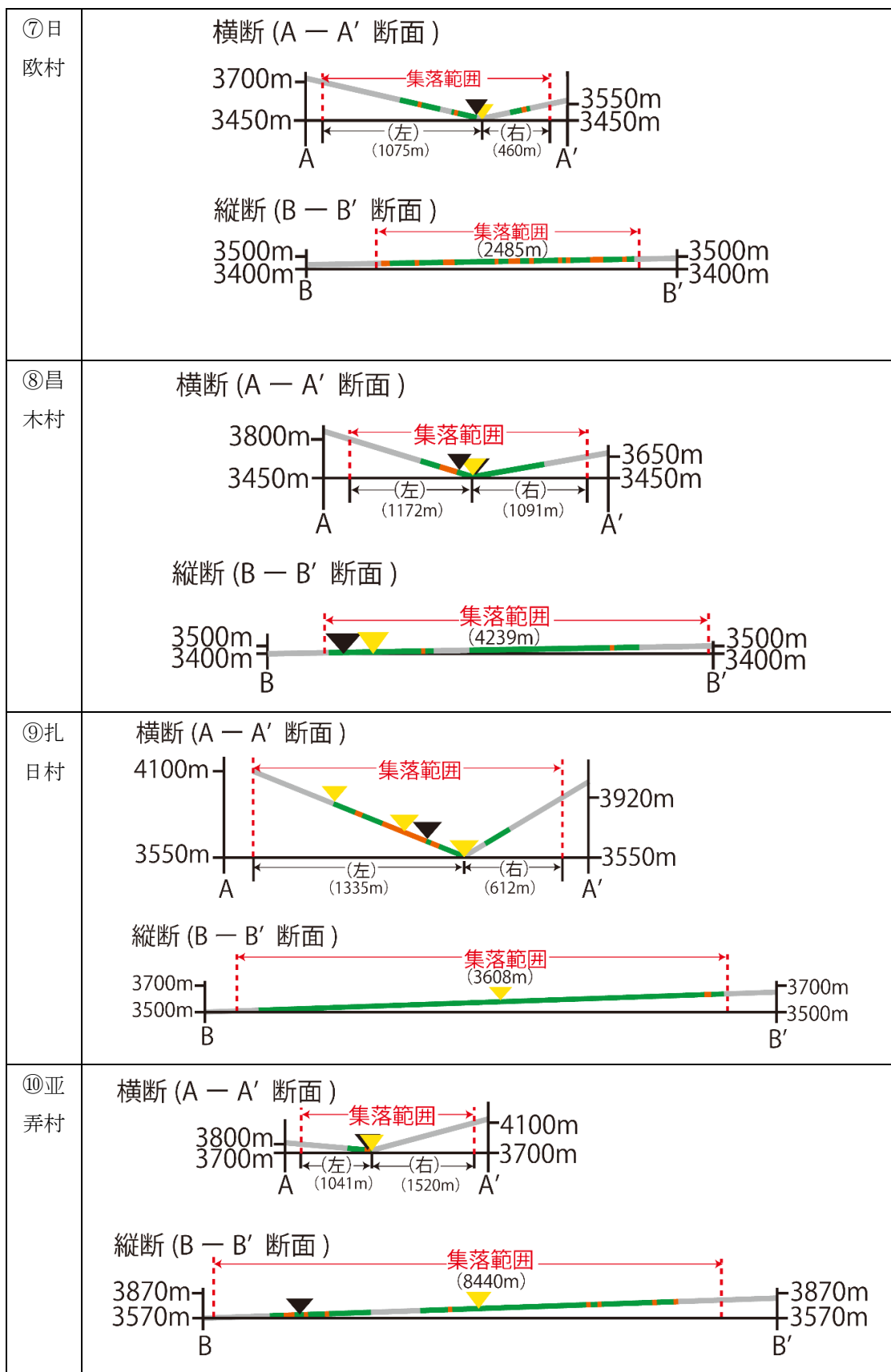
4.3.2 集落の断面

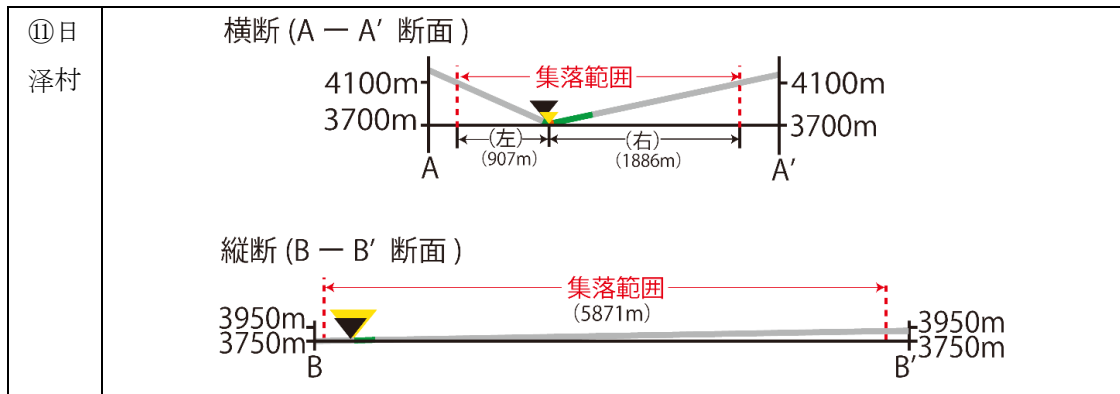
表4-3は各集落の断面図である。断面図には、川、国道、農地、住居、牧地・樹林、集落範囲、断面線、断面線が通っている海拔の最高と最低を表示している。表4-4、表4-5には、断面線が通っている海拔範囲、海拔の最低点から最高点までの距離(A)、高低差(B)、傾斜度(C)を記載している。傾斜度は距離Aと高低差Bの数値に基づいて計算した。断面図は横断(A-A'断面)、縦断(B-B'断面)の二つに分かれて作成した。横断の場合、右は右岸であり、距離(A₁)、高低差(B₁)、傾斜度(C₁)を表示している。左は左岸であり、距離(A₂)、高低差(B₂)、傾斜度(C₂)を表示している。縦断の場合には距離(A₃)、高低差(B₃)、傾斜度(C₃)を表示している。集落③は川に沿って分布するのではなく、山の斜面に位置しているため、ほかの集落とは形態が異なる。そのため、表4-4、4-5には入れず、後述している。

表4-3 集落の断面図









「現地調査、ヒヤリング調査とGOOGLEマップ」をもとに筆者作成

表4-4 集落の断面概要(横断)

集落	左				右			
	海拔範囲 (m)	距離 A ₁ (m)	高低差 B ₁ (m)	傾斜 度 C ₁	海拔範囲 (m)	距離 A ₂ (m)	高低差 B ₂ (m)	傾斜度 C ₂
①	3800～3550	1527	250	9°	3550～3750	283	200	35°
②	3560～3250	453	310	34°	3250～3350	374	100	15°
④	3600～3350	1232	250	11°	3350～3350	112	0	0°
⑤	3760～3350	1452	410	16°	なし	なし	なし	なし
⑥	3780～3400	1859	400	12°	なし	なし	なし	なし
⑦	3700～3450	1075	250	13°	3450～3550	460	100	12°
⑧	3800～3450	1172	350	17°	3450～3650	1091	200	10°
⑨	4100～3550	1335	550	22°	3550～3920	612	370	31°
⑩	3800～3700	1041	100	5°	3700～4100	1520	400	15°
⑪	4100～3700	907	400	24°	3700～4100	1886	400	12°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

表4-5 集落の断面概要(縦断)

集落	海拔範囲 (m)	距離 A ₃ (m)	高低差 B ₃ (m)	傾斜度 C ₃
①	3590～3580	4997	10	1°
②	3200～3470	5064	270	3°
④	3370～3370	2808	20	0°
⑤	3370～3410	2636	40	0°
⑥	3390～3390	3540	0	0°
⑦	3400～3490	2485	90	1°
⑧	3450～3550	4239	100	1°

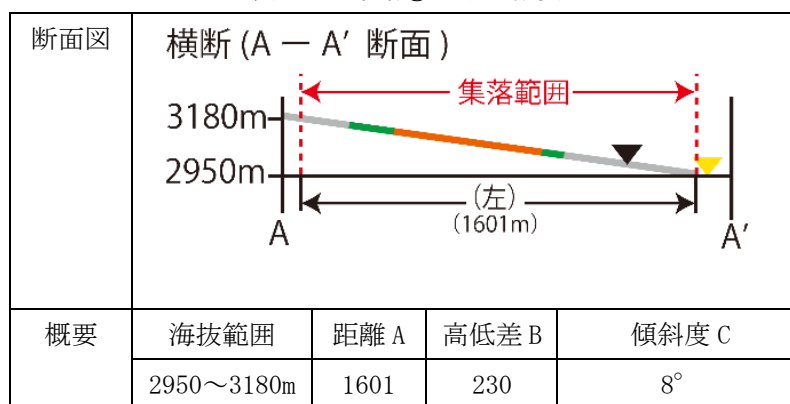
⑨	3500～3650	3608	150	2°
⑩	3570～3810	8440	240	2°
⑪	3750～3900	5871	150	1°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

4.3.3 集落③について

集落③の断面図は縦断のみ作成し、海拔範囲、距離(A)、高低差(B)、傾斜度(C)を表示している(表4-6)。

表4-6 集落③の断面概要



「現地調査、ヒヤリング調査と GOOGLE マップ」をもとに筆者作成

4.4 集落の空間構成

4.4.1 集落の地形的特徴 (平面)

(i) 集落の最低海拔

表4-7は集落の海拔範囲を分析して、集落の最低海拔をまとめた表である。最低海拔が2900m以上～3200m未満の集落は②③であり(以下、「以上」と「未満」の使い方は全て同じ)、3200～3500mの集落は④⑤⑥⑦、3500～3800mの集落は②③⑥⑩、平均最低海拔は3407mである。

表4-7 集落の最低海拔

標高	集落
2900～3200m	②③
3200～3500m	④⑤⑥⑦
3500～3800m	①⑧⑨⑩⑪
平均海拔	3407m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(ii) 集落の面積

表4-8は集落の面積をまとめた表である。集落面積が0～10 km²の集落は①②③④⑥⑦⑧⑨であり、10～20 km²の集落は⑩、20～30 km²の集落は⑪である。平均集落面積は6.98 km²である。

表4-8 集落の面積

面積	集落
0～10 km ²	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨
10～20 km ²	⑩
20～30 km ²	⑪
平均面積	6.98 km ²

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(iii) 世帯数

表4-9は各集落の世帯数をまとめた表である。集落⑤⑥⑦⑧は0～50世帯であり、集落①④⑨⑩⑪は50～100世帯であり、集落②③は100～150世帯である。平均世帯数は69である。

表4-9 集落の世帯数

世帯数	集落
0～50世帯	⑤⑥⑦⑧
50～100世帯	①④⑨⑩⑪
100～150世帯	②③
平均世帯数	69

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

4.4.2 集落の地形的特徴（断面）

(i) 集落範囲（横断）

表4-10は集落の断面図（横断）に関する海拔の最低点から最高点までの距離 A_1 、 A_2 をまとめた表である。

左(A_1)の場合、0～1000mの集落は②⑪、1000～2000mの集落は①④⑤⑥⑦⑧⑨⑩である。平均距離は1205.3mである。

右(A_2)の場合、右岸に集落範囲がない集落は⑤⑥、0～1000mの集落は①②④⑦⑨、1000～2000mの集落は⑧⑩⑪である。平均距離は792.3mである。

表 4-10 海拔の最低点から最高点までの距離 (A₁, A₂)

	集落	
	左 (A ₁)	右 (A ₂)
なし		⑤⑥
0-1000m	②⑪	①②④⑦⑨
1000-2000m	①④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	⑧⑩⑪
平均距離	1205.3m	792.3m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(ii) 集落の高低差(横断)

表 4-11 は集落の断面図(横断)に関する標高の最低点から最高点までの高低差 B₁, B₂ をまとめた表である。

左 (B₁) の場合、0~300m の集落は①④⑦⑩、300~600m の集落は②⑤⑥⑧⑨⑪である。平均高低差は 327m である。

右 (B₂) の場合、0m の集落は④、0~300m の集落は①②⑦⑧、300~600m の集落は⑨⑩⑪である。平均高低差は 221.3m である。

表 4-11 海拔の最低点から最高点までの高低差 (B₁, B₂)

	集落	
	左 (B ₁)	右 (B ₂)
なし		⑤⑥
0m		④
0-300m	①④⑦⑩	①②⑦⑧
300-600m	②⑤⑥⑧⑨⑪	⑨⑩⑪
平均高低差	327m	221.3m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(iii) 傾斜度(横断)

表 4-12 は集落の傾斜度 C₁, C₂(横断) をまとめた表である。

左 (C₁) の場合、0~10° の集落は①⑩、10~20° の集落は④⑤⑥⑦⑧、20~30° の集落は⑨⑪、30° 以上の集落は②である。平均傾斜度は 16.3° である。

右 (C₂) の場合、0° の集落は④、0~10° の集落はなく、10~20° の集落は②⑦⑧⑩⑪、20~30° の集落はなく、30° 以上の集落は①⑨である。平均傾斜度は 16.3° である。

表 4-12 集落の傾斜度 (C₁, C₂)

	集落	
	左 (C ₁)	右 (C ₂)
なし		⑤⑥
0°		④
0~10°	①⑩	
10~20°	④⑤⑥⑦⑧	②⑦⑧⑩⑪
20~30°	⑨⑪	
30° 以上	②	①⑨
平均傾斜度	16.3°	16.3°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(iv) 集落範囲 (縦断)

表 4-13 は集落の断面図 (縦断) に関する海拔の最低点から最高点までの距離 A₃ をまとめた表である。0~3000m の集落は④⑤⑦、3000~6000m の集落は①②⑥⑧⑨⑪、6000~9000m の集落は⑩である。平均距離は 4368.8m である。

表 4-13 海拔の最低点から最高点までの距離 (A₃)

A ₃	集落
0-3000m	④⑤⑦
3000-6000m	①②⑥⑧⑨⑪
6000-9000m	⑩
平均距離	4368.8m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(v) 集落の高低差 (縦断)

表 4-14 は集落の断面図 (縦断) に関する標高の最低点から最高点までの高低差 B₃ をまとめた表である。0m の集落は⑥、0~100m の集落は①④⑤⑦、100~200m の集落は⑧⑨⑪、200~300m の集落は②⑩である。平均高低差は 117m である。

表 4-14 海拔の最低点から最高点までの高低差 (B₃)

B ₃	集落
0m	⑥
0-100m	①④⑤⑦
100-200m	⑧⑨⑪

200-300m	②⑩
平均高低差	117m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(vi) 傾斜度(縦断)

表 4-15 集落の傾斜度 C_3 (縦断)をまとめた表である。 0° の集落は④⑤⑥、 1° の集落は①⑦⑧⑩、 2° 以上の集落は②⑨⑩である。平均傾斜度は 1.1° である。

表 4-15 集落の傾斜度 (C_3)

C_3	集落
0°	④⑤⑥
1°	①⑦⑧⑩
2° 以上	②⑨⑩
平均傾斜度	1.1°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

4.4.2 道路の種類及び集落と国道の関係

集落の道路は、国道(省道)、主要道路と小道に分かれる。国道は政府によって整備された道路であり、主要道路は国道から集落内部まで通っている道路である(写真 4-5、4-6)。小道とは、国道あるいは主要道路と住宅、農地を繋いでいる狭い道である(写真 4-7、4-8)。



写真 4-5 国道(省道)(筆者撮影)



写真 4-6 主要道路(筆者撮影)



写真 4-7 小道 I (筆者撮影)



写真 4-8 小道 II (筆者撮影)

国道と集落の関係から見ると、二種類に分かれる(表 4-16)。

分離: 主要道路は国道から分かれて、等高線に沿って、集落の主要施設を繋いでいる。集落内部の小道は主要道路から無規則に伸びて、集落内部の住居と農地を繋いでいる。集落③が該当する。

貫通: 国道が集落範囲を縦断して、住居と農地は国道、川に沿って位置している。集落①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪が該当する。

表 4-16 集落と国道の関係

類型	イメージ図	集落
分離		③
貫通		①②④⑤⑥ ⑦⑧⑨⑩⑪

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

4.4.3 公共施設の分布と集落中心地

公共施設は保健室、活動センター、広場、学校である(写真 4-9、4-10、4-11、4-12)。政府の計画に従って、活動センター、保健室は全集落に設置されている。集落には複数の空地があり、そこを広場として使っている(図 4-2)。集落会議と祭りは状況によって、場所を選んで行う。



写真 4-9 活動センターと保健室 (筆者撮影)



写真 4-10 保健室外のチラシ (筆者撮影)



写真 4-11 活動センターと広場 (筆者撮影)



写真 4-12 広場 (筆者撮影)

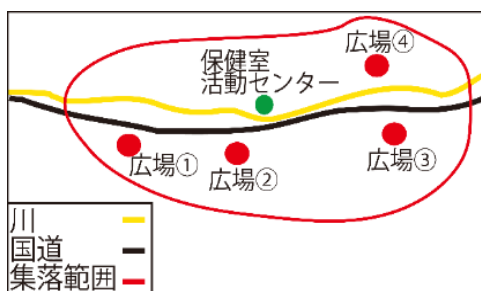


図 4-2 集落内広場の分布状況

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

子どもが減少しているため、小学校は各集落に設置せず、各郷に1ヶ所設置している(表 4-17、写真 4-13、4-14)。集落③④は郷の学校を設置している。郷の小学校が位置している集落以外の各集落には「点小」という学年に関係なく、7歳以下の子供が入学

できる教室がある(写真4-17)。

表4-17 集落内公共施設の分布

集落	小学校	保健室	活動センター	広場
①麦巴村	×	○	○	○
②蓮花湖村	×	○	○	○
③宜代村	○	○	○	○
④启卡村	○	○	○	○
⑤立泽村	×	○	○	○
⑥提吾村	×	○	○	○
⑦日欧村	×	○	○	○
⑧昌木村	×	○	○	○
⑨扎日村	×	○	○	○
⑩亚弄村	×	○	○	○
⑪日泽村	×	○	○	○

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成



写真4-13 郷の学校Ⅰ(筆者撮影)



写真4-14 郷の学校Ⅱ(筆者撮影)



写真4-15 7歳以下子供向き教室(点小)(筆者撮影)

4.4.4 集落と川の位置関係及び水源

集落の水源は川と泉の2つである(写真4-16、4-17、4-18)。川から住居と農地までの

距離によって集落の水源が異なる(表 4-18)。

併用:川が集落範囲を縦断もしくは隣接していて、住居と農地が川に沿って位置している場合、生活用水と灌漑用水は泉と川の両方を使っている。生活用水は処理済みの水道水である。該当している集落は①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪である。

専用:集落の住居と農地は川から離れているため、泉だけを使う。該当する集落は③である。



写真 4-16 水源 (川) (筆者撮影)



写真 4-17 水源 (泉 I) (筆者撮影)



写真 4-18 水源 (泉 II) (筆者撮影)

表 4-18 集落の水源

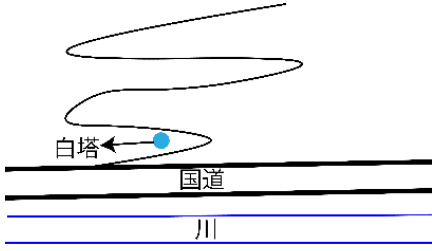
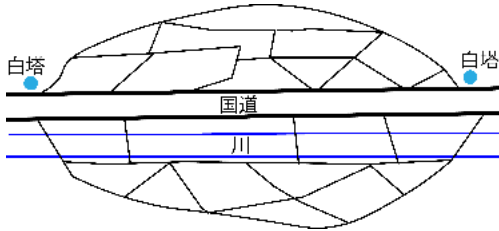
類型	イメージ図	集落
併用		①②④⑤⑥ ⑦⑧⑨⑩⑪
専用		③

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

4.4.5 集落の入口

集落の入口数は単数と複数に分かれる(表 4-19)。調査した集落の入り口には宗教に関する施設白塔^{注1)}が設置されている。

表 4-19 集落の入り口

類型	イメージ図	集落
単数		③
複数		①②④⑤⑥ ⑦⑧⑨⑩⑪

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

単数:集落は山の中腹に位置し、入口が1つである(写真4-19)。該当する集落は③である。

複数: 国道が集落範囲を縦断しているため、入口が2箇所以上である(写真4-20、4-21)。該当する集落は①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪である。



写真 4-19 単数入口 (筆者撮影)



写真 4-20 複数入口 I (筆者撮影)



写真 4-21 複数入口 II (筆者撮影)

4.4.6 集落と隣村の関係

隣り合っている集落との関係は表 4-20 のように二つに分かれる。

独立: 集落と集落の間に稜線があり、一つの谷に一つの集落がある。該当する集落は③である。

隣接: 複数の集落が川を沿って、山の麓に隣接分布している。該当する集落は①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪である。

表 4-20 集落と隣村の関係

類型	イメージ図	集落
独立		③
隣接		①②④⑤⑥ ⑦⑧⑨⑩⑪

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

4.4.7 住宅、農地と牧地の分布

調査した集落の住宅と農地の分布は以下のようになっている。住宅は1軒ずつ建っているか、もしくは何軒が隣接している。農地は各住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地されている(図4-3、写真4-22、4-23)。集落には固定的な牧地がなく、牧地は住居と農地の周りに分布し、馬、ヤク、豚など家畜は集落範囲内を自由に移動している(写真4-24、4-25、4-26)。

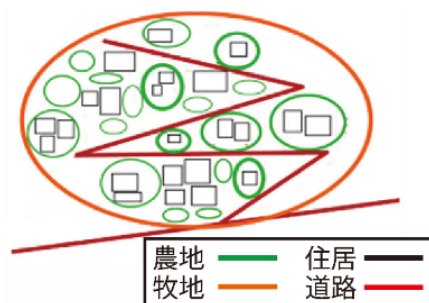


図 4-3 住宅、農地と牧地の分布

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成



写真 4-22 住宅と農地の分布 I (筆者撮影)



写真 4-23 住宅と農地の分布 II (筆者撮影)



写真 4-24 集落範囲内の馬 (筆者撮影)



写真 4-25 集落範囲内のヤク (筆者撮影)



写真 4-26 集落範囲内の豚 (筆者撮影)

4.4.8 宗教について

集落内部の宗教施設は寺、経堂、白塔である(表 4-21)。住民はチベット仏教を信仰している。

ほぼ毎日住民たちが通うため、集落内には複数の白塔と経堂を設置している。寺は集落内もしくは集落範囲外にあり、集落範囲外に寺が設置する場合が多い(写真 4-27、4-28、4-29、4-30)。チベット仏教の祭りを行う時、たくさん信者たちが集まっている。



写真 4-27 経堂 I (筆者撮影)

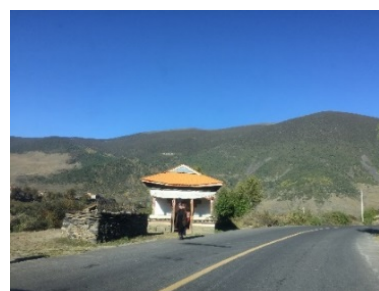


写真 4-28 経堂 II (筆者撮影)

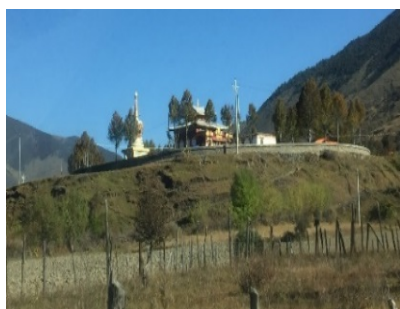


写真 4-29 寺と白塔（筆者撮影）



写真 4-30 経堂と白塔（筆者撮影）

4.5 集落範囲、川と国道の位置関係から見た集落の分類

集落範囲、川と国道の位置関係から、以下のように集落分類を行った（表 4-22）。

類型 1：川が集落範囲内に流れ、国道が集落範囲を貫通する。該当する集落は①②④⑦⑧⑨⑩⑪である。

類型 2：川は集落範囲外に位置し、国道が集落範囲を貫通する。該当する集落は⑤⑥である。

類型 3：川は集落範囲外に流れ、国道と集落範囲は主要道路で結ばれる。該当する集落は③である。

表 4-22 集落範囲、川と国道から見た集落分類

片岸	類型 1	類型 2	類型 3
集落	①②④⑦⑧⑨⑩⑪	⑤⑥	③

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

4.6 まとめ

4.6.1 調査したムヤチベット族集落空間構成の特徴

調査したムヤチベット族集落の空間構成の詳細な特徴は以下の地形的特徴、集落の内部的特徴、集落と隣村の関係三つを分けてまとめられる（表 4-23）。

ムヤチベット族の地形的特徴は以下ようになる。平面から見ると、最低海拔が 3500～3800m の集落が 5 である。集落面積は 0～10km² が 9 集落と多く、世帯数は 100 未満が

9 集落である。集落と川の位置関係から見ると、川が集落範囲を縦断して、住居と農地
が川に沿って、川の両側に位置している集落が6である。断面から見ると、横断の場合
(左岸)、海拔の最低点から最高点までの距離を見ると1000~2000mが8集落であり、集
落の高低差は600m未満、傾斜度数値は30°未満の集落が9である。右岸は海拔の最低
点から最高点までの距離を見ると0~2000mが8集落であり、集落の高低差は0~600m、
傾斜度数値は10°~20°の集落が5である。縦断の場合、海拔の最低点から最高点ま
での距離を見ると3000~6000mが6集落であり、高低差は0~200mの集落が7、傾斜度
数値は0~2°の集落が6である。

集落の内部の特徴は以下の通りになる。集落の道路は国道、主要道路と小道で構成さ
れている。9集落の国道が集落を縦断し、国道もしくは主要道路沿いに集落が作られて
いる。集落内の公共施設は保健室、活動センター、広場、学校である。活動センター、
保健室は政府の政策で全集落に設置され、集落範囲内の広い平地を広場として使ってい
る。学校は郷を単位にしているため、多数の集落では学校が設置されていない。水源は
川と泉の2つである。両方を水源としている集落は10、泉のみを水源としている集落
が1である。集落の入り口は複数の基本であるが、山の中腹に集落がある場合、入り口
は単数である。牧地は住居と農地の周りに分布し、住宅は1軒ずつか、もしくは何軒が
隣接して建っている。農地は各住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地されている。宗
教施設は、寺、経堂、白塔であり、白塔はすべての集落に設置されている。

集落と隣村の関係は以下のようになっている。稜線に挟まれた谷に1集落ずつ形成さ
れるのが1であり、複数の集落が隣接しているのが10である。

表 4-23 調査したムヤチベット族集落空間構成の特徴

			特徴	該当する 集落数	
			最低海拔	3500~3800m	5
			集落面積	0~10km ²	9
			世帯数	100 未満	9
			集落と川の位置関係	川が集落範囲を縦断して、住居と農地 が川に沿って、川の両側に位置している	6
地 形 的 特 徴	横 断 面	左 岸	海拔の最低点から最 高点までの距離	1000~2000m	8
			高低差	600m 未満	9
			傾斜度	30° 未満	9
	右 岸	海拔の最低点から最 高点までの距離	0~2000m	8	

		高低差	600m 未満	5
		傾斜度	10~20°	5
	縦断面	海拔の最低点から最 高点までの距離	3000~6000m	6
		高低差	200m 未満	7
		傾斜度	0~2°	6
内部 特 徴	道路		国道、主要道路と小道で構成されてい る。国道が集落を縦断し、国道もしくは 主要道路沿いに集落が作られている。	9
	公共施 設	保健室	設置	全集落
		活動センター	設置	全集落
		広場	設置	全集落
		学校	集落範囲内になし	9
	水源		川と泉	10
	入口		複数	10
	住宅、 農地と 牧地の 分布	住宅と農地の分布	住宅は1軒ずつか、もしくは何軒が隣 接している。農地は各住宅の周囲もしく は住宅に近接して整地されている。	全集落
		牧地の分布	住居と農地の周囲	全集落
	宗教信 仰物	寺	集落範囲外	
		白塔	設置	全集落
		経堂	設置	全集落
	隣接集落との位置関係		複数の集落が隣接している	10

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

4.6.2 集落分類と特徴

ムヤチベット族の集落は、③とそれ以外に大きく分かれる。調査した項目の中から、集落のタイプ分けに関係している項目を取り出し、集落を二つタイプに分かれる(表4-24)。

表4-24 集落分類と特徴

類型		関係がある項目	特徴	該当する 集落数
	内部の 特徴及	道路の分布	国道が集落を横断し、国道もしくは 主要道路沿いに集落が作られる。	
		集落の水源	川と泉	

1	び隣村との関係			①②④⑤
		集落の入口	複数	⑥⑦⑧⑨
		集落と隣村の関係	複数の集落が隣接	⑩⑪
	地形的特徴	集落と川の位置関係	川に沿って、住居と農地が分布する。	
2	内部の特徴及び隣村との関係	道路の分布	国道から主要道路が分かれ、主要道路が山の中腹に伸び、主要道路沿いに集落が整備される。	③
		集落の水源	泉	
		集落の入口	単数	
		集落と隣村の関係	稜線に挟まれた谷には1集落のみが立地する。	
	地形的特徴	集落と川の位置関係	集落範囲は川から離れ、山の中腹に位置する。	

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

注

- 1) 白塔とは、チベット仏教とボン教に関する塔状宗教施設である。また、集落の範囲あるいは入口を表示している場合が多い。

参考文献

- 1) 康定市人民政府—康定簡介
<http://www.kangding.gov.cn/kdsrmzf/c100438/201907/bdd53cb6ad8b41978e5925d0898209d9.shtml>
- 2) 康定市人民政府—人口民族
<http://www.kangding.gov.cn/kdsrmzf/c100441/list.shtml>
- 3) Google 地図 <https://www.google.co.jp/maps>



第 5 章

カンバチベット族集落の空間構成

第5章 カンバチベット族集落の空間構成

5.1 本章目的

本章ではカンゼチベット族自治州にあるカンバチベット族集落 13 ヶ所を対象に、現地調査を通じて、①集落の地形的特徴(平面)、②集落の地形的特徴(断面)、③集落と国道の関係及び道路の種類、④公共施設の分布、⑤集落と川の位置関係、⑥集落の水源、⑦集落の入口、⑧集落と隣村の関係、⑨住宅、農地と牧地の分布、⑩集落の宗教信仰及び集落と寺の位置関係について分析して、カンバチベット族の複数集落の空間構成を調査し、特徴を分析して、それらの共通点、相違点を明らかにする。また、カンバチベット族集落は集落範囲、河川と道路の位置関係などからいくつかのタイプに分けられると思われる。そのタイプ分けを行う。

5.2 調査地概要

調査地は四川省カンゼチベット族自治州甘孜(カンゼ)県である(図 5-1)。カンゼ県はカンバチベット族が集落を形成して、集住している中心地であり、調査地に選定した。調査集落、川、寺の位置は図 5-2 のようになっている。

カンゼ県は州の北部に位置し、人口は 7.27 万人であり、その内チベット族は総人口の 95%以上を占める。県内平均海拔は 3500m 以上である。県内のチベット族集落は 194 であり、各集落ともチベット族人口が 50%以上を占めている¹⁾。



図 5-1 調査地の位置

出典：「BAIDU 图片&ウィキペディア—カンゼチベット族自治州」をもとに筆者作成

調査地は四川省カンゼチベット族自治州カンゼ県のカンバチベット族集落 13 ヶ所、①四通達村(ストンダ村) (写真 5-1)、②昂達村(アンダ村)、③竹美村(ズウメイ村) (写真 5-2)、④地龍村(ディロン村)、⑤査依村(サイ村) (写真 5-3)、⑥協且達村(シェダン

タ村)、⑦哈登達村(ハデンダ村)、⑧大巴口村(ダバコウ村)、⑨青多村(チンド村)、⑩俄拉村(オラ村)、⑪查多村(ザドウ村)、⑫海拉村(ハイラ村)、⑬生達村(セイダ村) (写真5-4)である。現地調査では村長、高齢者、子供を対象にして、ヒヤリング調査を行った。また集落平面図、断面図を作成した。



図5-2 調査集落の位置

出典：「GOOGLE マップ」をもとに筆者作成



写真5-1 集落①の一部 (筆者撮影)



写真5-2 集落③の一部 (筆者撮影)



写真5-3 集落⑤の一部 (筆者撮影)



写真5-4 集落③の一部 (筆者撮影)

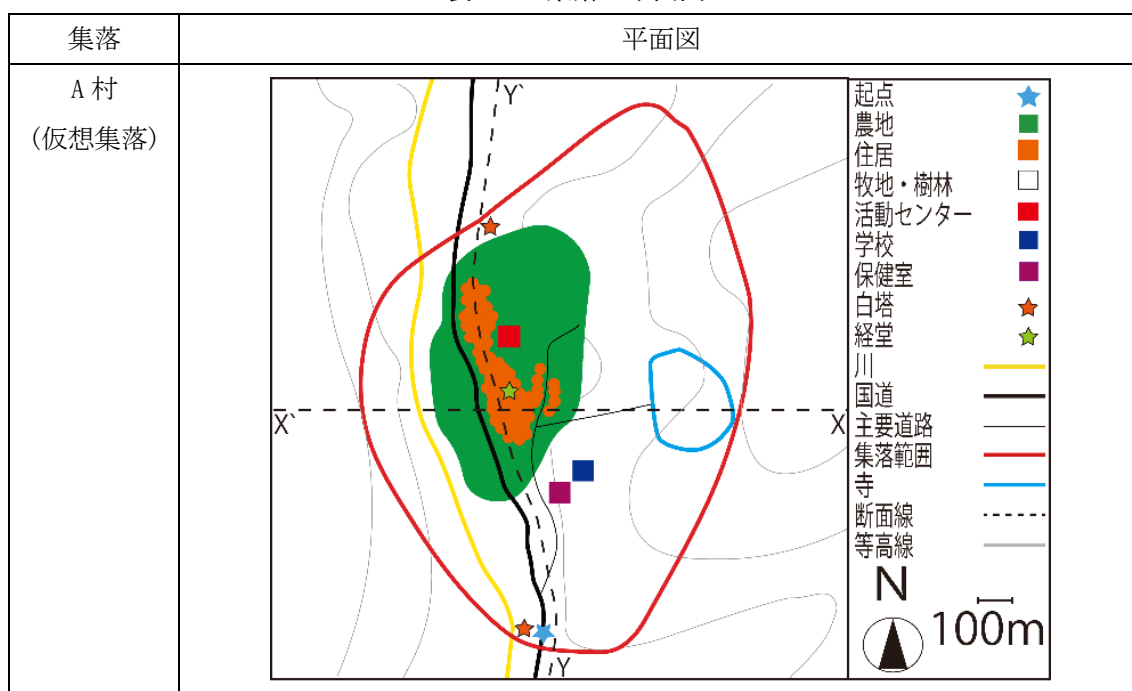
5.3 集落の概要

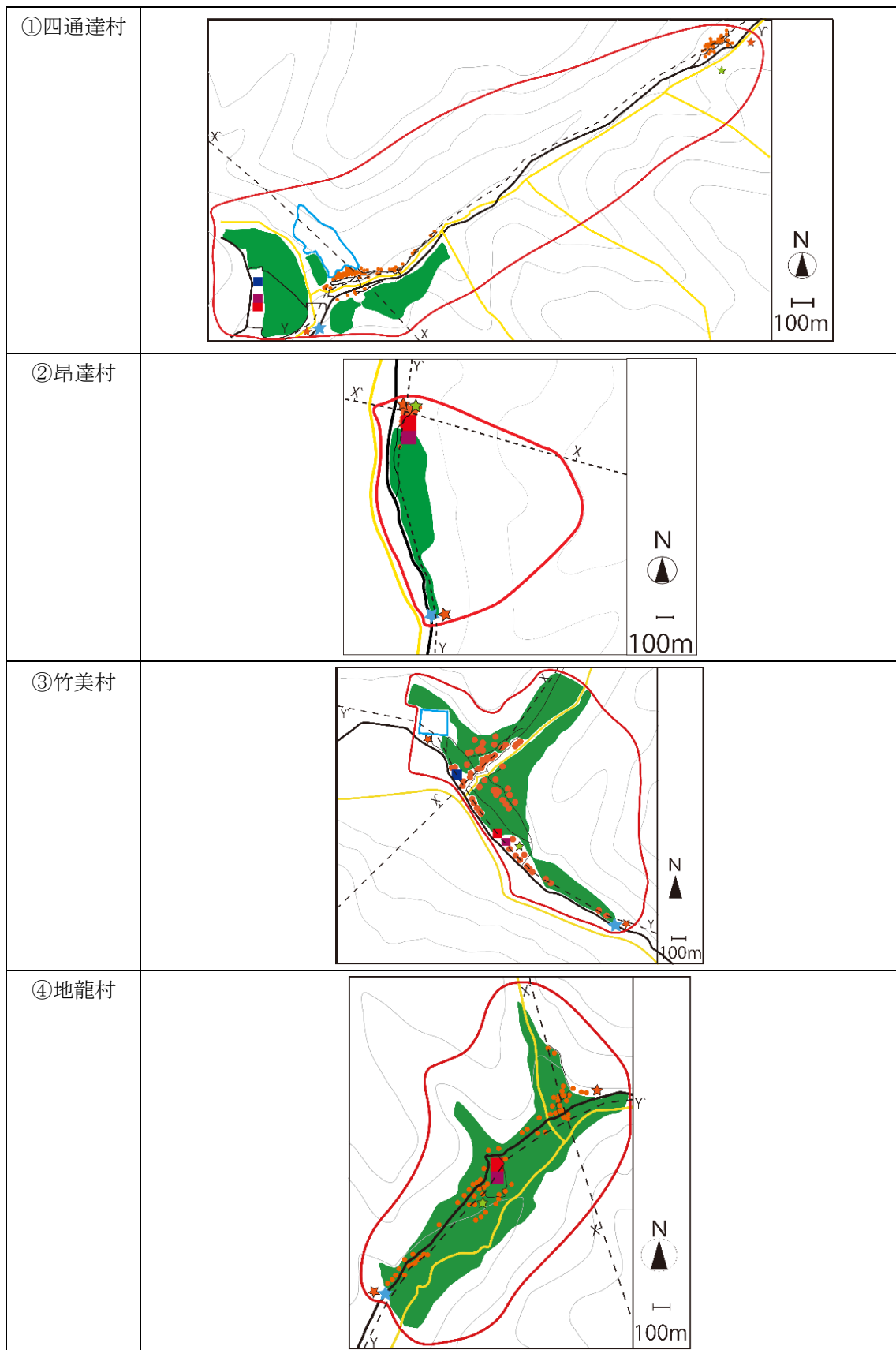
5.3.1 集落の平面

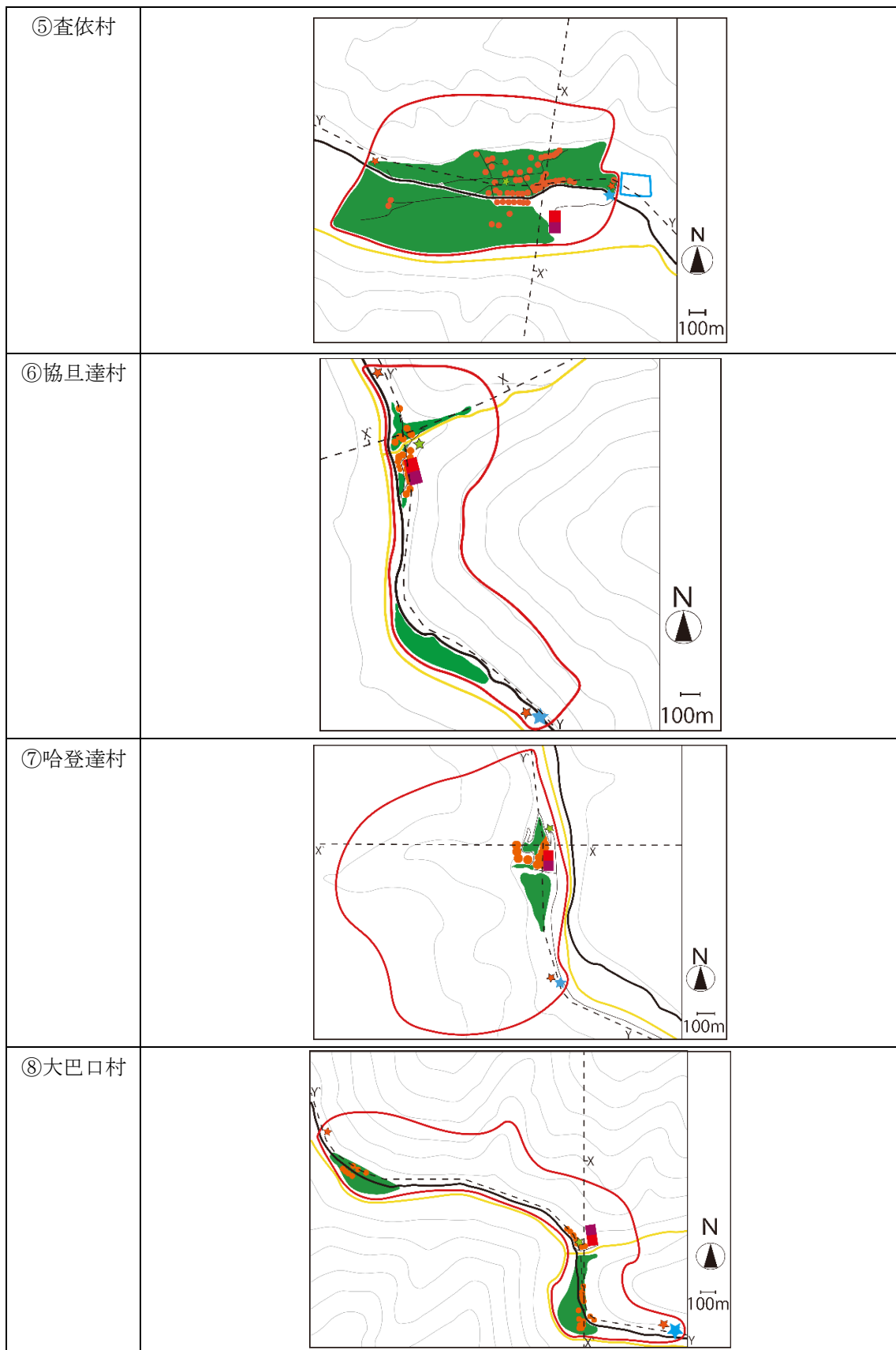
表 5-1 は仮想集落(A 郷 A 村)を含めた、各集落の平面図である。集落③を 1/20000 程度を拡大して、住居、白塔、寺、経堂の写真を入れて作成した(図 5-3)。表 5-2 は各集落の海拔範囲、集落面積、世帯数である。集落は川に沿って通っている国道から分かれた主要道路沿いに位置するか、国道に沿って分布する。また、集落範囲と国道もしくは主要道路の交点(交点が 2 つある場合は海拔が低い方)を調査対象集落の起点とした。牧地は明確な境界がないため、ヒヤリングから得た家畜移動範囲を牧地とした。集落範囲は、川、国道、牧地・樹林で囲まれた範囲である。集落範囲も明確な境界がないため、ヒヤリングで確認した。平面図には起点、農地、住居、牧地・樹林、活動センター、学校、保健室、白塔^{註1)}川、国道、主要道路、集落範囲、寺、断面線、等高線を表示している。断面線は川もしくは国道に沿った線(縦断)とその線に対して垂直方向の断面線(住居が多く立地している所を通るように断面位置を決めた、横断)の 2 面を示した。

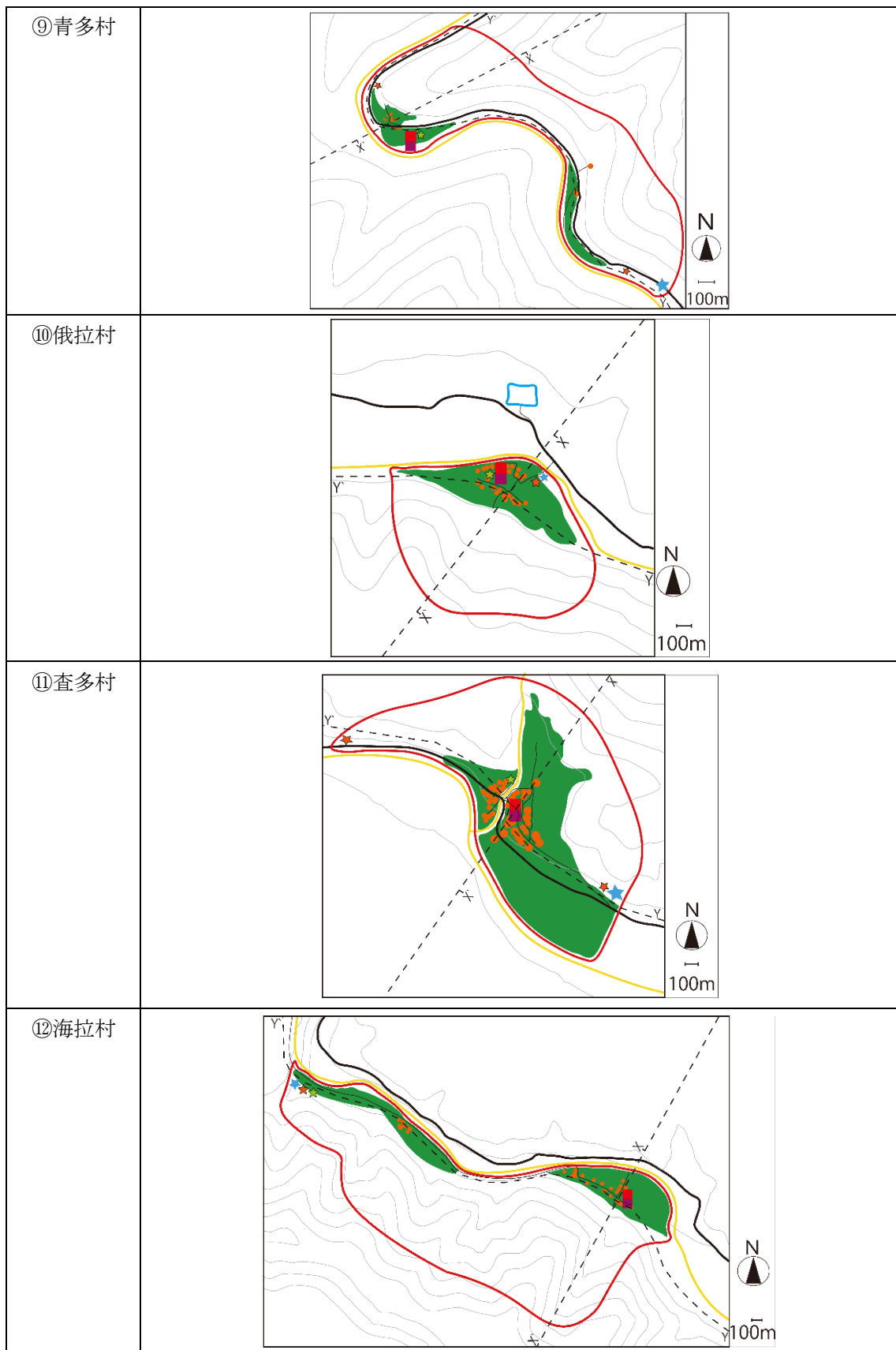
ヒヤリング調査によると、13 集落の主要な生業は農業、牧業である。主要な農産品は大麦、ジャガイモであり、牧業収入はヤク(ヤクの乳製品、バター)、豚、羊、鶏である。

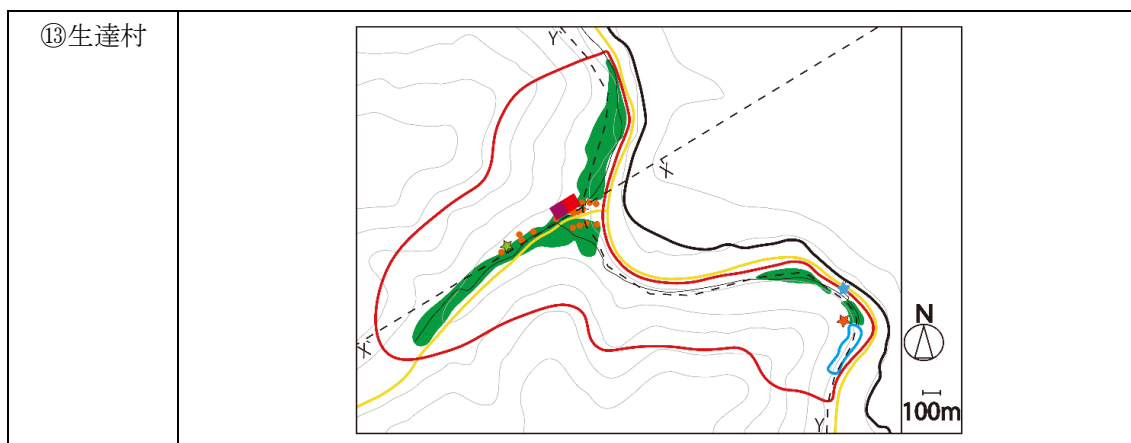
表 5-1 集落の平面図











「現地調査、ヒヤリング調査と GOOGLE マップ」をもとに筆者作成

表 5-2 集落の平面概要

集落	海拔範囲	集落面積 (km ²)	世帯数
①四通達村	3500-3950	9.5	85
②昂達村	3440-4000	8.2	23
③竹美村	3420-3800	10	65
④地龍村	3510-3800	10.6	72
⑤查依村	3440-3700	7.8	50
⑥協旦達村	3400-3700	6.9	24
⑦哈登達村	3400-3800	8.3	20~30
⑧大巴口村	3400-3700	6.8	41
⑨青多村	3490-3880	6.7	20~30
⑩俄拉村	3440-3850	6.9	20~30
⑪查多村	3460-3750	12.2	40~50
⑫海拉村	3450-4180	12.5	40
⑬生達村	3460-3860	7.3	30~40

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

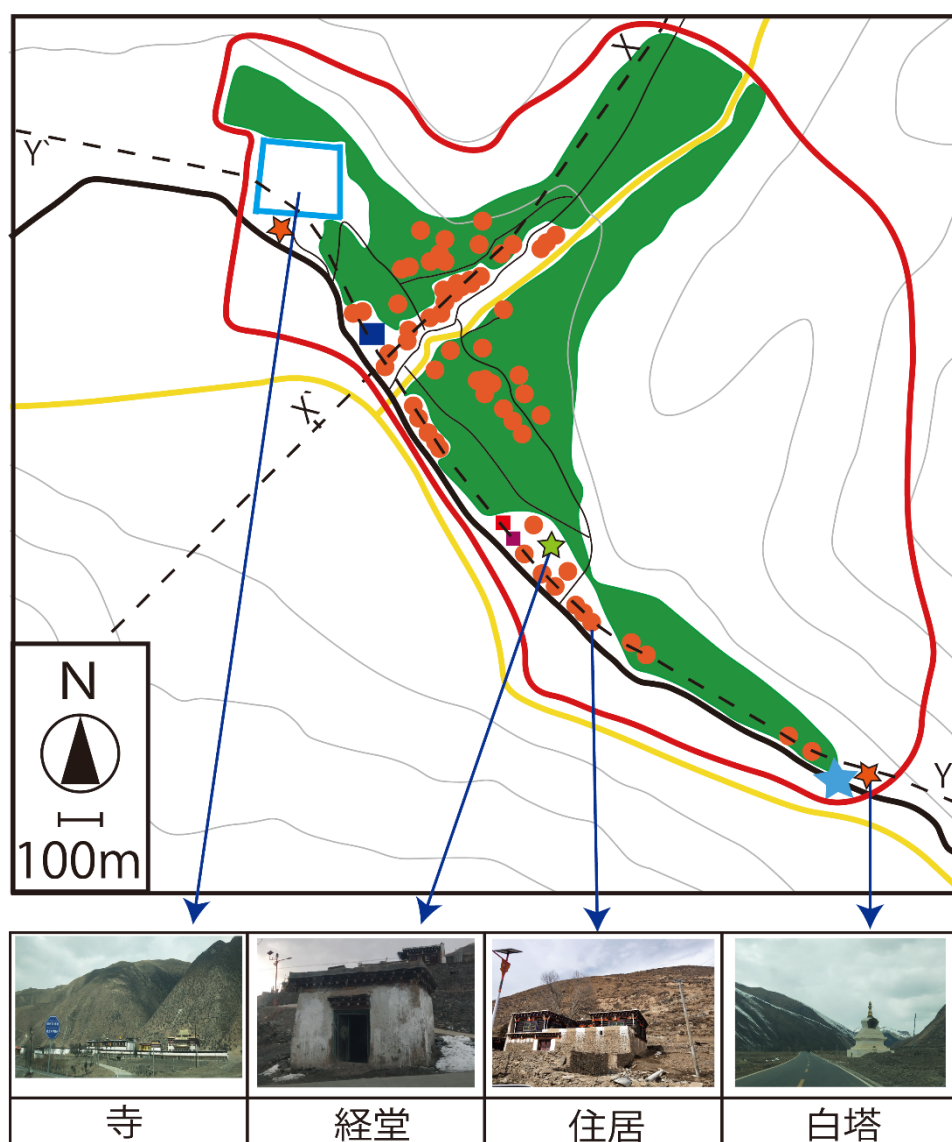


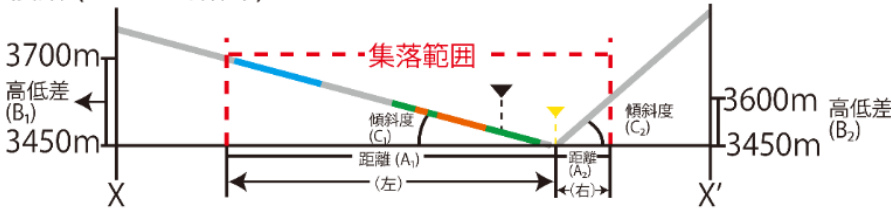
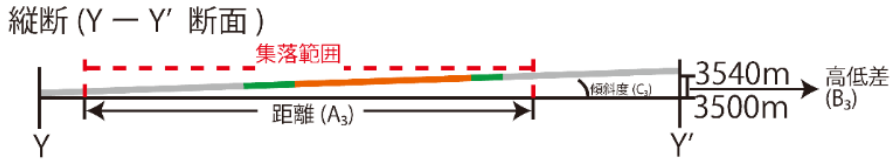
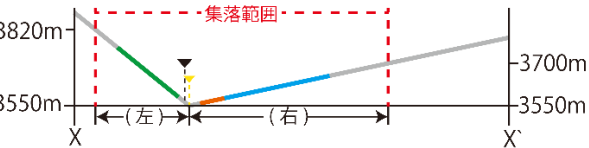
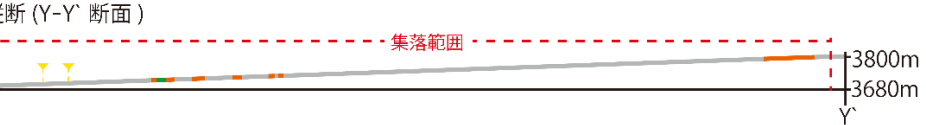
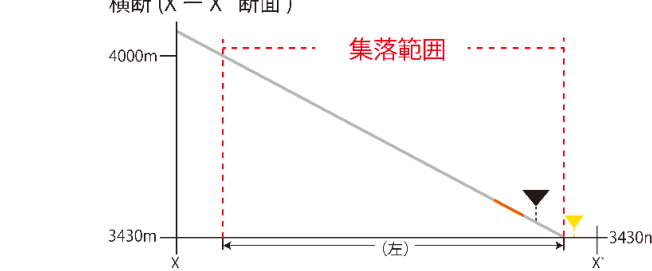

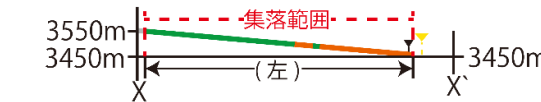
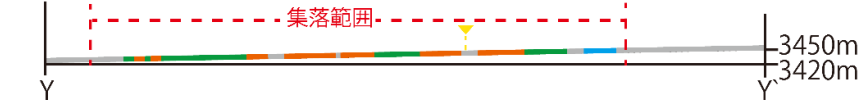
図 5-3 集落③の拡大図（写真は筆者撮影）

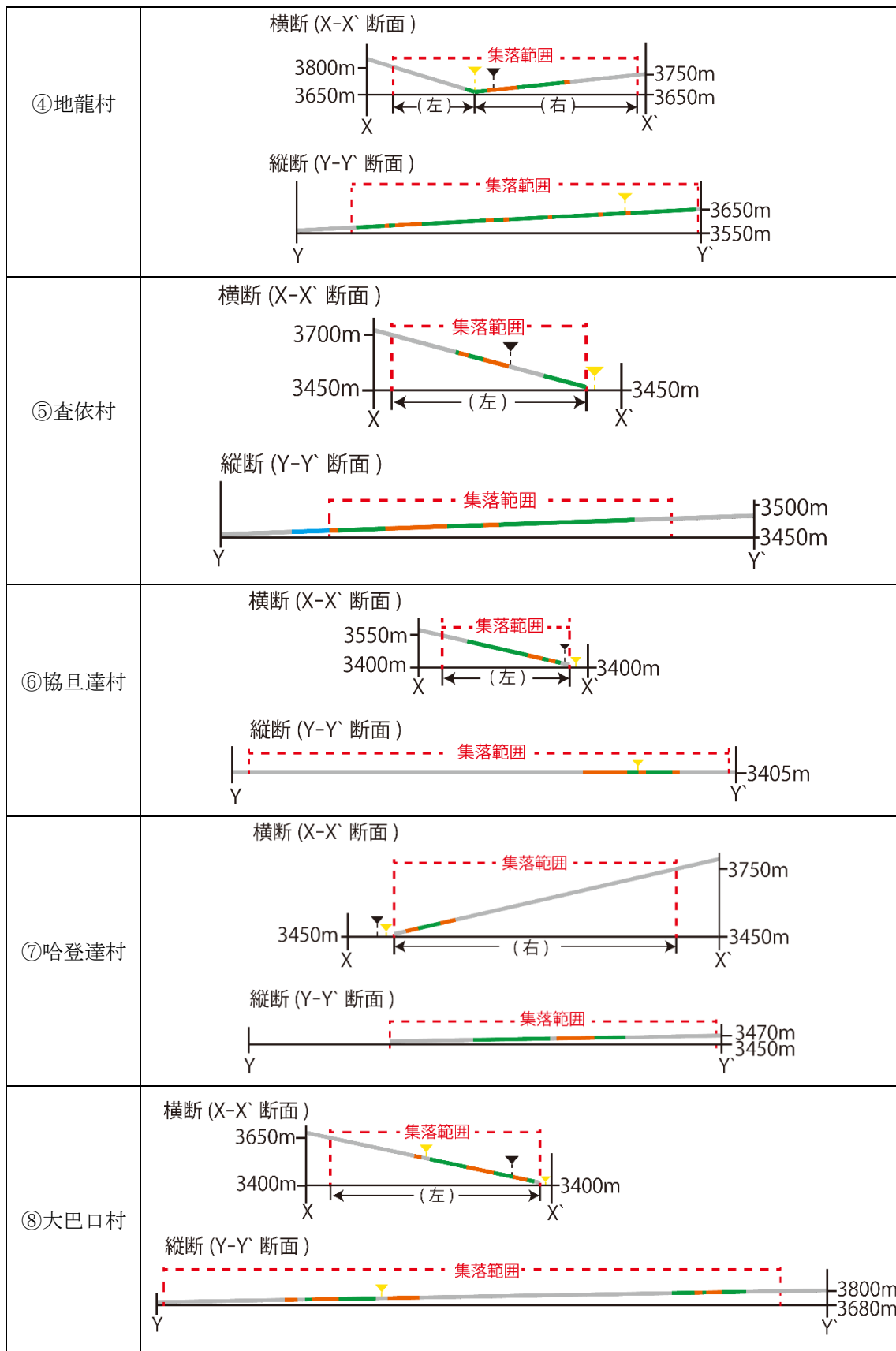
「現地調査、ヒヤリング調査と GOOGLE マップ」をもとに筆者作成

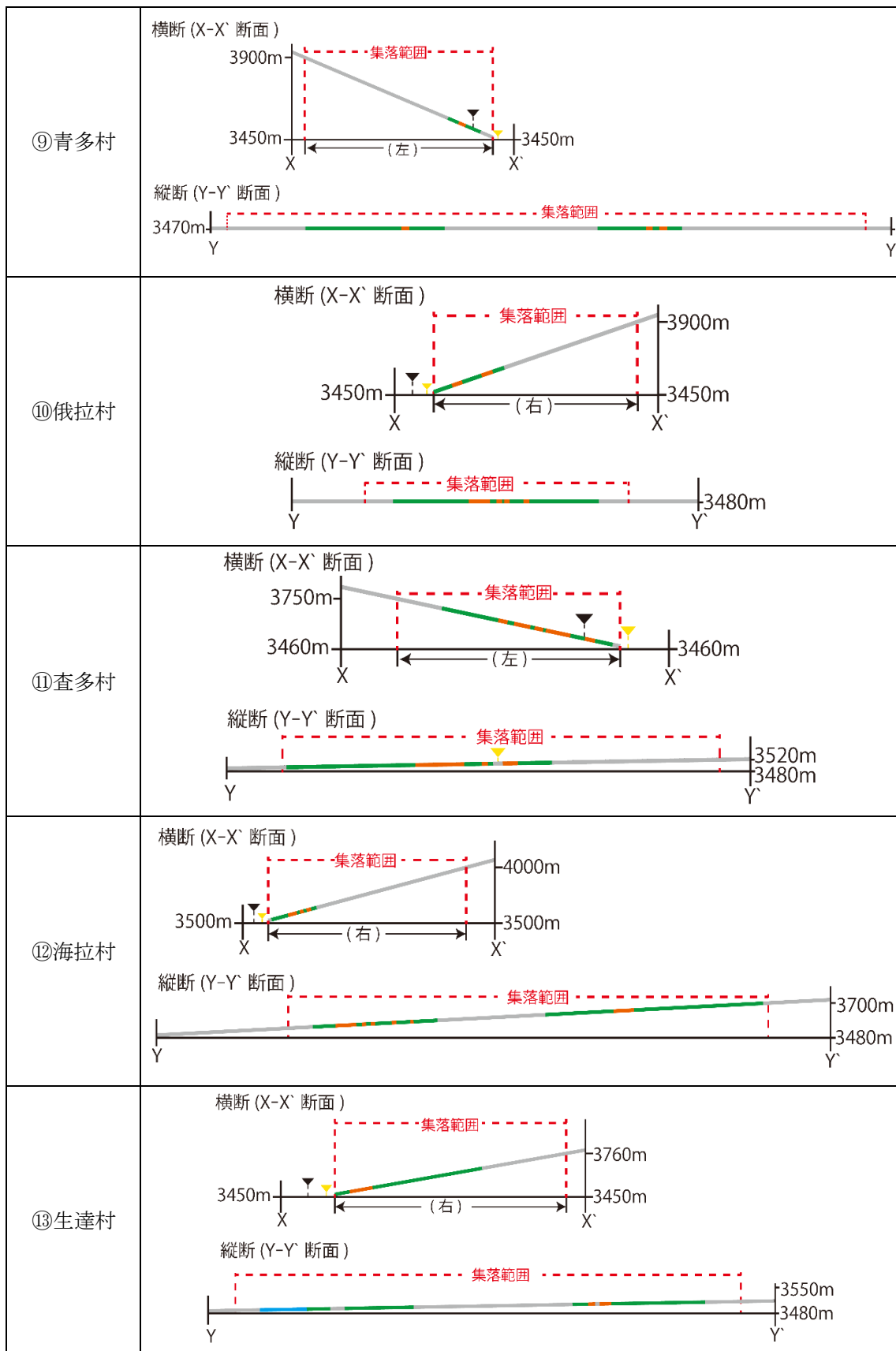
5.3.2 集落の断面

表 5-3 は各集落の断面図である。断面図には、川、国道、農地、住居、牧地・樹林、集落範囲、寺、断面線が通っている海拔の最高と最低を表示している。表 5-4、表 5-5 には、断面線が通っている海拔範囲、海拔の最低点から最高点までの距離(A)、高低差(B)、傾斜度(C)を記載している。傾斜度は距離 A と高低差 B の数値に基づいて計算した。断面図は横断(X-X' 断面)、縦断(Y-Y' 断面)の二つを作成した。横断の場合、右は川の右岸であり、距離(A₁)、高低差(B₁)、傾斜度(C₁)を表示している。左は左岸であり、距離(A₂)、高低差(B₂)、傾斜度(C₂)を表示している。縦断の場合は、距離(A₃)、高低差(B₃)、傾斜度(C₃)を表示している。

表 5-3 集落の断面図

集落	断面図
<p>A 村 (仮想集落)</p>	<p>横断 (X - X' 断面)</p>  <p>縦断 (Y - Y' 断面)</p>  <p>川 ▼ 農地 ■ 牧地・樹林 ■ 寺 ■ 国道 ▼ 住居 ■ 集落範囲 ■</p>
<p>① 四通達村</p>	<p>横断 (X-X' 断面)</p>  <p>縦断 (Y-Y' 断面)</p> 
<p>② 昂達村</p>	<p>横断 (X - X' 断面)</p>  <p>縦断 (Y - Y' 断面)</p> 
<p>③ 竹美村</p>	<p>横断 (X-X' 断面)</p>  <p>縦断 (Y-Y' 断面)</p> 





「GOOGLE マップ」をもとに筆者作成

表 5-4 集落の断面概要(横断)^{注2)}

集落	左				右			
	海拔範囲(m)	距離 A ₁ (m)	高低差 B ₁ (m)	傾斜度 C ₁	海拔範囲(m)	距離 A ₂ (m)	高低差 B ₂ (m)	傾斜度 C ₂
①	3820-3550	330	270	39°	3550-3700	700	150	12°
②	4000-3430	1080	570	28°				
③	3550-3450	1160	100	5°				
④	3800-3650	490	150	17°	3650-3750	990	100	6°
⑤	3700-3450	930	250	15°				
⑥	3550-3400	650	150	13°				
⑦					3450-3750	1270	300	13°
⑧	3650-3400	1150	250	12°				
⑨	3900-3450	1080	450	23°				
⑩					3440-3850	1170	410	19°
⑪	3750-3460	1400	290	12°				
⑫					3500-4000	1930	500	15°
⑬					3450-3760	1680	310	10°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

表 5-5 集落の断面概要(縦断)

集落	海拔範囲(m)	距離 A ₃ (m)	高低差 B ₃ (m)	傾斜度 C ₃
①	3680-3800	2950	120	2°
②	3450-3470	1400	20	1°
③	3420-3450	2310	30	1°
④	3550-3650	2100	100	3°
⑤	3450-3500	1650	50	2°
⑥	3405-3410	2330	5	0°
⑦	3450-3470	1470	20	1°
⑧	3410-3450	3380	40	1°
⑨	3470-3490	3660	20	0°
⑩	3480-3490	1520	10	0°
⑪	3480-3520	2740	40	1°
⑫	3480-3700	4690	220	3°
⑬	3480-3550	3670	70	1°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4 集落の空間構成

5.4.1 集落の地形的特徴（平面）

（i）集落の最低海拔

表 5-6 は集落の最低海拔をまとめた表である。最低海拔が 3400m 以上-3500m 未満の集落は②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬であり（以下、「以上」と「未満」の使い方は全て同じ）、3500-3600m の集落は①④、平均最低海拔は 3447m である。

表 5-6 集落の最低海拔

海拔	集落
3400-3500m	②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬
3500-3600m	①④
平均最低海拔	3447m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

（ii）集落の面積

表 5-7 は集落の面積をまとめた表である。集落面積が 0-5 km²の集落はなし、5-10 km²の集落は①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑬であり、10-15 km²の集落は③④⑪⑫である。平均集落面積は 8.7 km²である。

表 5-7 集落の面積

面積	集落
0-5 km ²	なし
5-10 km ²	①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑬
10-15 km ²	③④⑪⑫
平均面積	8.7 km ²

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

（iii）世帯数

表 5-8 は各集落の世帯数をまとめた表である。集落②⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬は 0-50 世帯であり、集落①③④⑤は 50-100 世帯である。平均世帯数は 42.7 である。

表 5-8 集落の世帯数

世帯数	集落
0-50	②⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬
50-100	①③④⑤
平均世帯数	42.7

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4.2 集落の地形的特徴（断面）

(i) 集落範囲（横断）

表5-9は集落の断面図（横断）に関する海拔の最低点から最高点までの距離 A_1 、 A_2 をまとめた表である。

左岸(A_1)の場合、左岸に集落範囲がない集落は⑦⑩⑫⑬、0-1000mの集落は①④⑤⑥、1000-1500mの集落は②③⑧⑨⑪である。平均距離は919mである。集落範囲がない集落は平均の計算に含めていない(以下同様)。

右岸(A_2)の場合、右岸に集落範囲がない集落は②③⑤⑥⑧⑨⑪、0-1000mの集落は①④、1000-2000mの集落は⑦⑩⑫⑬である。平均距離は1290mである。

表5-9 海拔の最低点から最高点までの距離(A_1 、 A_2)

	集落	
	左(A_1)	右(A_2)
なし	⑦⑩⑫⑬	②③⑤⑥⑧⑨⑪
0-1000m	①④⑤⑥	①④
1000-2000m	②③⑧⑨⑪	⑦⑩⑫⑬
平均距離	919m	1290m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(ii) 集落の高低差（横断）

表5-10は集落の断面図（横断）に関する海拔の最低点から最高点までの高低差 B_1 、 B_2 をまとめた表である。

左岸(B_1)の場合、左岸に集落範囲がない集落は⑦⑩⑫⑬、0-200mの集落は③④⑥、200-400mの集落は①⑤⑧⑪、400-600mの集落は②⑨である。平均高低差は276mである。

右岸(B_2)の場合、右岸に集落範囲がない集落は②③⑤⑥⑧⑨⑪、0-200mの集落は①④、200-400mの集落は⑦⑬、400-600mの集落は⑩⑫である。平均高低差は295mである。

表5-10 海拔の最低点から最高点までの高低差(B_1 、 B_2)

	集落	
	左(B_1)	右(B_2)
なし	⑦⑩⑫⑬	②③⑤⑥⑧⑨⑪
0-200m	③④⑥	①④
200-400m	①⑤⑧⑪	⑦⑬
400-600m	②⑨	⑩⑫

平均高低差	276m	295m
-------	------	------

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(iii) 傾斜度(横断)

表 5-11 は集落の傾斜度 C_1 、 C_2 (横断)をまとめた表である。

左岸(C_1)の場合、左岸に集落範囲がない集落は⑦⑩⑫⑬、 $0-10^\circ$ の集落は③、 $10-20^\circ$ の集落は④⑤⑥⑧⑪、 $20-30^\circ$ の集落は②⑨、 30° 以上の集落は①である。平均傾斜度は 18.2° である。

右岸(C_2)の場合、右岸に集落範囲がない集落は②③⑤⑥⑧⑨⑪、 $0-10^\circ$ の集落は④、 $10-20^\circ$ の集落は①⑦⑩⑫⑬、 $20-30^\circ$ の集落はなく、 30° 以上の集落はなしである。平均傾斜度は 12.5° である。

表 5-11 集落の傾斜度(C_1 、 C_2)

	集落	
	左(C_1)	右(C_2)
なし	⑦⑩⑫⑬	②③⑤⑥⑧⑨⑪
$0\sim 10^\circ$	③	④
$10\sim 20^\circ$	④⑤⑥⑧⑪	①⑦⑩⑫⑬
$20\sim 30^\circ$	②⑨	
30° 以上	①	
平均傾斜度	18.2°	12.5°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(iv) 集落範囲(縦断)

表 5-12 は集落の断面図(縦断)に関する海拔の最低点から最高点までの距離 A_3 をまとめた表である。 $0-2000m$ の集落は②⑤⑦⑩、 $2000-4000m$ の集落は①③④⑥⑧⑨⑪⑬、 $4000-6000m$ の集落は⑫である。平均距離は $2605m$ である。

表 5-12 海拔の最低点から最高点までの距離(A_3)

A_3	集落
$0-2000m$	②⑤⑦⑩
$2000-4000m$	①③④⑥⑧⑨⑪⑬
$4000-6000m$	⑫
平均距離	$2605m$

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(v) 集落の高低差(縦断)

表 5-13 は集落の断面図(縦断)に関する標高の最低点から最高点までの高低差 B_3 をまとめた表である。0-100m の集落は②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑬、100-200m の集落は①④、200-300m の集落は⑫である。平均高低差は 57m である。

表 5-13 海拔の最低点から最高点までの高低差 (B_3)

B_3	集落
0-100m	②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑬
100-200m	①④
200-300m	⑫
平均高低差	57m

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

(vi) 傾斜度(縦断)

表 5-14 は集落の傾斜度 C_3 (縦断) をまとめた表である。 0° の集落は⑥⑨⑩、 1° の集落は②③⑦⑧⑪⑬、 2° 以上の集落は①④⑤⑫である。平均傾斜度は 1.2° である。

表 5-14 集落の傾斜度 (C_3)

C_3	集落
0°	⑥⑨⑩
1°	②③⑦⑧⑪⑬
2° 以上	①④⑤⑫
平均傾斜度	1.2°

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4.3 道路の種類及び集落と国道の関係

集落の道路は、国道(省道)、主要道路と小道に分かれる。国道は政府によって整備された道路であり、主要道路は国道から分かれ集落内部まで通っている道路である(写真 5-5、5-6、5-7)。小道とは、国道あるいは主要道路と住宅、農地を繋いでいる狭い道である(写真 5-8)。

道路と集落の関係から見ると、以下の二種類に分かれる(表 5-15)。

分離: 集落の主要道路は、国道から分かれて、等高線に沿って、集落の主要施設を繋いでいる。集落内部の小道は主要道路から無規則に伸びて、集落内部の住居と農地を繋いでいる。集落⑦⑩⑫⑬が該当する。

貫通: 国道が集落範囲を貫通して、住居と農地は国道、主要道路と小道に沿って分布

している。集落①②③④⑤⑥⑧⑨⑪が該当する。



写真 5-5 国道（筆者撮影）



写真 5-6 国道と小道（筆者撮影）



写真 5-7 主要道路（筆者撮影）



写真 5-8 小道（筆者撮影）

表 5-15 集落と国道の関係

類型	イメージ図	集落
分離		⑦⑩ ⑫⑬
貫通		①②③ ④⑤⑥ ⑧⑨⑪

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4.4 公共施設の分布と集落中心地

公共施設は保健室、活動センター、広場、学校である。政府の政策¹⁾に従って、活動

センターと保健室は一つ建物に設けられ、全集落に設置されている（写真 5-9、5-10）。寺と集落の距離が近い場合、寺の広場を使っている（写真 5-11）。また、集落には複数の空地があり、そこを広場として使っている（図 5-4、写真 5-12）。集落会議と祭りは寺、広場、活動センターで行う。



写真 5-9 活動センター（筆者撮影）

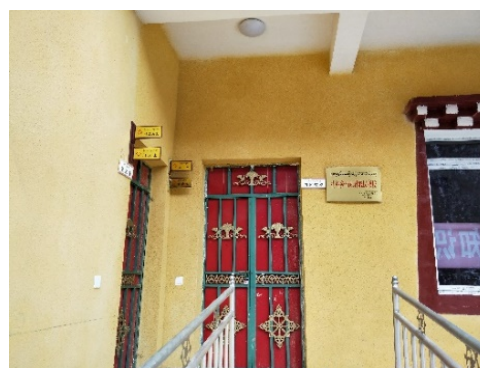


写真 5-10 保健室（筆者撮影）



写真 5-11 寺の広場（筆者撮影）



写真 5-12 空地（筆者撮影）

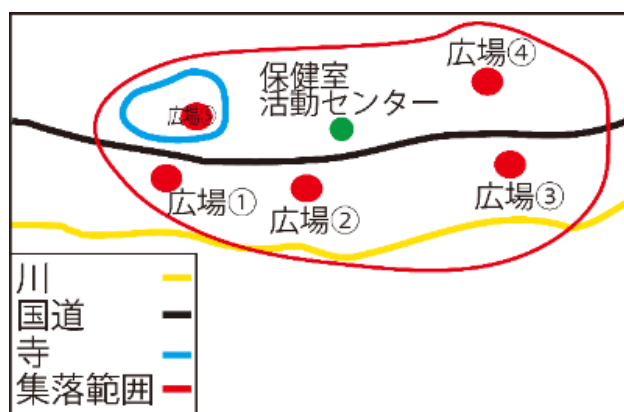


図 5-4 公共施設の分布

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

現在、子どもが減少しているため、小学校は各集落に設置せず、各郷に1ヶ所(郷中心校)設置している。集落①③は郷の学校を設置している(写真5-13、表5-16)。



写真5-13 郷の中心に位置する小学校(筆者撮影)

表5-16 集落内公共施設の分布

集落	小学校	保健室	活動センター	広場
①	○	○	○	○
②	×	○	○	○
③	○	○	○	○
④	×	○	○	○
⑤	×	○	○	○
⑥	×	○	○	○
⑦	×	○	○	○
⑧	×	○	○	○
⑨	×	○	○	○
⑩	×	○	○	○
⑪	×	○	○	○
⑫	×	○	○	○
⑬	×	○	○	○

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4.5 集落と川の位置関係及び水源

集落範囲内に通っている川は本川と支川^{注3)}に分かれる(写真5-14、写真5-15)。集落内の河川分布は表5-17のようになっている



写真 5-14 本川（集落①）（筆者撮影）



写真 5-15 支川（集落①）（筆者撮影）

両岸分布（複数）：集落は本川の両岸に分布し、集落内に複数の川（本川と支川）が流れている場合。該当する集落は①④である。

片岸分布（単数）：集落は本川の片岸に分布し、集落内に一つ支川が流れている場合。本川は集落内を流れておらず、該当する集落は③⑥⑧⑪⑬である。

片岸分布（なし）：集落は本川の片岸に分布し、集落内に支川が流れていない場合。本川は集落内を流れておらず、該当する集落は②⑤⑦⑨⑩⑫である。

表 5-17 集落と川の位置関係

類型	イメージ図	集落
両岸分布 （複数）		①④
片岸分布 （単数）		③⑥⑧⑪⑬
片岸分布 （なし）		②⑤⑦⑨⑩⑫



「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

集落の水源は川と泉の2つである（表 5-18）。

併用:川が集落範囲に隣接もしくは集落範囲を縦断していて、住居と農地が川に沿って位置している場合、生活用水と灌漑用水は泉と川の両方を使っている。生活用水は処理済みの泉である。該当している集落は①③④⑤⑥⑧⑨⑩⑪⑫⑬である。

専用:集落の住居と農地が川から離れている場合、川を使わずに、泉だけを使う。該当する集落は②⑦である。

表 5-18 集落の水源

類型	イメージ図	集落
併用		①③④⑤⑥⑧ ⑨⑩⑪⑫⑬
専用		②⑦

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4.6 集落の入口

集落の入口数は単数と複数に分かれる(表 5-19)。調査した集落の入り口には白塔が設置されていた。

単数:主要道路が川を渡って、国道と繋がっている場合、入口は1つである(写真 5-16)。該当する集落は⑦⑩⑫⑬である。

複数: 国道が集落範囲を縦断している場合、入口は2箇所である(写真 5-17、5-18)。該当する集落は①②③④⑤⑥⑧⑨⑪である。

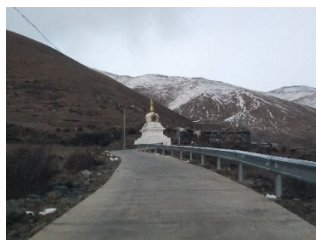


写真 5-16 単数入口 (筆者撮影)

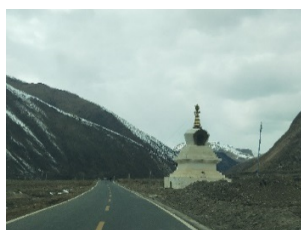


写真 5-17 複数入口 I (筆者撮影)



写真 5-18 複数入口 (筆者撮影)

表 5-19 集落の入口

類型	イメージ図	集落
単数		⑦⑩⑫⑬
複数		①②③④⑤ ⑥⑧⑨⑪

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4.7 集落と隣村の関係

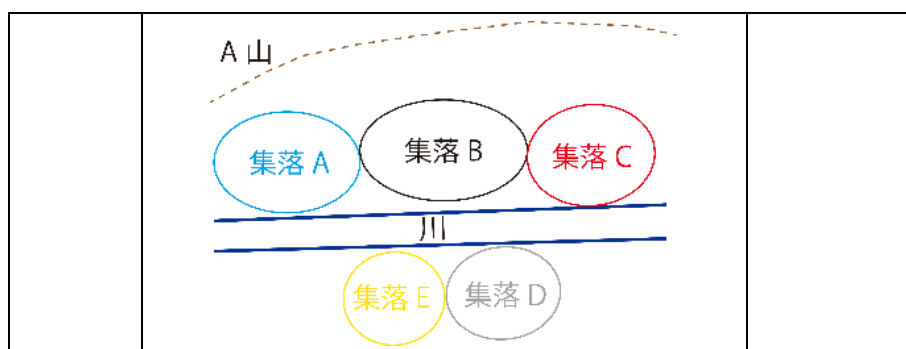
調査した集落と隣村との関係は表 5-20 のように二つに分かれる。

独立: 集落と集落の間に距離があり、独立して山の麓に分布している場合。該当する集落は①②⑧⑨である。

隣接: 複数の集落が川に沿って、山の麓に隣接分布している場合。該当する集落は③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫⑬である。

表 5-20 集落と隣村の関係

類型	イメージ図	集落
独立		①②⑧⑨
隣接		③④⑤⑥⑦ ⑩⑪⑫⑬



「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4.8 住宅、農地と牧地の分布

調査した集落の住宅、農地の分布は以下のようになっている(表 5-21)。

集住：2軒から数軒の住宅が固まって立地している。その世帯が耕す農地は住宅とは別の場所に一団で整地されている。該当する集落は①②⑦である(写真 5-19、5-20)。

散住：住宅は1軒ずつ建っているか、もしくは2~3軒が隣接している。農地は各住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地されている(写真 5-21、5-22)。該当する集落は③④⑤⑥⑧⑨⑩⑪⑫⑬である。

集落には固定的な牧地がなく、家畜は集落範囲内を自由に移動している。



写真 5-19 集住 (住宅) (筆者撮影)



写真 5-20 集住 (農地) (筆者撮影)



写真 5-21 散住 I (筆者撮影)



写真 5-22 散住 II (筆者撮影)

表 5-21 住宅、農地と牧地の分布

類型	イメージ図	集落
集住		①②⑦
散住		③④⑤⑥⑧ ⑨⑩⑪⑫⑬

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.4.9 集落の宗教信仰及び集落と寺の位置関係

集落内部の宗教施設は寺、経堂^{注4)}、白塔である(表 5-22)。住民はチベット仏教を信仰している。ほぼ毎日住民たちが通うため、集落内には複数の白塔と経堂を設置している(写真 5-23、写真 5-24)。寺は集落に関係なく単独では存在せずどこかの集落に所属している(写真 5-25、写真 5-26)。白塔と経堂は集落の住民たちが使用し、寺は所属している集落だけでなく、近くにある集落の住民たちも利用できる。チベット仏教の祭りをを行う時、たくさん信者たちが寺に集まっている。

表 5-22 集落内部の宗教施設

集落	白塔	経堂	寺
①	○	○	○
②	○	○	×
③	○	○	○
④	○	○	×
⑤	○	○	×
⑥	○	○	×
⑦	○	○	×
⑧	○	○	×
⑨	○	○	×
⑩	○	○	×
⑪	○	○	×

⑫	○	○	×
⑬	○	○	○

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成



写真 5-23 白塔（筆者撮影）



写真 5-24 経堂（筆者撮影）



写真 5-25 寺 I（筆者撮影）



写真 5-26 寺 II（筆者撮影）

調査した 13 集落と寺の位置関係は表 5-23 のように 3 つに分類できる。

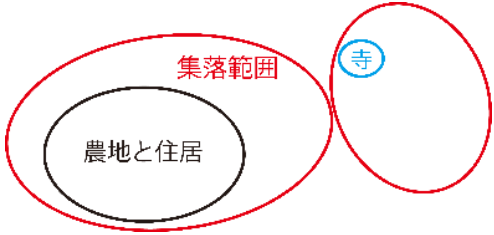

範囲内：寺が集落範囲内に位置している場合。該当する集落は①③⑬である。

隣接：寺が集落範囲外にあるが、近い場所に位置している場合。該当する集落は⑤⑩である。

遠方：寺が遠い場所に位置している場合。該当する集落は②④⑥⑦⑧⑨⑪⑫である。

表 5-23 集落と寺の位置関係

類型	イメージ図	集落
範囲内		①③⑬

隣接		⑤⑩
遠方		②④⑥⑦ ⑧⑨⑪⑫

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.5 集落範囲、本川と国道から見た集落分類

調査した集落はすべて本川及び国道沿いに位置しているため、集落範囲、本川と国道に着目し、集落の分類を行った(表 5-24)。

集落範囲が片岸に分布する場合、国道と集落範囲の関係から3つに分類できる。

片岸タイプ1: 本川に対して、国道と集落が同じ方向に位置し、国道と集落範囲が分離している場合。国道と集落は主要道路で結ばれる。該当する集落は存在しない。

片岸タイプ2: 本川に対して、国道と集落が同じ方向に位置し、国道が集落範囲を貫通している場合。該当する集落は②③⑤⑥⑧⑨⑪である。

片岸タイプ3: 本川に対して、国道と集落が別の方向に位置する場合。国道と集落は主要道路で結ばれる。該当する集落は⑦⑩⑫⑬である。

集落範囲が両岸分布の場合、国道と集落範囲の関係から2つに分類できる。

両岸タイプ1: 本川が集落範囲内に流れ、国道が集落範囲を貫通する場合。該当する集落は①④である。

両岸タイプ2: 本川が集落範囲内に流れ、国道と集落範囲が分離している場合。国道と集落は主要道路で結ばれる。これに該当する集落は存在しない。

カンバチベット族集落は山間部に位置し、河川は谷状であり、比較的平坦な場所は河川沿いに限定される。住宅、農地を確保するためには河川に沿って集落を形成するのが合理的である。国道も河川沿いに整備されているが、片岸分布で集落と国道が同じ方向にある場合、国道はすべての集落を貫通している。国道が集落を貫通している方が利便性高い、国道と集落を分離しない方が平坦な土地を確保しやすい、国道を集落の境界として捉えていない、それらの理由により、タイプ2、タイプ3が実在し、タイプ1は実在しないと思われる。

両岸分布の場合も、同じ理由でタイプ1は実在するが、タイプ2は実在していないと思われる。

本川が集落範囲内に流れ、集落が兩岸分布になっているのは13集落中2集落である。国道とは異なり、本川を集落の境界と考えているのがカンバチベット族では一般的ではないかと思われる。

そのため、本川、国道、集落範囲からカンバチベット族の集落を分類すると、基本タイプとして、片岸タイプ2、片岸タイプ3があり、それとは別に兩岸タイプ1が少数存在している。

表 5-24 集落範囲、本川と国道から見た集落分類

片岸	タイプ 1	タイプ 2	タイプ 3
集落	なし	②③⑤⑥⑧⑨⑪	⑦⑩⑫⑬
兩岸	タイプ 1		タイプ 2
集落	①④		なし

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.6 まとめ

調査したカンバチベット族集落の空間構成の特徴は以下のようにまとめられる。

5.6.1 地形的特徴

カンバチベット族の地形的特徴は以下ようになる。

13 集落の海拔は 3400m～4180m の間であり、最低海拔は 3400～3500m が 11 集落である。集落面積は 5～10 km² が 9 集落と多く、世帯数は 50 未満が 9 集落である。

横断面を見ると、左岸の海拔最低点から最高点までの距離は 1000～2000m の集落が 5 であり、集落の高低差は 200～400m の集落が 4 であり、傾斜度数値は 10～20° の集落が 5 である。右岸の海拔最低点から最高点までの距離は 1000～2000m が 4 集落であり、集落の高低差は 0～200m、200～400m、400～600m が各々 2 集落であり、傾斜度数値は 10°

～20° の集落が5である。本川が集落範囲外を流れ、川の片岸に位置している集落が11である。

縦断面を見ると、海拔の最低点から最高点までの距離は、2000～4000mが8集落である。高低差は0～100mの集落が10、傾斜度数値は0～1°の集落が9である。

5.6.2 集落内部の特徴及び隣村との関係

集落の内部の特徴は以下の通りになる。集落の道路は国道、主要道路と小道で構成されている。国道もしくは主要道路沿いに集落が作られている。国道から主要道路が分かれ、川の対面に整備されている集落が4である。

集落内の公共施設は保健室、活動センター、広場、学校である。活動センター、保健室は全集落に設置され、集落範囲内あるいは寺の広い平地を広場として使っている。学校は郷を単位にしているため、多数の集落では学校が設置されていない。

水源は川と泉の2つである。両方を水源としている集落は11、泉のみを水源としている集落が2である。

入り口は複数の集落が9集落である。川の対面に集落がある場合、入り口は単数である。

集落と隣村の関係は、集落一つずつ形成されているのが4集落、複数の集落が隣接しているのが9集落である。

全集落の牧地は住居と農地の周りに分布している。住宅は1軒ずつか、もしくは何軒が隣接して建ち、農地は各住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地されている集落が10である。

宗教施設は寺、経堂、白塔であり、経堂、白塔はすべての集落に設置されている。集落と寺の位置関係から見ると、寺が遠方に位置している集落が8である。

5.6.3 集落分類

調査したカンバチベット族集落の集落範囲、本川と国道から、集落分類を行った(表5-25)。理論的には片岸のタイプ1、タイプ2、タイプ3と両岸のタイプ1、タイプ2に分類できたが、実在するのは片岸タイプ2、片岸タイプ3、両岸タイプ1の三つであった。おそらく片岸タイプ2、片岸タイプ3が基本的な集落だと見られる。

表5-25 集落分類

集落分類	集落
片岸タイプ1	なし
片岸タイプ2	②③⑤⑥⑧⑨⑪
片岸タイプ3	⑦⑩⑫⑬

両岸タイプ1	①④
両岸タイプ2	なし

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

5.6.4 普遍的な特徴

調査した13ヶ所のカンバチベット族集落の普遍的な特徴は表5-26のようにまとめられる。

表5-26 調査対象カンバチベット族集落の普遍的な特徴

		特徴	該当する集落数	
地形特徴	最低海拔		3400～3500m	11
	集落面積		5～10km ²	9
	世帯数		50世帯未満	9
	集落と川の位置関係		本川が集落範囲外	11
	横断面	本川	集落範囲外	11
		集落位置	片岸	11
		海拔最低点～最高点の距離	1000～2000m	9
		高低差	200～400m	6
		傾斜度	10～20°	10
	縦断面	海拔最低点～最高点の距離	2000～4000m	8
高低差		0～100m	10	
傾斜度		0～1°	9	
内部特徴	道路		国道、主要道路と小道で構成	全集落
	公共施設	活動センター	設置	全集落
		保健室	設置	全集落
		広場	集落範囲内、寺の平地を使う	全集落
		学校	集落範囲内になし	11
	水源		川と泉	11
	入口		複数	9
	集落と隣村の関係		複数の集落が隣接している	9
農地、住居		混住	10	

	農地、住居と牧地の分布	牧地	住居と農地の周りに分布している	全集落
	宗教施設	経堂	設置	全集落
		白塔	設置	全集落
		寺	集落範囲内になし	10

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

注

- 1) 白塔については、集落の入口に設置されている白塔のみプロットとした。それ以外については樹林の中等に設置されており、位置が確認できなかったため、プロットしていない。
- 2) 表内に斜線を引いている欄は、右岸もしくは左岸に集落範囲がない場合である。
- 3) 本川(ほんせん)は最長の河川、支川(しせん)は本川に合流する河川である。
https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kasen/jiten/yougo/01.htm
- 4) 経堂とは、チベット仏教を信仰しているチベット族集落が、集落の中に設置した経を読むまたは宗教に関する小行事を行う場所である。

参考文献

- 1) 甘孜县人民政府：甘孜县基本情况（参照 2022.10.21）（in Chinese）
<http://www.ganzi.gov.cn/ganzi/c102880/202207/70a6b51544c64253b6809c0825ad27cd.shtml>
- 2) 甘孜藏族自治州人民政府：甘孜藏族自治州城鄉規畫編制办法（参照 2022.10.21）（in Chinese）



第 6 章

結論と今後の課題

第6章 結論と今後の課題

6.1 各章の要約

本論文では、カンゼチベット族自治州に居住しているギャロンチベット族、ムヤチベット族、カンバチベット族を対象として、チベット族支系の集落空間構成に関する調査をして、同じ地域に居住しているギャロン、ムヤ、カンバチベット族支系の集落空間構成の特徴を明らかにし、ギャロン、ムヤ、カンバチベット族支系空間構成の普遍的な特徴、共通点と相違点を明らかにすることを目的とした。

第1章では、本論文の背景、既往研究を記述することによって、本研究の位置付けを明らかにした。

第2章では、チベット族とカンゼチベット族自治州の基本状況、支系及び支系分布状況を説明し、ギャロン、ムヤ、カンバチベット族の民族来源を述べた。

第3章では、ギャロンチベット族集落空間構成に関わる項目から着目し、集落空間構成の特徴を明らかにした。また、集落分類を行い、ギャロンチベット族集落の空間構成と集落分類の関係性を考察した。

第4章では、ムヤチベット族集落空間構成に関わる項目から、ムヤチベット族集落空間構成の特徴を明らかにした。また、集落分類を行い、ムヤチベット族集落の空間構成と集落分類の関係性を考察した。

第5章では、カンバチベット族集落空間構成に関わる項目から、カンバチベット族集落空間構成の特徴を把握し、カンバチベット族集落空間構成の普遍的な特徴を明らかにした。また、集落分類を行った。

本章では、第3章から第5章までの各章を要約し、ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成の普遍的な特徴、共通点及び相違点をまとめ、そこから今後の課題を述べる。

まず、第3章では、カンゼチベット族自治州丹巴県におけるギャロンチベット族10集落の空間構成的地形的特徴と集落内部の特徴及び隣村との関係からまとめ、傾斜度と面積でクラスター分析から見た集落分類と集落範囲、川と国道から見た集落分類を行い、集落の分類と集落空間構成の関係性を明らかにした。

調査したギャロンチベット族の地形的特徴では、起点の標高で見るとすべての集落が1800mから2200mの間になり、起点から最も標高の高い住居(農地)までの距離は1000m~2000mが多く、世帯数は100未満が多く、傾斜度は、最大が29°、最低が1°である。

集落の内部特徴では、集落の道路は国道、主要道路と小道で構成され、国道に主要道路を付けて、国道から奥まったところに集落がある。集落⑦は比較的新しく作られたが、国道が集落を横断し、国道沿いに集落が作られている。

集落内の公共施設は保健室、活動センター、広場、学校であり、活動センター、保健室は全集落に設置され、広場は設置していない集落もある。学校は郷を単位にしている

ため、大半の集落では学校が設置されていない。元々公共施設は集落内に分散して設置されていたが、最近では政府の政策によって、公共施設は1ヶ所に集中して設置している。

望楼は多数の集落内に分布している。水源は川と泉の2つである。集落の入り口は1ヶ所が基本であるが、近くの集落と繋がるため、2ヶ所設けている集落もある。住居は1軒ずつ立地し、農地はその周辺にばらばらと立地している集落が多い。宗教施設は、寺、経堂、白塔であり、白塔はすべての集落に設置されている。

隣接集落との位置関係について、稜線に挟まれた谷に1集落ずつ形成されるのが基本である。世帯数が増えた場合、一定数が周辺に移住する。元の集落が立地する谷が比較的広い場合には、新たな集落をその谷内に形成する。そのような集落はかつて一集落としていたが、現在は中国の行政構成に従い、別々の集落になっている。

傾斜度と面積でクラスター分析すると、クラスター1(小規模急斜面集落)、クラスター2(小規模緩斜面集落)、クラスター3(大規模緩斜面集落)の三つに分かれた。集落の分類と集落空間構成の関係について、関係あるのは、公共施設の分布、集落の水源、集落入口数、隣村との位置関係である。関係ないのは、公共施設の立地である。関係が分からないのは、住宅と農地の分布である。

集落範囲、川と国道から見た集落分類と集落空間構成の関係性から分析すると、関係性が認められたのは集落と国道の関係、集落と川の位置関係及び水源である。

次に、第4章ではカンゼチベット族自治州康定市におけるムヤチベット族11集落の空間構成的地形的特徴と集落内部の特徴及び隣村との関係を明らかにして、それをもとに集落のタイプ分けを行った。

ムヤチベット族の地形的特徴では、平面から見ると、最低海拔が3500~3800mの集落が多く、集落面積は0~10km²が多く、世帯数は100未満が多数である。集落と川の位置関係から見ると、川が集落範囲を縦断して、住居と農地が川に沿って、川の両側に位置している集落が多数である。断面から見ると、横断の場合(左岸)、海拔の最低点から最高点までの距離を見ると1000~2000mが多く、集落の高低差は600m未満、傾斜度数値は30°未満の集落が多数である。右岸は海拔の最低点から最高点までの距離を見ると0~2000mが多く、集落の高低差は0~600m、傾斜度数値は10°~20°の集落が多数である。縦断の場合、海拔の最低点から最高点までの距離を見ると3000~6000mが多く、高低差は0~200mの集落が多く、傾斜度数値は0~2°の集落が多数である。

集落の内部の特徴では、集落の道路は国道、主要道路と小道で構成され、国道が集落を縦断し、国道もしくは主要道路沿いに集落が作られているのが多数である。集落内の公共施設は保健室、活動センター、広場、学校である。活動センター、保健室は政府の政策で全集落に設置され、集落範囲内の広い平地を広場として使っている。学校は郷を単位にしているため、多数の集落では学校が設置されていない。水源は川と泉の2つである。両方を水源としている集落は多数である。集落の入り口は複数があるが、

山の中腹に集落がある場合、入り口は単数である。牧地は住居と農地の周りに分布し、住宅は1軒ずつか、もしくは何軒が隣接して建つ。農地は各住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地された。宗教施設は、寺、経堂、白塔であり、白塔はすべての集落に設置された。

集落と隣村の関係では、複数の集落が隣接しているのが多数である。

ムヤチベット族の集落は、集落③とそれ以外に大きく分かれる。調査した項目の中から、集落のタイプ分けに関係している項目を取り出し、集落を集落③と集落③以外の二つタイプに分かれた。関係性が認められたのは集落と国道の関係、集落の水源、集落入り口、集落と隣村の関係、集落と川の位置関係及び水源である。

続いて、第5章では、カンゼチベット族自治州カンゼ県におけるカンバチベット族13集落の空間構成地形的特徴と集落内部の特徴及び隣村との関係を明らかにして、カンバチベット族集落は集落範囲、河川と道路の位置関係をもとに集落のタイプ分けを行った。

カンバチベット族集落の地形的特徴では、全集落の海拔は3400m～4180mの間であり、最低海拔は3400～3500mが多数である。集落面積は5～10 km²が多く、世帯数は50未満が多数である。横断面を見ると、左岸の海拔最低点から最高点までの距離は1000～2000mの集落が多く、集落の高低差は200～400mの集落が多く、傾斜度数値は10～20°の集落が多数である。右岸の海拔最低点から最高点までの距離は1000～2000mが多く、集落の高低差は0～200m、200～400m、400～600mが各々2集落であり、傾斜度数値は10°～20°の集落が多数である。本川が集落範囲外を流れ、川の片岸に位置している集落が多数である。縦断面を見ると、海拔の最低点から最高点までの距離は、2000～4000mが多数である。高低差は0～100mの集落が多く、傾斜度数値は0～1°の集落が多数である。

集落の内部の特徴では、集落の道路は国道、主要道路と小道で構成されている。国道もしくは主要道路沿いに集落が作られた。集落内の公共施設は保健室、活動センター、広場、学校である。活動センター、保健室は全集落に設置され、集落範囲内あるいは寺の広い平地を広場として使っている。学校は郷を単位にしているため、多数の集落では学校が設置されていない。水源は川と泉の2つである。入り口は複数の集落が多い。宗教施設は寺、経堂、白塔であり、経堂、白塔はすべての集落に設置された。全集落の牧地は住居と農地の周りに分布している。住宅は1軒ずつか、もしくは何軒が隣接して建てられ、農地は各住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地されている集落が多数である。

集落と隣村の関係では、複数の集落が隣接しているのが多数である。

調査したカンバチベット族集落の集落範囲、本川と国道から、集落分類を行うと、片岸タイプ2、片岸タイプ3、両岸タイプ1の三つであった。おそらく片岸タイプ2、片岸タイプ3が基本的な集落類型だと見られた。

6.2 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成の普遍的な特徴、共通点及び相違点

6.2.1 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成の普遍的な特徴

調査したギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成の普遍的な特徴は以下のようになっている（表6-1）。その中、共通点と相違点が違う色を付き、表示している。

集落の普遍的な地形特徴は以下の通りになる。平面から見ると、ギャロンチベット族の集落最低海拔が2000～2100mであり、ムヤチベット族の集落最低海拔が3500～3800mであり、カンバチベット族の集落最低海拔が3400～3500mである。

集落面積は0～10km²が普遍的である。カンバチベット族の世帯数が0～50世帯であり、ギャロンチベット族とムヤチベット族の世帯数が50～100世帯である。

断面から見ると、ギャロンチベット族の集落が川の片岸に位置しているのは普遍的である。ムヤチベット族、カンバチベット族の集落が川の両岸に位置している。横断の場合、ギャロンチベット族集落の海拔最低点から最高点の距離が1000～2000mであり、高低差が300～600mであり、傾斜度が0～10°である。ムヤチベット族集落が左岸に位置している場合、海拔最低点から最高点の距離が1000～2000mであり、高低差が300～600mであり、傾斜度が10～20°である。カンバチベット族集落が左岸に位置している場合、海拔最低点から最高点の距離が1000～2000mであり、高低差が200～400mであり、傾斜度が10～20°である。ムヤチベット族集落が右岸に位置している場合、海拔最低点から最高点の距離が0～1000mであり、高低差が0～300mであり、傾斜度が10～20°である。カンバチベット族集落が右岸に位置している場合、海拔最低点から最高点の距離が1000～2000mであり、高低差が200～600mであり、傾斜度が10～20°である。

縦断の場合、ムヤチベット族集落の海拔最低点から最高点の距離が3000～6000mであり、カンバチベット族集落の海拔最低点から最高点の距離が2000～4000mである。ムヤチベット族集落の高低差が0～100mであり、カンバチベット族集落の高低差が0～100mである。ムヤとカンバチベット族集落の傾斜度が同じく1°である。

集落の普遍的な内部特徴は以下の通りになる。3支系チベット族集落の道路は同じく国道、主要道路と小道で構成されている。集落と国道の関係から見ると、ギャロンチベット族が分離であり、ムヤとカンバチベット族が貫通である。国道が政府で整備され、利便性を優先している。主要道路と小道は民族特徴と日常生活習慣から考慮し、当地住民たちが造られた。3支系チベット族集落内の公共施設は同じく保健室、活動センター、広場、学校である。活動センター、保健室は政府の政策で全集落に設置され、集落範囲内の広い平地を広場として使っている。学校は郷を単位にしているため、多数の集落では学校が設置されていない。ギャロンチベット族集落の普遍的な水源が泉であり、ムヤとカンバチベット族が泉と川を水源としている。ギャロンチベット族集落の入り口は単数が基本であるが、ムヤとカンバチベット族集落の入り口は複数である。3支系チベット族の牧地は住居と農地の周りに分布し、住宅は1軒ずつか、もしくは何軒が隣接して建

っている。農地は各住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地されている。宗教施設は、寺、経堂、白塔であり、白塔はすべての集落に設置されている。

集落と隣村の関係は以下のようになっている。ギャロンチベット族の場合、稜線に挟まれた谷に1集落ずつ形成されるのが普遍であり、ムヤとカンバチベット族は複数の集落が隣接しているのが普遍的な特徴である。

表 6-1 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成の普遍的な特徴

				ギャロン	ムヤ	カンバ	
地形的特徴	平面	最低海拔		2000~2100m (表 3-5)	3500~3800m (表 4-7)	3400~3500m (表 5-6)	
		集落面積		0~10 km ² (表 3-6)	0~10 km ² (表 4-8)	0~10 km ² (表 5-7)	
		世帯数		50~100 (表 3-7)	50~100 (表 4-9)	0~50 (表 5-8)	
	断面	横断面	片岸	海拔最低点~ 最高点の距離	1000~2000m (表 3-9)	/	/
				高低差	300~600m (表 3-10)		
				傾斜度	0~10° (表 3-12)		
		両岸	左岸	海拔最低点~ 最高点の距離	/	1000~2000m (表 4-10)	1000~2000m (表 5-9)
				高低差		300~600m (表 4-11)	200~400m (表 5-10)
				傾斜度		10~20° (表 4-12)	10~20° (表 5-11)
			右岸	海拔最低点~ 最高点の距離		0~1000m (表 4-10)	1000~2000m (表 5-9)
高低差				0~300m (表 4-11)		200~600m (表 5-10)	
傾斜度				10~20° (表 4-12)		10~20° (表 5-11)	
縦断面	海拔最低点~ 最高点の距離		/	3000~6000m (表 4-13)	2000~4000m (表 5-12)		
	高低差			0~100	0~100m		

					(表 4-14)	(表 5-13)
			傾斜度		1° (表 4-15)	1° (表 5-14)
内部特徴	道路		道路の種類	国道、主要道路と小道	国道、主要道路と小道	国道、主要道路と小道
			集落と国道の関係	分離 (表 3-13)	貫通 (表 4-16)	貫通 (表 5-15)
	公共施設	活動センター		設置 (表 3-14)	設置 (表 4-17)	設置 (表 5-16)
		保健室		設置	設置	設置
		広場		設置	設置	設置
		学校		集落範囲内なし	集落範囲内なし	集落範囲内なし
	集落中心地			集中&分散 (表 3-15)		
	水源			泉 (表 3-16)	川と泉 (表 4-18)	川と泉 (表 5-18)
	入口			単数 (表 3-18)	複数 (表 4-19)	複数 (表 5-19)
	農地、住居と牧地の分布	農地、住居		散住 (表 3-20)	散住 (図 4-3)	散住 (表 5-21)
		牧地		住居と農地の周りに分布	住居と農地の周りに分布	住居と農地の周りに分布
	宗教施設	経堂		設置 (表 3-21)	設置 (表 4-21)	設置 (表 5-22)
		白塔		設置	設置	設置
		寺		設置	集落範囲内なし	集落範囲内なし
		集落と寺の位置関係				遠方
集落と川 ^{注)} の位置関係			川が集落範囲外 (表 3-24)	川が集落範囲を縦断 (表 4-22)	川が集落範囲外 (表 5-17)	
集落と隣村の位置関係			独立 (表 3-19)	隣接 (表 4-20)	隣接 (表 5-20)	

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

6.2.2 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成普遍的特徴の共通点

調査したギャロン、ムヤ、カンバチベット族の空間構成普遍的な特徴の共通点は以下の通りになる（表6-2）。

3支系チベット族集落の地形的な特徴から見ると、集落の面積が0～10 km²である。内部特徴から見ると、道路は国道、主要道路と小道で構成されている。公共施設の活動センター、保健室、広場が全集落に設置され、集落範囲内に学校が設置されていない。住宅は集落範囲内で一つか、もしくは何軒が隣接し分布し、農地は各住宅の周囲もしくは住宅に近接して整地されている。牧地は固定せず、住居と農地の周りに分布している。宗教施設の場合、経堂と白塔が全集落に設置している。

表6-2 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成普遍的特徴の共通点

			ギャロン、ムヤ、カンバ
地形的特徴	平面	集落面積	0～10km ²
内部特徴	道路	道路の種類	国道、主要道路と小道で構成
	公共施設	活動センター	設置
		保健室	設置
		広場	設置
		学校	集落範囲内なし
	農地、住居と牧地の分布	農地、住居	散住
		牧地	住居と農地の周りに分布
	宗教施設	経堂	設置
	白塔	設置	

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

6.3.3 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成普遍的特徴の相違点

調査したギャロン、ムヤ、カンバチベット族の空間構成の相違点は以下の通りになる（表6-3）。

平面から見ると、ギャロンチベット族の集落最低海拔が2000m程度であり、3支系チベット族の中で一番低い。ムヤチベット族の集落最低海拔が3500～3800mであり、カンバチベット族の集落最低海拔が3400～3500mであり、比較的に高い海拔に集落が位置している。ギャロン、ムヤチベット族集落の世帯数が50～100世帯であり、カンバチベット族集落の世帯数が0～50となっている。集落が分布している海拔、集落の世帯数が地形の影響を受けていると考える。カンゼチベット族が四川盆地からチベット高原に上っていく横断山脈に位置し、ギャロンチベット族が横断山脈の低海拔地区に暮らして、ム

ヤ、カンバチベット族が高海拔地区に暮らしている。三つのチベット族集落の最低海拔がギャロン<カンバ<ムヤとなっている。山間部であり、利用可能な土が少ないため、世帯数もほぼ100世帯以下となっている。

断面から見ると、ギャロンチベット族の集落が川の片岸に位置して、海拔最低点から最高点の距離が1000~2000mであり、高低差が300~600mであり、傾斜度が0~10°となっている。ムヤチベット族、カンバチベット族の集落が川の両岸に位置している。左岸に位置している場合、ムヤチベット族、カンバチベット族集落の海拔最低点から最高点の距離が1000~2000mであり、傾斜度が10~20°である。高低差が300~600m(ムヤ)と200~400m(カンバ)である。右岸に位置している場合、ムヤチベット族、カンバチベット族集落の傾斜度が10~20°である。海拔最低点から最高点の距離が0~1000m(ムヤ)と1000~2000m(カンバ)であり、高低差が0~300m(ムヤ)と200~600m(カンバ)である。縦断の場合、ムヤチベット族とカンバチベット族集落の高低差が同じく0~100mであり、傾斜度が1°である。海拔最低点から最高点の距離が3000~6000m(ムヤ)と2000~4000m(カンバ)である。

集落内部特徴の相違点は以下の通りになる。集落と国道の関係から見ると、分離(ギャロン)と貫通(ムヤ、カンバ)である。水源が泉専用(ギャロン)、泉と川併用(ムヤ、カンバ)である。入口が単数(ギャロン)、複数(ムヤ、カンバ)である。宗教施設から見ると、寺が集落範囲内に設置(ギャロン)、集落範囲内ない(ムヤ、カンバ)の2種類となっている。

集落と川(本川)の関係は分離(集落範囲外の場合:ギャロン、カンバ)と縦断(集落範囲を縦断:ムヤ)である。カンバチベット族集落の範囲内、本川がないが、支川があるのは普遍である。

集落と隣村の関係は独立(ギャロン)と隣接(ムヤ、カンバ)である。

ギャロンチベット族の集落が川の片岸、斜面に位置し、集落と国道が分離し、泉を水源とされ、入口が単数の原因は以下のように推測している。その一、ギャロンチベット族集落は部落戦争が多いため、片岸、斜面のほうは防御性が高くて安全だと思う。その二、地形から見ると、ギャロンチベット族集落が位置している丹巴県は、斜面が激しい山間部であり、河川が数多くて、昔から水害が多発しているため、川から離れて集落を建造している。その三、集落範囲内には泉があり、農業で自給自足しているため、交通の便利性、水源、入口より集落の独立性と安全性を優先している。

ムヤ、カンバチベット族の集落が川の両岸、斜面に位置し、国道が集落を貫通し、泉と川を併用し、入口が複数の原因が以下のように推測している。斜面に位置しているが、元々高海拔地域であり、川沿いに建造すると比較的の海拔が低い。また、使える土地が少ないため、各集落が隣接して分布するのが多い。

表 6-3 ギャロン、ムヤ、カンバチベット族集落空間構成普遍的特徴の相違点

				ギャロン	ムヤ	カンバ	
地 形 的 特 徴	平面	最低海拔		2000~2100m	3500~3800m	3400~3500m	
		世帯数		50~100		0~50	
	断面	横断面	片岸	海拔最低点~ 最高点の距離	1000-2000m	/	/
				高低差	300-600m		
				傾斜度	0-10°		
		両岸	左岸	海拔最低点~ 最高点の距離	/	1000~2000m	
				高低差		300~600m	200~400m
				傾斜度		10~20°	
			右岸	海拔最低点~ 最高点の距離		0~1000m	1000~2000m
				高低差		0~300m	200~600m
				傾斜度		10~20°	
		縦断面		海拔最低点~ 最高点の距離	/	3000~6000m	2000~4000m
			高低差	0~100m			
		傾斜度	1°				
内 部 特 徴	道路		集落と国道の 関係	分離	貫通		
	水源			泉	川と泉		
	入口			単数	複数		
	宗教施設	寺		設置	集落範囲内になし		
集落と川の位置関係				川が集落範 囲外	川が集落範 囲を縦断	川が集落範 囲外	
集落と隣村の位置関係				独立	隣接		

「現地調査、ヒヤリング調査」をもとに筆者作成

6.3 今後の課題

本研究では、四川省カンゼチベット族自治区のギャロン、ムヤ、カンバチベット族を対象として、チベット族3支系の集落空間構成を分析した。本研究を踏まえて、今後の課題は以下となる。

- 1) ギャロン、ムヤ、カンバチベット族の集落が数多くて、本研究が調査した集落以

外、また沢山の集落が調べていない。今後は続いて他の集落を調査して、3支系チベット族集落の空間構成特徴をまとめ、普遍的な集落空間構成特徴をもっと明らかにする。

2) 藏彝走廊は多民族が雑居している区域として、今回調査した3支系のチベット族以外にも安多(アム)チベット族、白馬(バイマ)チベット族、ムヤチベット族以外の雅砻江流域及びその東部「地脚話」を使用しているチベット族が暮らしている。それらの支系の集落空間構成特徴を明らかにしたい。

3) 本研究から見ると、川、国道と集落の位置関係における集落の類型分けができたと思っているが、チベット族はほぼ全員が宗教を信仰している為、寺の位置、集落と宗教施設の位置関係などからも分類できると推測し、今後はこれらの要因を踏まえて、調査を続けたい。

4) カンゼチベット族自治区チベット族支系の集落に関する伝統集落の保護、現代化と共に伝統集落がどのように変化しているかを明らかにしたい。



資料
本論に関する公表・投稿論文一覧
謝辞

本論に関する公表・投稿論文一覧

◆ 審査論文


論文題目	著者	発表機関	掲載年月	関連章
ギャロンチベット族集落の空間構成について —四川省カンゼチベット族自治州を対象として—	王雪桔 中山徹	日本建築学会計画系 論文集, 第 87 卷, 第 802 号	2022 年 12 月	第 3 章
ムヤチベット族集落の空間構成について —四川省カンゼチベット族自治州を対象として—	王雪桔 中山徹	奈良女子大学家政学 研究, 138 号	2023 年 3 月	第 4 章
カンバチベット族集落の空間構成について —四川省カンゼチベット族自治州を対象として—	王雪桔 中山徹	日本建築学会計画系 論文集, 第 88 卷, 第 808 号	2023 年 6 月	第 5 章

◆ 国際学会発表

発表題目	著者	発表機関	発表年月
The Investigation on Tibetan Villages in Garzê Tibetan Autonomous Prefecture, Sichuan Province, China	Xueju WANG Toru NAKAYAMA	第 26 回国際家政学会 (IFHE)	2016 年 8 月
The Investigation on Tibetan Villages in Garzê Tibetan Autonomous Prefecture, Sichuan Province, China	Xueju WANG Toru NAKAYAMA	第 21 回アジア地区家政学会 (ARAHE)	2019 年 8 月

◆ 学会発表

発表題目	著者	発表機関	発表年月
四川省・チベット族集落の空間構成について-ム ヤ・カンバ・ギャロンチベット族集落比較研究-	王雪桔 中山徹	日本建築 学会	2018年9月
カンバチベット族集落の空間構成について-四川 省カンゼチベット族自治州を対象として-	王雪桔 中山徹	日本建築 学会	2022年9月
四川省・チベット族集落の空間構成について-ム ヤ・カンバ・ギャロンチベット族集落比較研究-	王雪桔 中山徹	日本建築 学会	2023年9月



謝辞

本研究を進めるにあたり、多くの方々にご指導、ご協力頂きまして、心から感謝し、御礼申し上げます。

最後まで丁寧なご指導とご助言を頂きました、奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科教授 中山徹先生には深く感謝申し上げます。また調査にご協力頂いた当地住民の皆様にお礼申し上げます。多くのアドバイスや協力を頂き、お世話になった研究室の皆様にも感謝申し上げます。

修士課程から9年を経て、途中で何回も諦めることを考えているが、卒業まで頑張って来て、自分の努力だけじゃなく、周りの人達も助かってくれ、応援してくれて、心から感謝申し上げます。